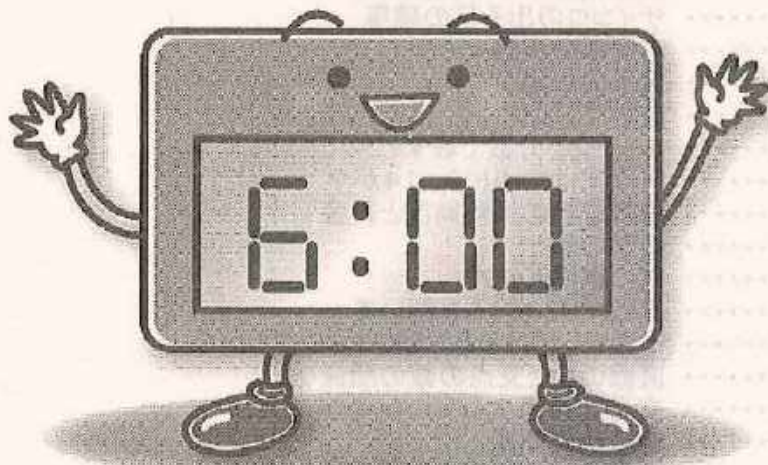


# 3年 A組

21-A  
 22-A  
 23-A  
 24-A  
 25-A  
 26-A  
 27-A  
 28-A  
 29-A  
 30-A  
 31-A  
 32-A  
 33-A  
 34-A  
 35-A  
 36-A  
 37-A  
 38-A  
 39-A  
 40-A  
 41-A  
 42-A  
 43-A  
 44-A  
 45-A  
 46-A  
 47-A  
 48-A  
 49-A  
 50-A  
 51-A  
 52-A  
 53-A  
 54-A  
 55-A  
 56-A  
 57-A  
 58-A  
 59-A  
 60-A  
 61-A  
 62-A  
 63-A  
 64-A  
 65-A  
 66-A  
 67-A  
 68-A  
 69-A  
 70-A  
 71-A  
 72-A  
 73-A  
 74-A  
 75-A  
 76-A  
 77-A  
 78-A  
 79-A  
 80-A  
 81-A  
 82-A  
 83-A  
 84-A  
 85-A  
 86-A  
 87-A  
 88-A  
 89-A  
 90-A  
 91-A  
 92-A  
 93-A  
 94-A  
 95-A  
 96-A  
 97-A  
 98-A  
 99-A  
 100-A



1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100

2年目の生活の振り返り  
 3年目の生活の振り返り  
 4年目の生活の振り返り  
 5年目の生活の振り返り  
 6年目の生活の振り返り  
 7年目の生活の振り返り  
 8年目の生活の振り返り  
 9年目の生活の振り返り  
 10年目の生活の振り返り  
 11年目の生活の振り返り  
 12年目の生活の振り返り  
 13年目の生活の振り返り  
 14年目の生活の振り返り  
 15年目の生活の振り返り  
 16年目の生活の振り返り  
 17年目の生活の振り返り  
 18年目の生活の振り返り  
 19年目の生活の振り返り  
 20年目の生活の振り返り  
 21年目の生活の振り返り  
 22年目の生活の振り返り  
 23年目の生活の振り返り  
 24年目の生活の振り返り  
 25年目の生活の振り返り  
 26年目の生活の振り返り  
 27年目の生活の振り返り  
 28年目の生活の振り返り  
 29年目の生活の振り返り  
 30年目の生活の振り返り  
 31年目の生活の振り返り  
 32年目の生活の振り返り  
 33年目の生活の振り返り  
 34年目の生活の振り返り  
 35年目の生活の振り返り  
 36年目の生活の振り返り  
 37年目の生活の振り返り  
 38年目の生活の振り返り  
 39年目の生活の振り返り  
 40年目の生活の振り返り  
 41年目の生活の振り返り  
 42年目の生活の振り返り  
 43年目の生活の振り返り  
 44年目の生活の振り返り  
 45年目の生活の振り返り  
 46年目の生活の振り返り  
 47年目の生活の振り返り  
 48年目の生活の振り返り  
 49年目の生活の振り返り  
 50年目の生活の振り返り  
 51年目の生活の振り返り  
 52年目の生活の振り返り  
 53年目の生活の振り返り  
 54年目の生活の振り返り  
 55年目の生活の振り返り  
 56年目の生活の振り返り  
 57年目の生活の振り返り  
 58年目の生活の振り返り  
 59年目の生活の振り返り  
 60年目の生活の振り返り  
 61年目の生活の振り返り  
 62年目の生活の振り返り  
 63年目の生活の振り返り  
 64年目の生活の振り返り  
 65年目の生活の振り返り  
 66年目の生活の振り返り  
 67年目の生活の振り返り  
 68年目の生活の振り返り  
 69年目の生活の振り返り  
 70年目の生活の振り返り  
 71年目の生活の振り返り  
 72年目の生活の振り返り  
 73年目の生活の振り返り  
 74年目の生活の振り返り  
 75年目の生活の振り返り  
 76年目の生活の振り返り  
 77年目の生活の振り返り  
 78年目の生活の振り返り  
 79年目の生活の振り返り  
 80年目の生活の振り返り  
 81年目の生活の振り返り  
 82年目の生活の振り返り  
 83年目の生活の振り返り  
 84年目の生活の振り返り  
 85年目の生活の振り返り  
 86年目の生活の振り返り  
 87年目の生活の振り返り  
 88年目の生活の振り返り  
 89年目の生活の振り返り  
 90年目の生活の振り返り  
 91年目の生活の振り返り  
 92年目の生活の振り返り  
 93年目の生活の振り返り  
 94年目の生活の振り返り  
 95年目の生活の振り返り  
 96年目の生活の振り返り  
 97年目の生活の振り返り  
 98年目の生活の振り返り  
 99年目の生活の振り返り  
 100年目の生活の振り返り



## 中学校

# Aクラス 目次

番号	氏名	タイトル	ページ
1		..... 数学の魅力	A- 1
2		..... 問題を解いて	A- 5
3		..... 場合の数・確率	A- 8
4		..... スムースとラフの確率	A- 12
5		..... 数学っておもしろい!	A- 16
6		..... 円周率は本当に3.14になっているのか?	A- 20
7		..... 三目並べ	A- 24
8		..... 上田一摩の数学レポート	A- 30
9		..... 人間と数学	A- 33
10		..... 円すいの体積を求める	A- 36
11		..... 1cm四方の正方形の中に無限の長さをもつ曲線をかく	A- 40
12		..... 大阪ガスの料金表・グラフ	A- 43
13		..... 年号と西暦の関係	A- 46
14		..... 推測を必要とする問題に挑戦する	A- 50
15		..... 年齢の公式	A- 56
16		..... 自然数の性質	A- 59
17		..... ガブリエルの原理と等脚台形	A- 62
18		..... 慶應義塾大学の問題を解いて	A- 65
19		..... サイコロの出る目の確率	A- 69
20		..... 円周率の実験	A- 73
21		..... 数学の広場	A- 76
22		..... 数学マジック	A- 79
23		..... ルート2を分数で表す	A- 82
24		..... 円周率は本当に3.14か?	A- 85
25		..... 携帯電話の通話時間と料金	A- 87
26		..... 数学の森	A- 93
27		..... 式の展開と公式	A- 97
28		..... 算数オリンピックを解いて	A- 100
29		..... 借金をし続けると総額いくらになるか?	A- 106
30		..... 直線の数と交点の数の関係	A- 111
31		..... 交点は何個?	A- 114
32		..... 挑戦状の問題	A- 117
33		..... 数学オリンピックの問題3つ	A- 120
34		..... 2乗の和の公式を求める	A- 125
35		..... サイコロの出る目の確率確率	A- 129
36		..... 「金をくれ」・「直線の交点」	A- 133
37		..... 円周率について	A- 137
38		..... アキレスとカメ	A- 140
39		..... 9について	A- 144
40		..... 因数分解公式の相互関係	A- 147
41		..... サイコロを1000回振って本当に確率が1/6になるか	A- 151
42		..... 道の長さとの面積	A- 155
43		..... 一筆書きが可能なときの条件	A- 158
44		..... エンピツ(六角エンピツ)を700回振って出る目の確率	A- 161

# 数学の魅力

レポートのあらすじ・取り組み

便利な計算術、数学の小ネタを本やインターネット、身の周りにあるものを参考にしてまとめました。

参考: 16年度受験用 甲南高等学校過去問(久保雄一)(芳林社)

徹底演習テキスト 中3 数学, サクサクスラスラベム! 速算術(中村義作)(日本実業出版社)  
インターネットなどいろいろのまにか知っていた、自分の知識

レポートの内容

## I. 関数 $y = ax^2$ などの変化の割合を一瞬で求める

\*(参考 徹底演習テキスト 中3 数学)

。教科書などに載っている、変化の割合の求め方は、

$$\text{変化の割合} = \frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}} = \frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1} \text{ である。}$$

例として上の解き方で「徹底演習テキスト 中3 数学」の P93 の 264 の (2)

[関数  $y = 2x^2$  について、 $x$  の値が 3 から 5 まで増加するときの変化の割合を求めなさい。]  
を解いてみると  $x = 3$  のとき  $y = 18$   $x = 5$  のとき  $y = 50$

$$\frac{50 - 18}{5 - 3} = \frac{32}{2} = 16 \quad \text{となり } \underline{A16}$$

しかし、こんな事をしなくても  $2(3+5) = 16$

A16

同じ

この方法は、「徹底演習テキスト 中3 数学」の「解答編」の

P36 の 左下の (コ-4) という覧で載っていたものだ。

少し引用すると、[2乗に比例する関数  $y = ax^2$  について、 $x$  の値が  $p$  から  $q$  まで増加する時の変化の割合を求めてみると、

$$\text{変化の割合} = \frac{aq^2 - ap^2}{q - p} = \frac{a(q+p)(q-p)}{q-p} = a(q+p)$$

## II. 掛ける数、掛けられる数も11~19までの場合

- 例として、 $12 \times 14$ の計算をするとする。

答えは、三ケタの数字になるはずである。そこで、まず百の位は、何んでもいいから「1」を書く。次に十の位は、掛ける数の末位の数字を足した数にする。この例では、「 $2+4$ 」の計算をして「6」を書く。答えの最後のケタは掛ける数と掛けられる数の一の位を掛けたものにする。つまり、「 $2 \times 4$ 」で「8」。

これだけの計算で  $12 \times 14 = 168$  と答えが求まる。

$$\begin{array}{l}
 4 \quad 12 \times 14 = 168 \\
 \left. \begin{array}{l} \rightarrow 2+4 \text{ を加える} \\ \rightarrow 2 \text{ にかく } 4 \text{ による} \\ \rightarrow 2 \times 4 \text{ を掛ける} \end{array} \right\}
 \end{array}$$

- $19 \times 17$  などの計算では、 $9+7$ の足し算と最後の掛け算のところで繰り上がりがおこる。  $19 \times 17 = 323$

? 何故なのかな? (理由)

$$\begin{array}{l}
 (10+a)(10+b) = 100 + 10(a+b) + ab \\
 \begin{array}{ccc}
 \downarrow & \downarrow & \downarrow \\
 \text{百の位} & \text{十の位} & \text{一の位} \\
 10 & a+b & a \times b
 \end{array}
 \end{array}$$

## III. $36 \times 34$ を2秒で計算する方法

(十の位が同じで一の位が足して十になる数を掛ける)

- たとえば、 $36 \times 34$ の答えは四ケタになる。上の二ケタは  $3 \times (3+1)$  で12、下二ケタは  $6 \times 4$  で24。答えは1224。  
 上二ケタは十の位の数とそれに1加えた数を掛ける。  
 下二ケタは単純にそれぞれの一の位の数をかける。 $62 \times 68$ の場合、上の二ケタが  $6 \times (6+1)$  で42、下二ケタは  $2 \times 8$  で16。

$$\begin{array}{l}
 \text{例} \\
 \begin{array}{r}
 36 \\
 \times 34 \\
 \hline
 1224
 \end{array}
 \end{array}$$

$\rightarrow 6 \times 4$   
 $\rightarrow 3 \times (3+1)$

どちらも十の位の数がいっしょで、一の位が足して10になる数をかけている。

### III. $36 \times 34$ を 2秒で計算する方法!! (ツブエ)

? 何故なのか?

$$(10x+a)(10x+b)$$

$$= 100x^2 + 10(a+b)x + ab$$

$x$  = 10の位の数

$a, b$  は

それぞれの数の  
一の位の数

$$= 100x^2 + 100x + ab = \underbrace{100x(x+1)}_{x=19 \text{ は } 20(x+1)} + \underbrace{ab}_{x=19 \text{ は } ab}$$

### IV. $63 \times 43$ も秒単位で計算する方法!!

この場合の式の条件は、十の位が足して10になるであり、一の位は同じ数になっている。

それぞれの数の十の位を  $a, b$  とし、一の位を  $x$  とする。

この例でいうと、 $a=6, b=4, x=3$  となる。ズバリ、筆力直入に説明すると、上の二ケタの数は「 $ab+x$ 」で下二ケタは「 $x^2$ 」である。

この場合、 $6 \times 4 + 3$  で上の二ケタは 27。下二ケタは  $3 \times 3$  で 09。

この時、9をその科書いてはいけな。よって答えは、2709となる。

$$\begin{array}{r} 63 \\ \times 43 \\ \hline 2709 \\ \text{①} \quad \text{②} \end{array}$$

①  $\rightarrow 6 \times 4 + 3 = 27$   
②  $\rightarrow 3 \times 3 = 9 \rightarrow 09$

? 何故なのか?

$$(10a+x)(10b+x) = 100ab + 10(a+b)x + x^2$$

$$= 100ab + 100x + x^2$$

$$= 100(ab+x) + x^2 \text{ となる}$$

応用 ①  $63 \times 53 = 63 \times (43 + 10) = 63 \times 43 + 63 \times 10 = 2709 + 630 = 3339$   
②  $63 \times 44 = 63 \times 43 + 63 = 2709 + 63 = 2772$

### ★ V. 自然数 A の各位の数を例のように交互に加減して計算した数が 11 の倍数であれば、A は 11 の倍数である。(甲南高校入試過去問)

(例) A が 91234 の場合

→ 平成 15 年度 (JRA) 問 4

$$9 - 1 + 2 - 3 + 4 = 11 \rightarrow 11 \text{ の倍数} \quad 91234 = 11 \times 8294$$

(証明) 5ケタの自然数の各位と左の数が5順に  $a, b, c, d, e$  とする。すると、

この自然数は  $10000a + 1000b + 100c + 10d + e$  と表せる。また仮定より、  
 $a - b + c - d + e$  は 11 の倍数。そこで、 $a - b + c - d + e = 11m$  ( $m$  は自然数) と表せる。  
 $10000a + 1000b + 100c + 10d + e = (9999+1)a + (1001-1)b + (99+1)c + (11-1)d + e$   
 $= 9999a + 1001b + 99c + 11d + (a - b + c - d + e) = 11(909a + 91b + 9c + d) + 11m$   
 $= 11(909a + 91b + 9c + d + m) \leftarrow (\quad) \text{ の中は自然数だから } 11(909a + 91b + 9c + d + m)$

よって、この5ケタの自然数は 11 の倍数である。

## VI. 数字和を使った掛け算の検算!!

- 桁位置に関係なく、それぞれの位の数字を足し合わせる。  
これで、求まる合計を数字和と呼ぶ。このVIの検算では、数字和が9以下、  
一ケタになるまで、数字和を求めて検算する。

公式 → 掛けられる数の数字和 × 掛ける数の数字和 = 答えの数字和

$$\begin{array}{r} (1) \ 47 \longrightarrow 4+7=11 \longrightarrow 1+1=2 \\ \times 31 \longrightarrow 3+1=4 \\ \hline 1457 \longrightarrow 1+4+5+7=17 \longrightarrow 1+7=8 \end{array} \quad \begin{array}{l} \longrightarrow 2 \times 4 = 8 \\ \longrightarrow 1+7 = 8 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} (2) \ 466 \longrightarrow 4+6+6=16 \longrightarrow 1+6=7 \\ \times 132 \longrightarrow 1+3+2=6 \\ \hline \dots 932 \\ \dots 1398 \\ \dots 466 \end{array} \quad \begin{array}{l} \longrightarrow 7 \times 6 = 42 \\ \longrightarrow 4+2 = 6 \end{array}$$

$$61512 \longrightarrow 6+1+5+1+2=15 \longrightarrow 1+5=6$$

## VII. 数字和による割り算の検算!!

- 数字和で割り算の検算をする場合には、まず、割られる数の数字和を求めておく。一方で割る数の数字和と商の数字和をそれぞれ計算する。そして、割る数の数字和と商の数字和とを掛け合わせた数の数字和に余りの数字和を加える。どの段階でも、数字和は、一ケタになるまで計算を続ける。最後にこうして出てきた数字和と割られる数の数字和とを照らし合わせ、一致していれば、計算は正しい。

$$\begin{array}{r} 623 \div 18 = 34 \dots 11 \\ 6+2+3=11 \quad 1+8=9 \quad 3+4=7 \\ \hline 1+1=2 \quad 9 \times 7 = 63 \longrightarrow 6+3=9 \quad 1+1=2 \\ \hline 9+2=11 \end{array}$$

合致する

# 問題を解いて

## レポートのあらすじ・取り組み

クレジットは金利を電卓を使わずに計算したのでしんどかった  
鉛筆回しは補助線を見つけるのがしんどかった。

## レポートの内容

<1ヶ月目>

クレジット

ハナコエムカード会社から20万円借金をしました。月利3%翌月一括払いとします。

<2ヶ月目>

他のカード会社から20万と金利分と生活費5万円を借りて返済しました。  
また翌月他の会社から借りて返さなければなりません。

<以後>

毎月これを繰り返します

(1)

実際ハナコが借りて使った借金の総額はいくらでしょう

$$\text{金額} = 22482368$$

(2) 24ヶ月までに、金利を払うため借りた借金の総額はいくらでしょう

$$\begin{aligned} &6000 + 7680 + 9410 + 11192 + 13028 + 14919 + 16867 + 18872 \\ &+ 20939 + 23067 + 25259 + 27517 + 29842 + 32237 + 34795 \\ &+ 37338 + 39959 + 42658 + 45437 + 48300 + 51249 + 54286 \\ &+ 57415 + 60637 = 728903 \end{aligned}$$

(3) 1社から借り入れられる限度額が20万円だとすると、24ヶ月間に  
ハナコは何社から借金をする必要がありますか

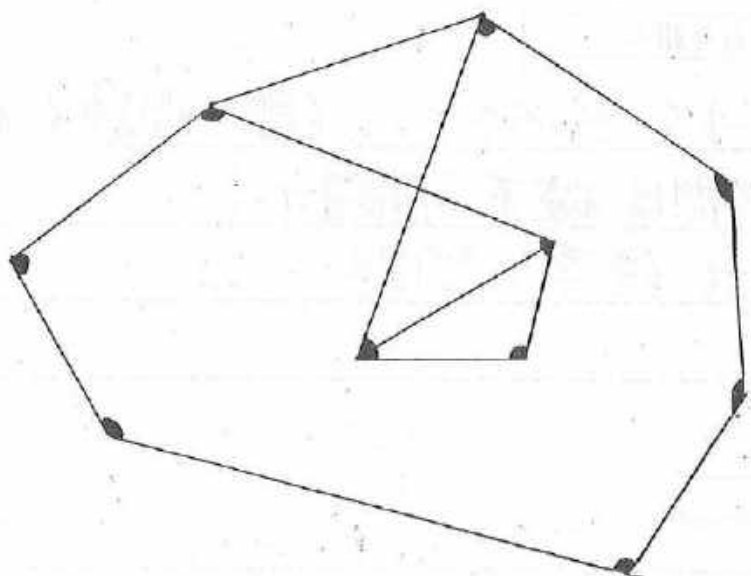
$$22482368 \div 200000 \approx 112$$

112社

ハナコさんの返済額算の金利表

1ヶ月目	200,000	6,000	200,000
2ヶ月目	256,000	7,680	50,000
3ヶ月目	313,680	9,410	50,000
4ヶ月目	373,090	11,192	50,000
5ヶ月目	434,282	13,028	50,000
6ヶ月目	497,310	14,919	50,000
7ヶ月目	562,229	16,867	50,000
8ヶ月目	629,096	18,872	50,000
9ヶ月目	697,968	20,939	50,000
10ヶ月目	768,907	23,067	50,000
11ヶ月目	841,974	25,259	00,000
12ヶ月目	917,233	27,517	50,000
13ヶ月目	994,740	29,842	50,000
14ヶ月目	1,074,582	32,237	50,000
15ヶ月目	1,159,819	34,795	50,000
16ヶ月目	1,244,613	37,338	50,000
17ヶ月目	1,331,951	39,959	50,000
18ヶ月目	1,421,910	42,658	50,000
19ヶ月目	1,514,567	46,437	50,000
20ヶ月目	1,610,004	48,300	50,000
21ヶ月目	1,708,804	51,249	50,000
22ヶ月目	1,809,553	54,236	50,000
23ヶ月目	1,913,839	57,415	50,000
24ヶ月目	2,021,254	60,637	50,000





次の図の黒く印のついた10個の角度の和は何度になりますか。

補助線 AG, HJ を引く. AG を引くと7角形になる

$$\angle HJK + \angle KHJ = \angle GKJ \dots ①$$

$$\angle KAG + \angle KGA = \angle GKJ \dots ②$$

①, ②より,  $\angle HJK + \angle KHJ = \angle KAG + \angle KGA$  といえる

$\triangle HJI$  の内角の和は  $180^\circ$  なので

$$180 \times 5 + 180 = 1080$$

$$\underline{A \ 1080^\circ}$$

# 数学のレポート(場合の数・確立)

## レポートのあらすじ・取り組み

僕は、このレポートをつくるまでに、6問の問題をインターネットから選び、4問は確率の問題です。  
このレポートもすべて、確率の問題にしました。

## レポートの内容

パソコンの問題 → 2問  
(数学の部屋) (確立の問題 1問)  
(場合の数 1問)

数学の教科書の「数学の森」から確立の問題  
1問。

問題1

ご存知、サッカーチームのリアル・マドリードのロナウド、ベッカム、ジダン、フーゴらの4人の選手がフィギュアになり、ジュースのおまけとして付いてきます。

ここで、問題です。全部ほしくてジュースを4本買いました。フィギュアが全部そろった確率は？

解) ロナウド=ロ ベッカム=ベ ジダン=ジ フーゴ=フ と略

すべてそろ...  
 ① ロロロロ①、ベベベベ②、ジジジジ③、フフフフ④

一つが...  
 ⑤ ロロロベ⑤、ベベベロ⑥、ジジジロ⑪、フフフロ⑭  
 ⑥ ロロロジ⑥、ベベベジ⑦、ジジジベ⑫、フフフベ⑮  
 ⑦ ロロロフ⑦、ベベベフ⑩、ジジジフ⑬、フフフジ⑯

二つが...  
 ⑰ ロロベベ⑰、ベベロジ⑲、ジジロベ⑳、フフロベ㉓  
 ⑱ ロロベジ⑱、ベベロフ㉔、ジジロフ㉕、フフロジ㉗  
 ㉒ ロロベフ㉒、ベベジジ㉖、ジジベフ㉘、フフベジ㉚  
 ㉓ ロロジジ㉓、ベベジフ㉗、ジジフフ㉙  
 ㉔ ロロジフ㉔、ベベフフ㉖  
 ㉕ ロロフフ㉕

すべてそろ... ロベジフ ㉖

$$A. \frac{1}{35}$$

## 問題2

3本のうち当たりが1本入った箱があります。  
 1度引いたくじは戻さないことにし、AさんとBさんが引きます。1回目はAさん、2回目はBさんが引く。それぞれが当たりを引く確率を求めましょう。

<解>

当たりくじを○、はずれくじを×、△として解く

1回目	2回目		Aさんが当てる確率
○	×	Aさん当たり	$\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$
○	△		
×	○	Bさん当たり	$\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$
△	○		
△	×	A+Bとも引かず	$\frac{1}{3}$
×	△		

この結果から分かったことは、引く順番は関係ないことが分かった。

### 問題3

10000円札で10000円の品物を買ってお釣りをもらいます。  
お釣りはお札だけだとします。

今は、10000円札と5000円札の2種類があるだけですから、

- 5000円札 1枚 と 10000円札 4枚
- 10000円札 9枚 の2通りしかありません。

それでは新しい2000円札が発行され、10000円札、2000円札、5000円札の3種類となったとき、お釣りのもらい方は何通りあるでしょうか？

<解>

$$10000 - 10000 = 9000$$

- |              |   |                       |       |
|--------------|---|-----------------------|-------|
| ◦ 2000円札 2枚  | と | 5000円札 1枚             | } 6通り |
| ◦ 10000円札 7枚 | と | 2000円札 1枚             |       |
| ◦ " 5枚       | と | " 2枚                  |       |
| ◦ " 3枚       | と | " 3枚                  |       |
| ◦ " 1枚       | と | " 4枚                  |       |
| ◦ 10000円札 2枚 | と | 2000円札 1枚 と 5000円札 1枚 |       |

その2通りを足すと

$$6 + 2 = 8$$

A. 8通り

# スムースとラフの確率

## レポートのあらすじ・取り組み

テニスラケットを回して、スムースとラフが出る確率が  $\frac{1}{2}$  が実際に1000回回して調べたいと思います。

スムースとラフの意味はラケットの持つところの一番下に模様が書いてある。その模様が普通ならスムースでその逆がラフです。

バボラと  
言う模様



スムース      ラフ



ここに模様がある

## レポートの内容

今からスムースとラフの確率が  $\frac{1}{2}$  が1000回回します。

1~18回	⊗	⊗	⊙	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊗	⊗	⊗
19~36回	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊗	⊗	⊗	⊗	⊙
37回~54回	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗	⊗	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗	⊗	⊗
55回~72回	⊙	⊗	⊗	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗
73回~90回	⊗	⊗	⊗	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙
91回~108回	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗
109回~126回	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙
127回~144回	⊙	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙
145回~162回	⊙	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙
163回~180回	⊗	⊗	⊙	⊙	⊗	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊗	⊙	⊙
181回~198回	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊗	⊗
199回~216回	⊙	⊙	⊙	⊗	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊗	⊙	⊙	⊙	⊗	⊗	⊙	⊙	⊙

⊗ --- スムース

⊙ --- ラフ







・結果はラフが8回多かったです。

・なぜ、ラケットを回すのかと言うと、試合で先サーブを選ぶのか、それとも先リターンを選ぶのかのときに決めるためだからです。どちらかがラケットを回してどちらかが、スムーズかラフかをあててる。もしあたらふ自分の作戦でどっちをとるか決めておいて、どちらかを選びます。自分のサーブが今日調子が悪ければ、リターンを選らびそのおかげで勝てるかもしれないからです。ほぼ $\frac{1}{2}$ の確率でしたが試合ではラフを選びます。

・このレポートを言周べたおかげで、自分はラフのほうか少し多く出るこがわかりました。

終わり

# 数学っておもしろい！！

## レポートのあらすじ・取り組み

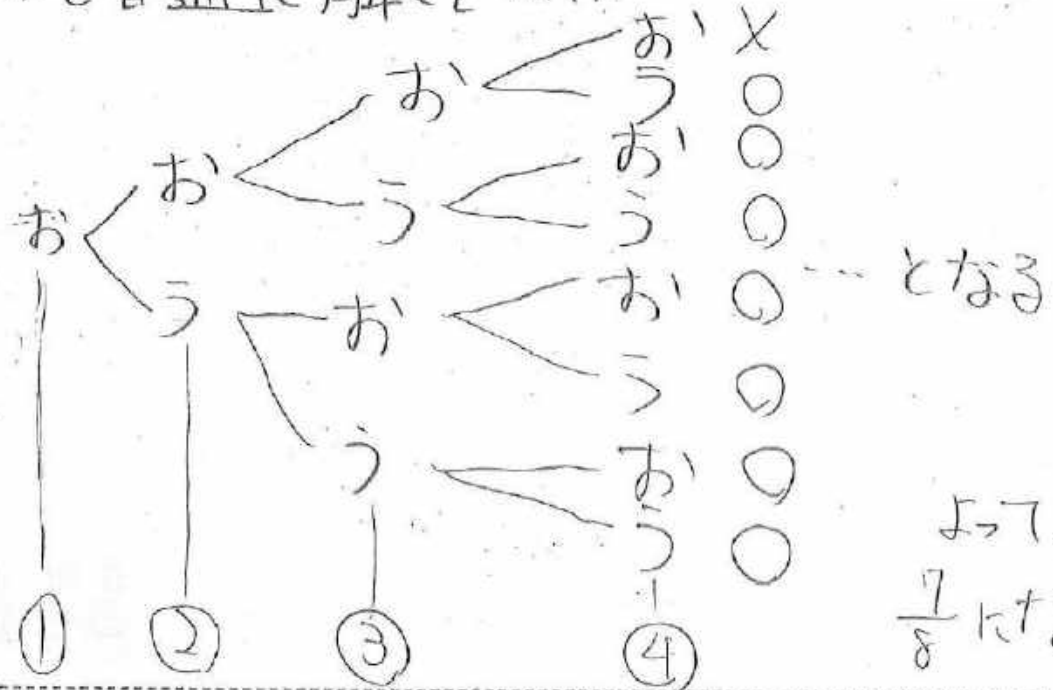
問題どおりには難しく、ちがう考え方でとくとすぐとける問題がある所に興味がありました

## レポートの内容

① 東京新書の中3の教科書のP.163の問題

Q. 4枚の硬貨を投げる時、少なくとも一枚は表の出る確立を求めなさい。

これを普通に解くと……

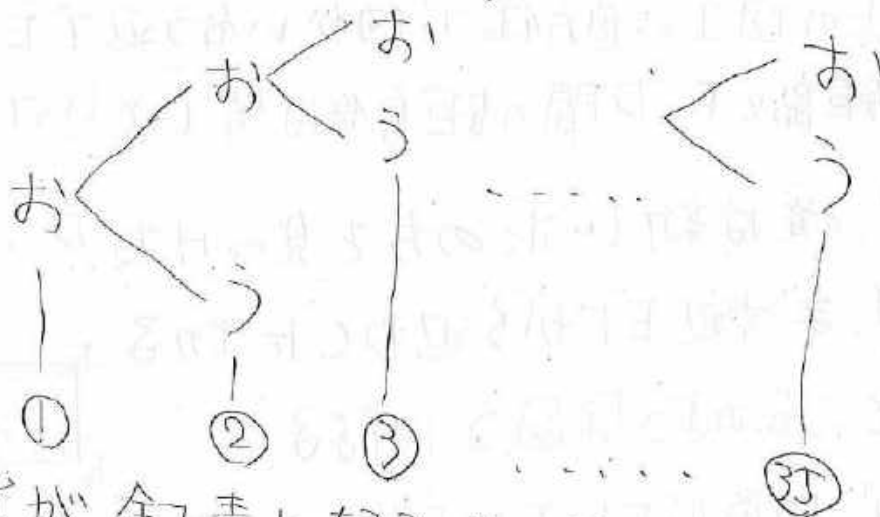


ほくはここで考えた！ 答えを出そうとしている物が、  
 答えじゃないより多いと思えば 答えを出そうとしてない  
 物を全体から引いた方が早いと思う！

さ、その問題ですと「少なくとも1枚は裏が出る」と  
 いうことは、「表, 表, 表, 表」にならないということ、  
 だから「 $1 - \frac{1}{8} = \frac{7}{8}$ 」ここで、公式が作れる。

「答えが起こる確立 =  $1 -$  答えが起こらない確立」  
 この公式は確立が多ければ多いほどいい。

例えば、硬貨が35枚の場合



硬貨が全て表になるのは 通りしかない。  
 全ての通りの数は

$$1 \times 2 \times 2 \times 2 \cdots \times 2 = 1 \times 2^{34}$$

① ② ③ ④ ③⑤

$$= 34359738368$$

ここで公式を使い

$$34359738368 - 1 = 34359738367$$

よって、 $\frac{1}{34359738367}$  がある!

この問題でわかったことは、問題を逆のことからしても早く解ける場合があるという事でした。苦勞した事は、「 $10^{34}$ 」を計算したことでした。

② 大日本図書の中3の教科書のP.132の問題

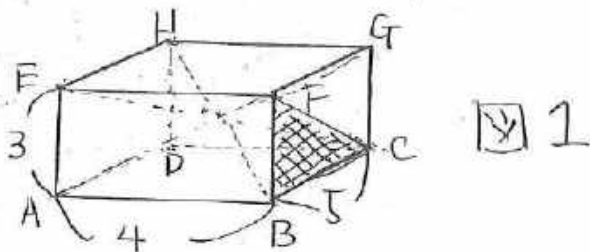


図1

Q1. 上の図1の直方体で向かい合う辺でE, C間の距離とF, D間の距離は等しいといえるか?

ここで、僕は新しい求め方を見つけた!

それは、まず辺EFから辺DCに切る。

すると、右のような図2になる。

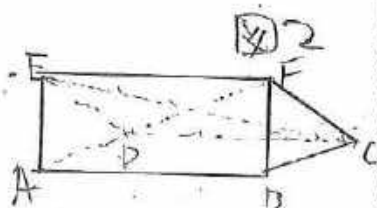


図2で、四角形EDCFはEDとCF, EFとDCが平行なので、長方形である。だから、長方形の対角線である。辺ECと辺FDは、同じ長さである。

よって、E, C間の距離とF, D間の距離は等しい。

Q2, 前のページの図で頂点、F、D間の距離を求めよ。

まず、EAが3だから、FBも3。

$$\triangle FBC \text{の斜辺は } 3^2 + 5^2 = x^2 \quad x = \sqrt{34}$$

$$\sqrt{34}^2 + 4^2 = y^2 \quad y = \sqrt{50} = 5\sqrt{2}$$

よって、FD間の距離は $5\sqrt{2}$ である。

この問題で苦労した所は、問題では長方形の図しか  
でていなかったのでも新しく自分で作って考えた所でした。

### ③ 大日本図書の中3の教科書のP.175 ⑤の問題

Q, マッチ棒で正方形を作りそれを並べて長方形の形にする

① 正方形の個数が $x$ 個の時の必要なマッチ棒の本数を  
 $y$ 本とする時、 $y$ は $x$ とどのような関係になるか?

まず、始めの正方形の辺は4本で次についていく正方形は3つで  
充分なので、しかも4は「3+1」だから、「 $y=3x+1$ 」です。

この式は、1次関数である。だから、「 $y=3x+1$ 」で1次関数である  
正方形では「 $y=3x+1$ 」でこれを分かりやすくすると

「 $y=(\text{辺の数}-1)x+1$ 」になる。だからこれは、何角形でも  
使える公式ということになる。

この問題が分かったことは、正方形を作った時でも何角形を  
作る時でも、始めにだけ

「マッチの本数 = (辺の数 - 1) × (何角形の個数) + 1」を使えること。

円周率は本当に3.14になっているか

レポートのあらすじ・取り組み

多くの人がやっている課題では  
おもしろくないので、すくなくそ  
うなやつをしようと思っ、これにした。

レポートの内容

円周率は本当に  
3.14になっているか

円周率とは？

円周の長さとその直径との比、  
または円の面積と半径の平方との比、

近似値は 3.14159

ギリシヤ文字で  $\pi$  (パイ) と表す

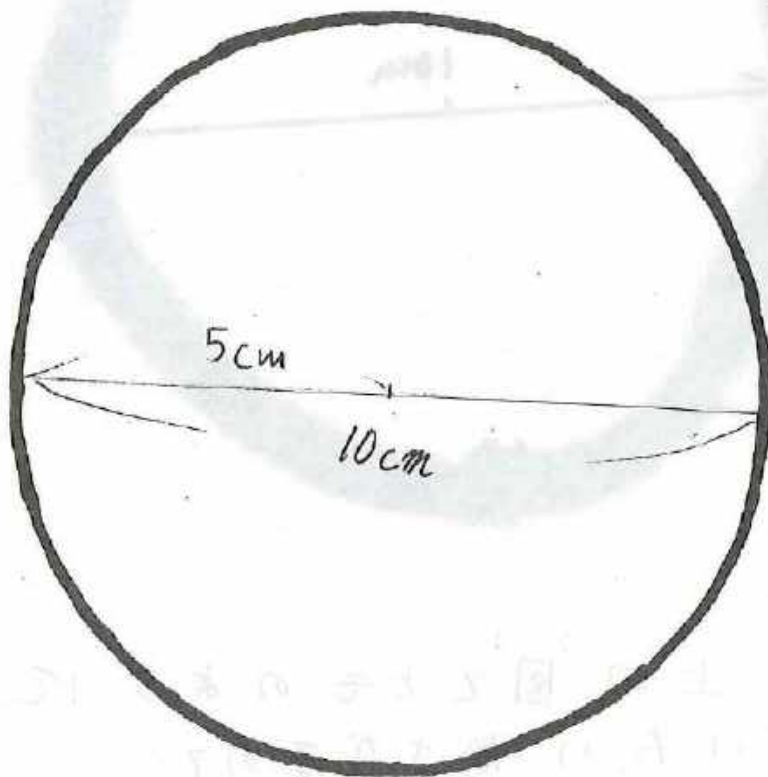
円周率が 3.14 になっている事

を、確かめるために、

下の図(直径10cm、半径5cm)の円で

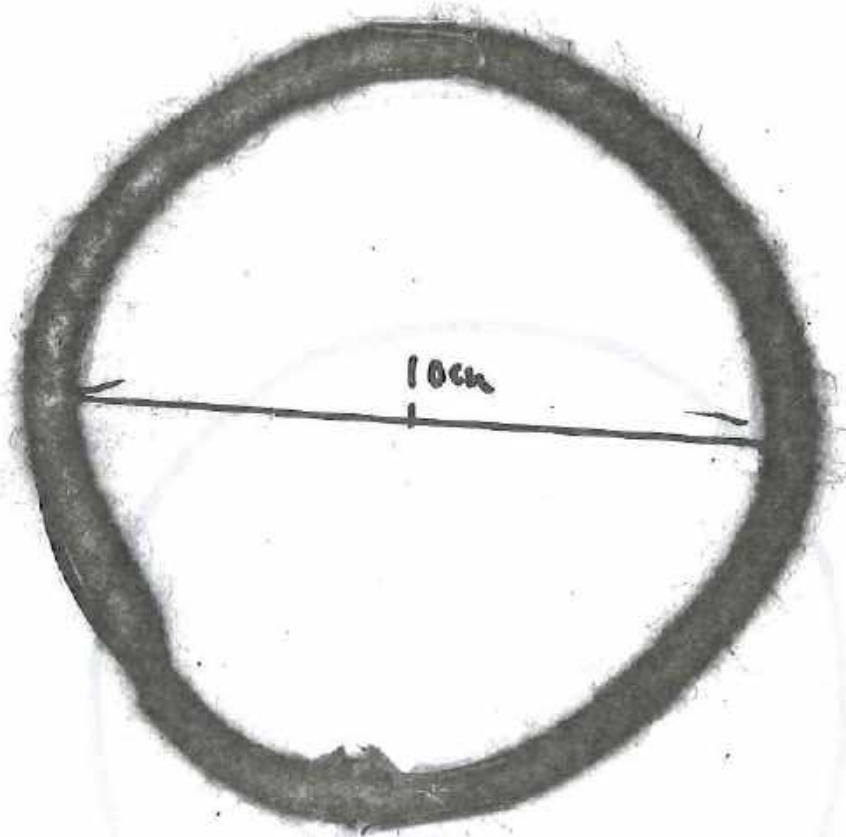
2つの方法をを使って

確かめたいと思う。



# 方法Ⅰ

細い糸を 方法  
31.4 にきって  
直径 10 cm の円にかぶせる



結果 上の図とヒモのようにな  
だいたいかさなるので

円周率は 3.14 ぐらいのことが  
わかった



# 方法Ⅰ

方法

最初に円の上にヒモを  
ズラさずにおき、円からはずし  
その長さをメジャーではかる。

3.14 ~ 3.15

結果

メジャーで計ると

3.14 ~ 3.15 だったので

やはり円周率は 3.14 くらいだと

わかった。

# 三目並べ

レポートのあらすじ・取り組み

休み時間などに三目並べをしていて必勝法を  
探してみたいと思って家庭教師の先生と話をしました。

レポートの内容

三目並べの必勝パターンの研究

# 3目並べ

この3目並べという題目は自分で必勝法を探してみたいというのを考え、それについて調べてレポートにしました。

## [3目並べとは?]

五目並べを簡単にしたような物。#とかいて、その隙間9カ所に順番に○、×をうめて、さきに縦横斜めの内どこかで3つ(1列)並べた方の勝ち。

まず、気がつくのは、ますが9つであるという事。順番にやるのだから、当然先攻が有利になってしまう。だから、先攻に必勝パターンがあるのかと思いました。

まず、升目に左上から1~9までの番号を打った。

たとえば、ためしとして、

先行なので右下(9)は○にする。

1	2	3
4	5	6
7	8	9

相手が5においたら、

○	2	X
4	x	6
7	8	○

○	2	×
4	×	6
○	8	○

となり、2-2 となり勝つ場合と、

○	×	3
4	×	6
7	8	○

○	×	3
4	×	6
×	○	○

○	×	○
4	×	×
×	○	○

となり 2-2 のパターンが作れないので、引き分ける場合とがあります。

と、言うわけで、角に置くと次に中央に置かれない限り必ず 2-2 を作れる。

中央に置かれても、反対の角に置けば、ちょっとだけがんばれますが、相手次第では 2-2 にならない

あと、別に最初が角でなくても、先攻が 2-2 を作れるパターンは多い。

そのうえ、後攻が 2-2 を作れるパターンは極小である

ここからのプリントはいくつ勝ちパターンがあるかを調べました。

左端 たて3つに○をつける場合(15通り)

○ ○ 3	○ ○ 3	○ ○ ○	○ ○ 3	○ ○ 3
○ ○ 6	○ 5 6	○ 5 6	○ 5 ○	○ 5 6
○ 8 9	○ ○ 9	○ 8 9	○ 8 9	○ 8 ○
○ 2 3	○ 2 ○	○ 2 3	○ 2 3	○ 2 ○
○ ○ 6	○ ○ 6	○ ○ ○	○ ○ 6	○ ○ 6
○ ○ 9	○ 8 9	○ 8 9	○ 8 ○	○ 8 9
○ 2 3	○ 2 3	○ 2 ○	○ 2 ○	○ 2 3
○ 5 ○	○ 5 6	○ 5 ○	○ 5 6	○ 5 ○
○ ○ 9	○ ○ ○	○ 8 9	○ 8 ○	○ 8 ○

2.真中たて 3つに○をつける場合

○ ○ 3	○ ○ 3	○ ○ ○	○ ○ 3	○ ○ 3
○ ○ 6	4 ○ 6	4 ○ 6	4 ○ ○	4 ○ 6
7 ○ 9	○ ○ 9	7 ○ 9	7 ○ 9	7 ○ ○
1 ○ 3	1 ○ ○	1 ○ 3	1 ○ 3	1 ○ ○
○ ○ 6	○ ○ 6	○ ○ ○	○ ○ 6	4 ○ 6
○ ○ 9	7 ○ 9	7 ○ 9	7 ○ ○	○ ○ 9
1 ○ 3	1 ○ 3	1 ○ ○	1 ○ ○	1 ○ 3
4 ○ ○	4 ○ 6	4 ○ ○	4 ○ 6	4 ○ ○
○ ○ 9	○ ○ ○	7 ○ 9	7 ○ ○	7 ○ ○

3.右端縦 3つに○をつける場合(15通り)

○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
-------	-------	-------	-------	-------

○	2	○	○	2	○	○	○	○	○	2	○	○	2	○
○	5	○	4	5	○	4	5	○	4	○	○	4	5	○
7	8	○	○	8	○	7	8	○	7	8	○	7	○	○

1	2	○	1	○	○	1	2	○	1	2	○	1	○	○
○	5	○	○	5	○	○	○	○	○	5	○	4	5	○
○	8	○	7	8	○	7	8	○	7	○	○	○	8	○

1	2	○	1	2	○	1	○	○	1	○	○	1	2	○
4	○	○	4	5	○	4	○	○	4	5	○	4	○	○
○	8	○	○	○	○	7	8	○	7	○	○	7	○	○

4.右下がり斜め3つに○をつける場合(10通り)

○	○	3	○	2	3	○	2	○	○	○	3	○	2	3
○	○	6	○	○	6	○	○	6	4	○	6	4	○	6
7	8	○	7	○	○	7	8	○	○	8	○	○	○	○

○	2	○	○	2	3	○	○	3	○	2	○	○	2	3
4	○	6	4	○	○	4	○	○	4	○	5	4	○	○
○	8	○	○	8	○	7	8	○	7	○	○	7	○	○

5.左下がり斜め 3つに丸をつける(7通り)

○	2	○	○	2	○	1	2	○	1	2	○	1	2	○
4	○	6	4	○	○	○	○	6	○	○	6	○	○	6
○	○	9	○	8	9	○	8	9	○	○	9	○	○	9

1	○	○	1	○	○
4	○	○	4	○	6
○	8	9	○	8	○

6.上段3つに丸をつける(10通り)

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○	○	6
7	8	9

○	5	6
7	○	9

○	5	○
7	8	9

○	5	6
7	8	○

4	5	6
○	○	9

○	○	○
4	5	○
○	8	9

○	○	○
4	5	6
○	8	○

○	○	○
4	○	○
7	8	9

○	○	○
4	○	6
7	8	○

○	○	○
4	5	○
7	○	9

7.中段3つに丸をつける(9通り)

○	○	3
○	○	○
7	8	9

○	2	3
○	○	○
7	○	9

○	2	○
○	○	○
7	8	9

1	○	3
○	○	○
○	8	9

1	2	3
○	○	○
○	8	○

1	○	○
○	○	○
7	8	9

1	○	3
○	○	○
7	8	○

1	2	○
○	○	○
7	○	9

1	2	3
○	○	○
7	○	○

8.下段3つに丸をつける(10通り)

○	○	3
4	5	6
○	○	○

○	2	○
4	5	6
○	○	○

○	2	3
4	5	○
○	○	○

1	○	3
○	5	6
○	○	○

1	2	3
○	○	6
○	○	○

1	2	○
○	5	6
○	○	○

1	2	3
○	5	○
○	○	○

1	○	○
4	5	6
○	○	○

1	○	3
4	5	○
○	○	○

1	2	3
4	○	○
○	○	○

全部で101とおりあります。

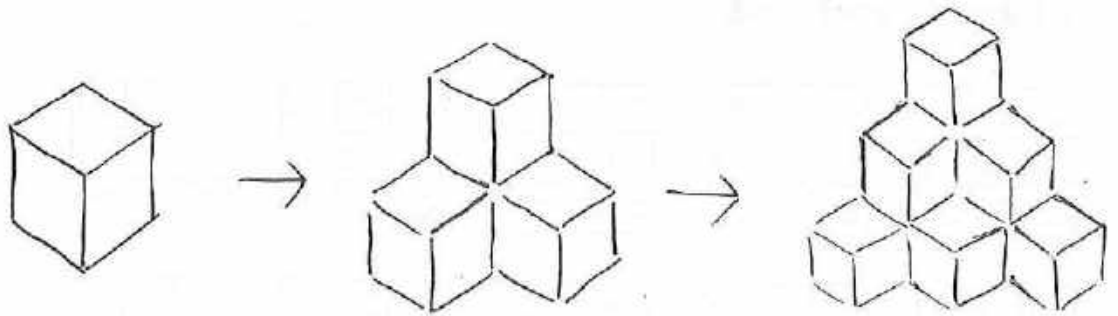
# 上田一摩の数学レポート!!

## レポートのあらすじ・取り組み

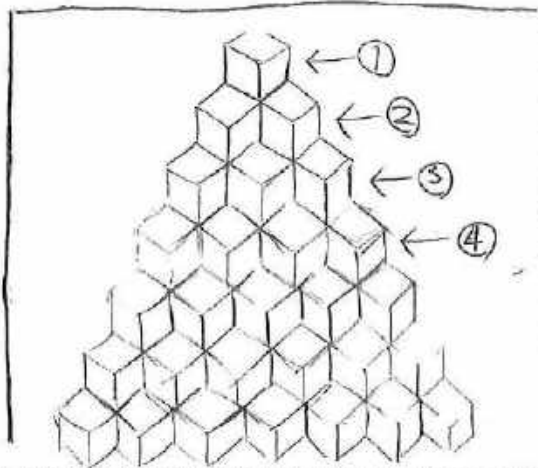
- ① 立方体を積む
- ② トイレtpペーパーの厚さ
- ③ 小人と巨人の胃袋

## レポートの内容

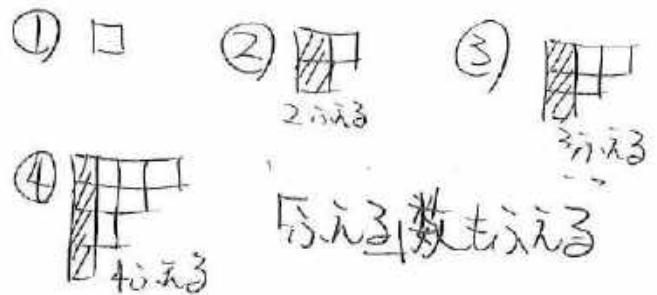
①



② 上の図のように立方体を段々に重ねていく  
7段に重ねるには何個の立方体が必要だろうか?



①~④を上から見ると





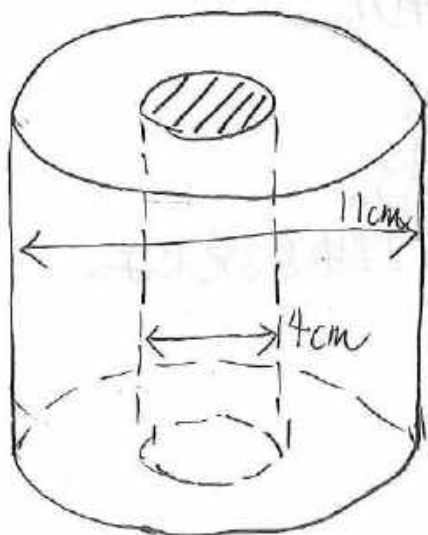
これをつかいて1段目~7段目の立方体の数を求め、和を求めよ。

$$\begin{aligned} & 1 + (1+2) + (1+2+3) + (1+2+3+4) \\ & + (1+2+3+4+5) + (1+2+3+4+5+6) \\ & + (1+2+3+4+5+6+7) \\ & = 1 + 3 + 6 + 10 + 15 + 21 + 28 \\ & = 84 \end{aligned}$$

A 84個

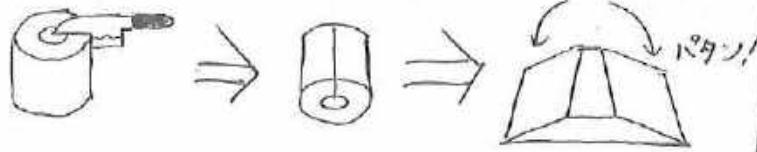
パッと見は複雑な立体だけど、バラバラにしたら規則を見つけると簡単になる。

図



このトイレットペーパー1枚の厚さを求めたい。全体の直径11cm、ペーパーの芯の直径4cm、ペーパーの全長は65mである。(答えは、小数第3位まで)

紙を切る



①紙の枚数を $x$ とする

$$\frac{(12.56 + 34.54)x}{2} = 6500$$

$$1855x = 6500$$

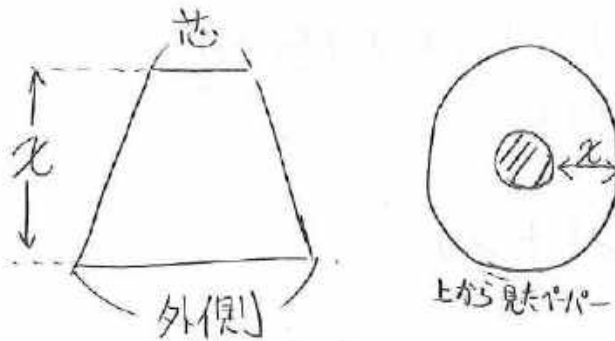
$$x = \text{約}276$$

$$3.5 \div 276 = 0.126 \dots$$

$$0.126 = \text{約}0.13$$

$$\underline{A 0.13 \text{ cm}}$$

できた台形を解析



$$\text{上底} = 4 \times 3.14 = 12.56 \text{ cm}$$

$$\text{下底} = 11 \times 3.14 = 34.54 \text{ cm}$$

$$\text{高さ} = \frac{(11-4)}{2} = 3.5 \text{ cm}$$

□と同じくバラバラにする=とで解いた。

③ 小人の12倍の身長巨人がいる。

この巨人は小人1728人分の食事をす。

なぜそんな大量の食量が必要か。理由を説せよ。

① 巨人の体積に着目

胃の大きさの比

$$12 \times 12 \times 12 : 1 \times 1 \times 1$$

$$= 1728 = 1$$

A 胃1728倍なので食事も1728倍必要

単に長さ(一部)に捕らわれないことが大切。

# 人間と数学

## レポートのあらすじ・取り組み

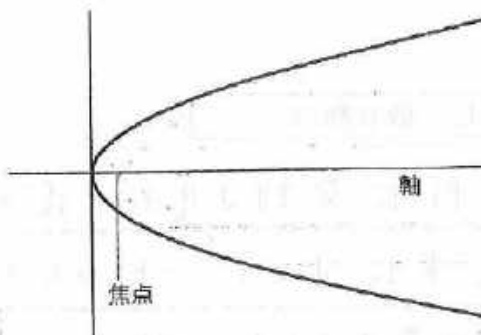
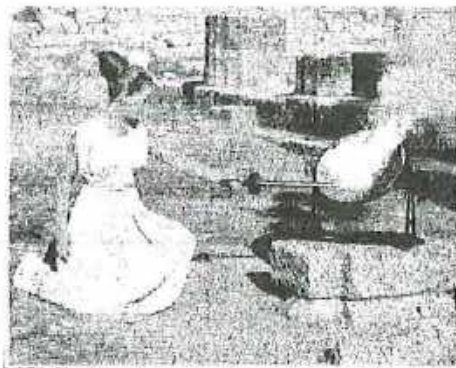
世の中に役に立っている数学を6問

## レポートの内容





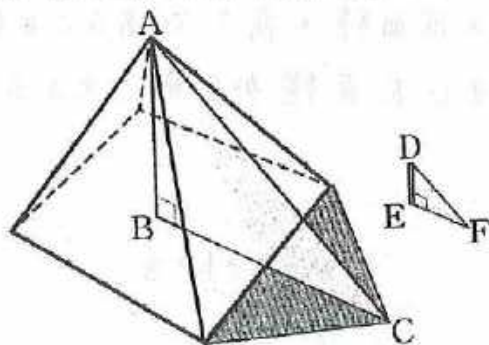
V 下の図は何をしているところか



考え 放物線というものには、右上の図のように放物線の軸に平行な光などを反射して、軸上の1点に集まるという性質がある。この点を焦点という。この放物線に焦点があるという性質を利用して左上の図のように太陽の光を1点に集中させて火をつけているところということが分かった。

分かった事 家庭にあるパラボラアンテナ、懐中電灯などにも使用していることが分かった。

VI 下の図でピラミッドの高さ(辺AB)を求める方法を考える



考え 棒を立て太陽が真南に来た時、ピラミッドの底辺からピラミッドの影の先までの長さ(辺BC)と棒の影の長さ(辺EF)を測る。棒の長さ(辺DE)と影の棒の先を結んだ三角形とおく。ピラミッドも同じようにピラミッドの高さとピラミッドの底面の中心からピラミッドの影の先を結んだ三角形とおく。これらの三角形は太陽の光の向きなので、それぞれの辺の長さの割合が等しい。そして下の図をもとに相似を使いピラミッドの高さを求めるには、  
 ピラミッドの高さ;ピラミッドの底面の中心から影までの長さ=辺AB;辺BC  
 =棒の長さ;棒の影の長さ=辺DE;辺EFをすればいい

分かった事 これは約2600年前のギリシャのタレスという人によって測られました。この時代から相似があったとはギリシャの人たちはかしこいと思った。

# 円すいの体積を求める

## レポートのあらすじ・取り組み

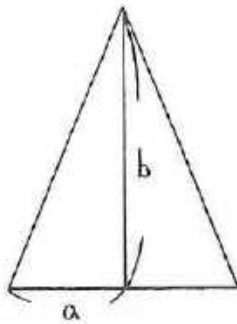
円すいを円柱に分割させて、式を求めたり

公式を解く事によって、どういう発見をした

かをレポートに書きました。

## レポートの内容

円すいの体積は  $\frac{1}{3} \times \text{底面積} \times \text{高さ}$  であることは誰もが知っている。  
下の図のように、円すいを真横から見て考えることにする。

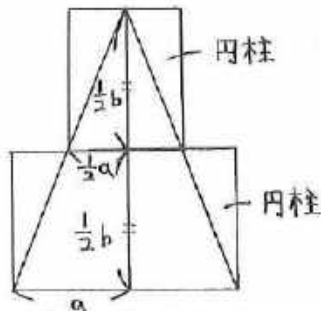


$$\begin{aligned} a \times a \times \pi \times b \times \frac{1}{3} \\ = \frac{1}{3} \pi a^2 b \end{aligned}$$

## 演習1

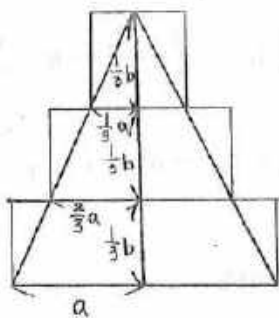
下の図を参考にして、高さを3等分・4等分・5等分・6等分の長方形をかいていこう！

(例) 2等分したとき

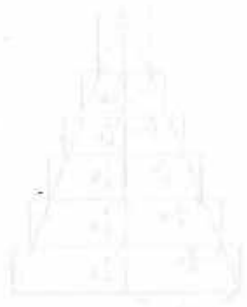


$$\begin{aligned} \frac{1}{2}a \times \frac{1}{2}a \times \pi \times \frac{1}{2}b + a \times a \times \pi \times \frac{1}{2}b \\ = \left(\frac{1}{4} + 1\right) \times \frac{1}{2} \pi a^2 b \\ = \left(\frac{1}{4} + \frac{4}{4}\right) \times \frac{1}{2} \pi a^2 b \\ = \frac{1+4}{4} \times \frac{1}{2} \pi a^2 b \\ = 0.625 \pi a^2 b \end{aligned}$$

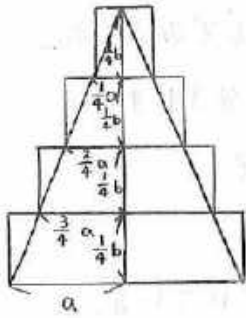
③ 3等分したとき



$$\begin{aligned} & \frac{1}{3} a \times \frac{1}{3} a \times \pi \times \frac{1}{3} b + \frac{2}{3} a \times \frac{2}{3} a \times \pi \times \frac{1}{3} b + a \times a \times \pi \times \frac{1}{3} b \\ &= \left( \frac{1}{9} + \frac{4}{9} + 1 \right) \times \frac{1}{3} \pi a^2 b \\ &= \left( \frac{1}{9} + \frac{4}{9} + \frac{9}{9} \right) \times \frac{1}{3} \pi a^2 b \\ &= \left( \frac{1+4+9}{9} \right) \times \frac{1}{3} \pi a^2 b \\ &= 0.518 \pi a^2 b \end{aligned}$$

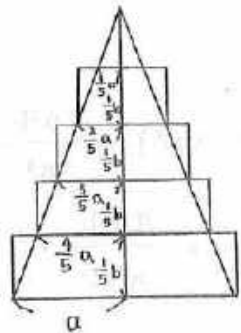


④ 4等分したとき



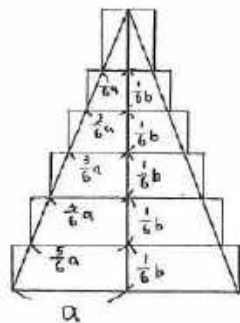
$$\begin{aligned} & \frac{1}{4} a \times \frac{1}{4} a \times \pi \times \frac{1}{4} b + \frac{2}{4} a \times \frac{2}{4} a \times \pi \times \frac{1}{4} b + \frac{3}{4} a \times \frac{3}{4} a \times \pi \times \frac{1}{4} b \\ &+ a \times a \times \pi \times \frac{1}{4} b \\ &= \left( \frac{1}{16} + \frac{4}{16} + \frac{9}{16} + 1 \right) \times \frac{1}{4} \pi a^2 b \\ &= \left( \frac{1}{16} + \frac{4}{16} + \frac{9}{16} + \frac{16}{16} \right) \times \frac{1}{4} \pi a^2 b \\ &= \left( \frac{1+4+9+16}{16} \right) \times \frac{1}{4} \pi a^2 b \\ &= 0.468 \pi a^2 b \end{aligned}$$

⑤ 5等分したとき



$$\begin{aligned} & \frac{1}{5} a \times \frac{1}{5} a \times \pi \times \frac{1}{5} b + \frac{2}{5} a \times \frac{2}{5} a \times \pi \times \frac{1}{5} b + \frac{3}{5} a \times \frac{3}{5} a \times \pi \times \frac{1}{5} b \\ &+ \frac{4}{5} a \times \frac{4}{5} a \times \pi \times \frac{1}{5} b + a \times a \times \pi \times \frac{1}{5} b \\ &= \left( \frac{1}{25} + \frac{4}{25} + \frac{9}{25} + \frac{16}{25} + 1 \right) \times \frac{1}{5} \pi a^2 b \\ &= \left( \frac{1}{25} + \frac{4}{25} + \frac{9}{25} + \frac{16}{25} + \frac{25}{25} \right) \times \frac{1}{5} \pi a^2 b \\ &= \left( \frac{1+4+9+16+25}{25} \right) \times \frac{1}{5} \pi a^2 b \\ &= 0.44 \pi a^2 b \end{aligned}$$

◎ 6等分したとき



$$\begin{aligned} & \frac{1}{6}a \times \frac{1}{6}a \times \pi \times \frac{1}{6}b + \frac{2}{6}a \times \frac{2}{6}a \times \pi \times \frac{1}{6}b + \frac{3}{6}a \times \frac{3}{6}a \times \pi \times \frac{1}{6}b \\ & + \frac{4}{6}a \times \frac{4}{6}a \times \pi \times \frac{1}{6}b + \frac{5}{6}a \times \frac{5}{6}a \times \pi \times \frac{1}{6}b + a \times a \times \pi \times \frac{1}{6}b \\ & = \left( \frac{1}{36} + \frac{4}{36} + \frac{9}{36} + \frac{16}{36} + \frac{25}{36} + 1 \right) \times \frac{1}{6} \pi a^2 b \\ & = \left( \frac{1+4+9+16+25+36}{36} \right) \times \frac{1}{6} \pi a^2 b \\ & = 0.421 \pi a^2 b \end{aligned}$$

演習2

以上のようにして、円すいを円柱に分割してみました。円柱の体積の和と円すいの体積は分割する個数が大きいほど、どうなっていますか？

(解答)

細かく分割するほど、円すいに近づいている。

演習3

それなら100等分、1000等分、10000等分...したときの円柱の体積を求めてみたい。しかし、計算が大変そう！だから*n*等分した円柱の体積の和の公式を作ってみよう。

*n*等分

$$\begin{aligned} & \frac{1^2+2^2+3^2+\dots+n^2}{n^2} \times \frac{\pi a^2 b}{n} = (1^2+2^2+3^2+\dots+n^2) \times \frac{\pi a^2 b}{n^3} \\ & = \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} \times \frac{\pi a^2 b}{n^3 n^2} \\ & = \frac{(n+1)(2n+1) \pi a^2 b}{6 n^2} \end{aligned}$$



◎ 公式が出来上がったので計算してみよう

円柱の分割数	分割したときの円柱の体積の和
10	$0.38500000000000000000 \pi a^2 b$
100	$0.33835000000000000000 \pi a^2 b$
1000	$0.33383350000000000000 \pi a^2 b$
10000	$0.33338333500000000000 \pi a^2 b$
100000	$0.33333833335000000000 \pi a^2 b$
1000000	$0.33333383333350000000 \pi a^2 b$
10000000	$0.33333338333333500000 \pi a^2 b$
100000000	$0.33333333833333335000 \pi a^2 b$
1000000000	$0.33333333383333333350 \pi a^2 b$
10000000000	$0.3333333333833333333350 \pi a^2 b$
100000000000	$0.333333333338333333333350 \pi a^2 b$

**演習 4**

たとえば理想ですか円すいを無限個の円柱に分割したとき、円柱の体積の和はどんな式になるとおもいますか？

$$0.\underbrace{3333 \dots}_{\text{無限個の3}} \pi a^2 b = \frac{1}{3} \pi a^2 b$$

**結論**

円すいの体積は、無限個の円柱に分割して、足せばなる。

1cm 四方の正方形の中に無限の長さを持つ  
曲線を書く。

レポートのあらすじ・取り組み

無限の問題について中学生でも解けるという事が  
良かったです。

レポートの内容

1cm 四方の正方形に無限の長さの曲線を書くことか  
できるか？  
例えば、直径1cmの円を書いていけるかと思つた。  
だけどよく考えてみたら式が  $1 \times \pi + 0.9 \times \pi +$   
 $0.9^2 \times \pi \dots = (1 + 0.9 + 0.9^2 + 0.9^3 + \dots) \times \pi$  となり

か、この中をよく見てみると

$$\underline{1 + 0.9 + 0.9^2 + 0.9^3 + 0.9^4 \dots = 1 + 0.9(1 + 0.9 + 0.9^2 + 0.9^3 \dots)}$$

とおける ~ 部分をAとすると

$$A = 1 + 0.9 + 0.9^2 + 0.9^3 \dots$$

$$A = 1 + 0.9 \times A \quad \text{となる}$$

移項して

$$A - 0.9 \times A = 1$$

$$0.1 \times A = 1$$

$$A = 10$$

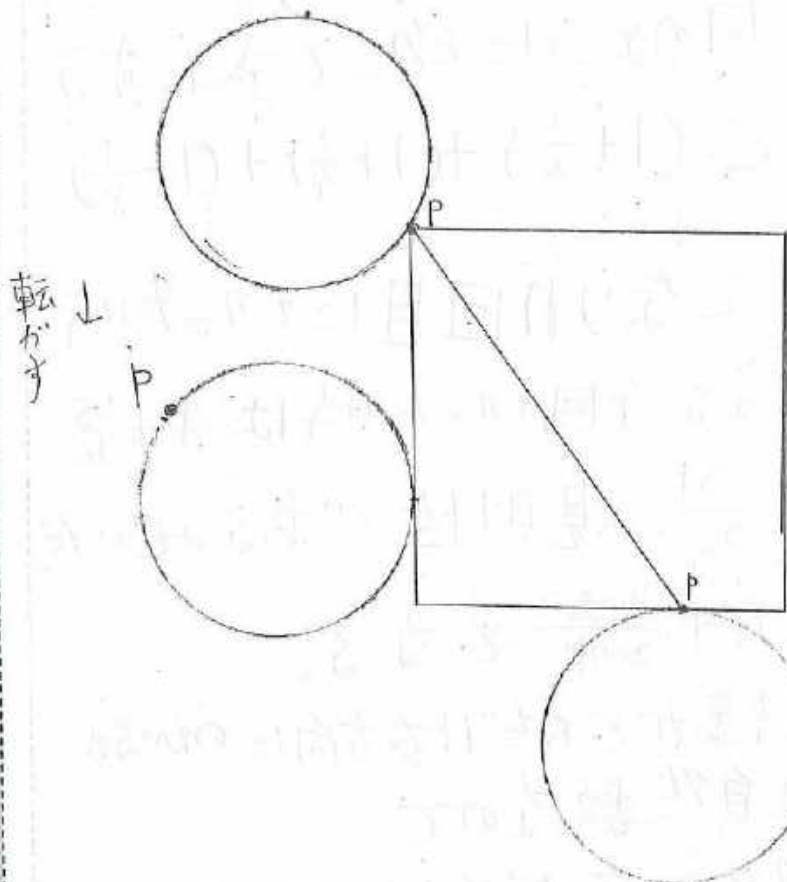
$$A \times \pi = \text{曲線の長さ}$$

$$10 \times \pi = 10\pi \quad \text{---無限ではない。}$$

この書かただと無限にならない事が分かった。

1 cm 四方の正方形と直径 0.5 cm の円を用意します。

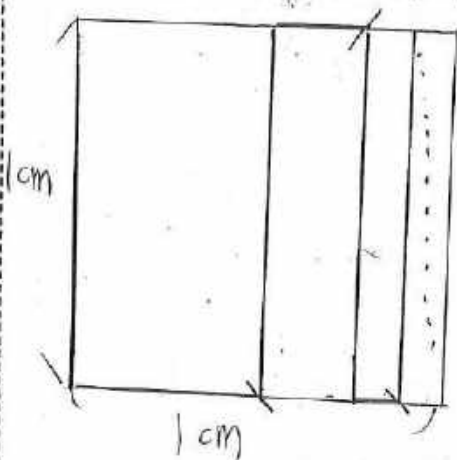
図のように円の 一定に印をつけて点 P とします。



そしてその円を転がして再び P と正方形と接した所に P をつけていきます。円の円周は  $\pi$  で無理数なので、P は重なる事はなつまり、P を結んでいけば、無限の長さになる。というような考え方があります。

途中で出てきた無理数というのは有理のように整数同士のわり算を記号として表したり、小数で表すと、割りきれぬか、決まったパターンがくりかえさしない数です。つまり無限に続く小数のうち同じ数のパターンが決して現れることのない数だということです。

三つ目の例は図のように  $\frac{1}{2}, \frac{1}{4}, \frac{1}{8}$  というよ



1で区切る

うにのこりの辺の長さの  $\frac{1}{2}$  の所で曲がる線です。

図のように切って式にすると

$$\left(1 + \frac{1}{2}\right) + \left(1 + \frac{1}{4}\right) + \left(1 + \frac{1}{8}\right) + \dots$$

となり  $n$  回目に切った時

の長さは  $1 + \left(\frac{1}{2}\right)^n$  となる 4回切った時は  $4 + \frac{15}{16}$

5回目までの長さは  $5 + \frac{31}{32}$  規則性があるみたいだ。

$n$ 回目までの長さは  $n + \frac{2^n - 1}{2^n}$  となる。

この式の  $\frac{2^n - 1}{2^n}$  の部分は線がどなたけ右方向にのびるかということになります。これは自然数なので

$1 < 2^n = 1 < 2^n$  分母と分子がともに正の数で分子と分母より小さいので  $0 < \frac{2^n - 1}{2^n} < 1$  つまり  $n$  が何でも100でも無限でも右辺に近づかないという事です。たての長さは  $1 < 1 + \left(\frac{1}{2}\right)^n$  なので毎回  $1\text{cm}$  より大きい

長さずつのびていくこととなります。

よって曲線は無限となり

$1\text{cm}$  四方の正方形に無限の長さの曲線を書けるということが分かりました。参考 数学にとまめく 講談社

# 大阪ガスの料金表、グラフ

## レポートのあらすじ・取り組み

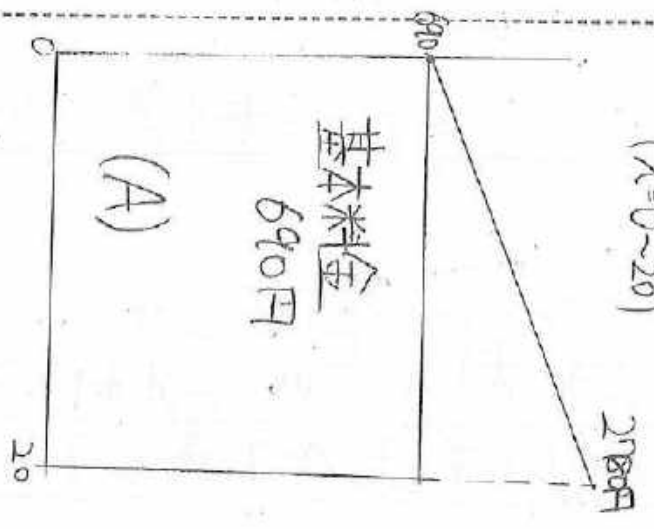
まず、料金表の基本料金や使用料による料金の  
変化などをしらべて、表とグラフにまとめました。

## レポートの内容

料金表	使用料	基本料金	単位円 (1m <sup>3</sup> 当り)	
			A	B
A	0m <sup>3</sup> ~ 20m <sup>3</sup>	690円	136円	115円
B	20m <sup>3</sup> ~ 50m <sup>3</sup>	1100円	111円	102円
C	50m <sup>3</sup> ~ 200m <sup>3</sup>	1320	96円	
D	200m <sup>3</sup> ~ 500m <sup>3</sup>	3000円		
E	500m <sup>3</sup> を超える場合	6080円		

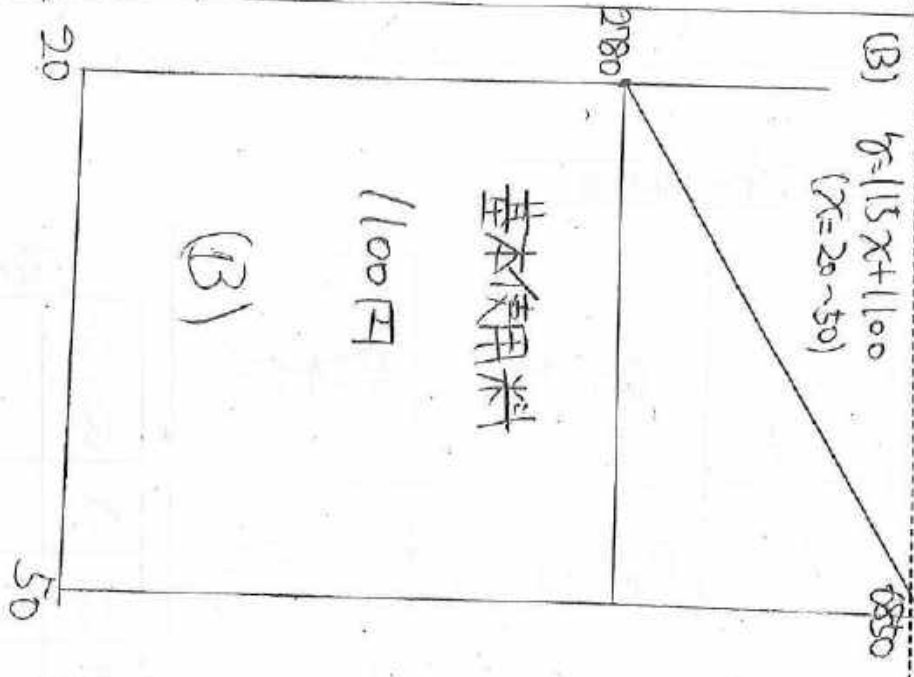
・この表からガス代は使用料が増えれば (m<sup>3</sup> 当たり) 安くなり、少なければ高くなることかわかります。

(A)  $y = 136x + 690$   
 $(x = 0 \sim 20)$



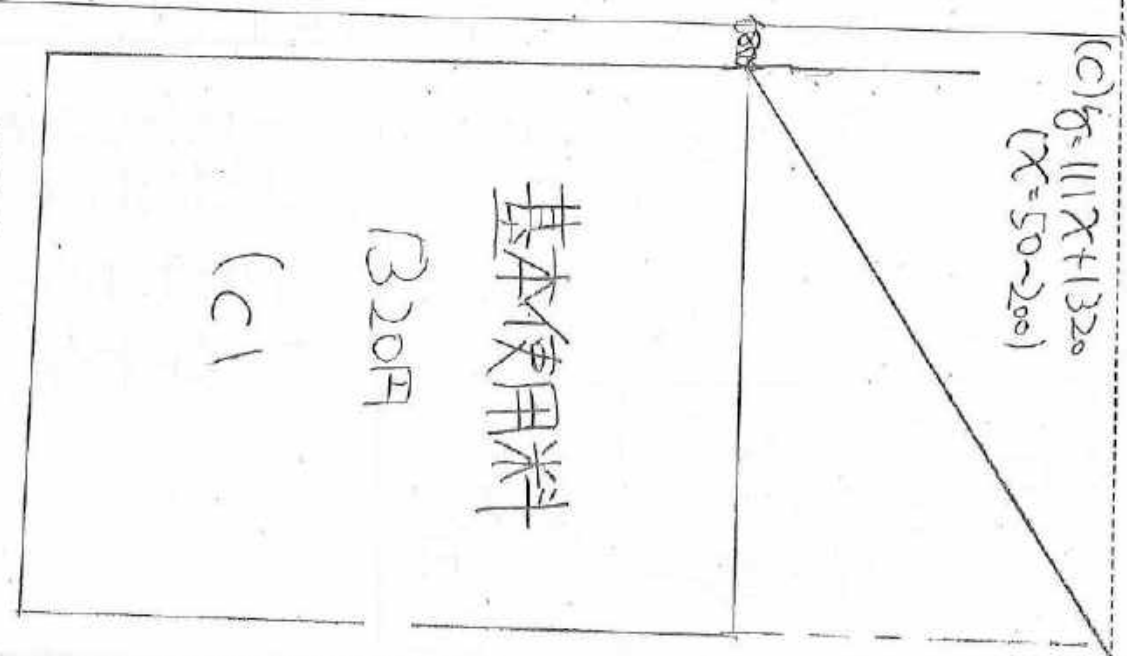
まず使う金額は  
 136円 ずつ  
 (0~20)の間だけ

(B)  $y = 115x + 1100$   
 $(x = 20 \sim 50)$



このグラフは(A)から  
 急に増える

(C)  $y = 111x + 1320$   
 $(x = 50 \sim 200)$



このグラフは(B)から  
 急に増える

$$(D) Y = 102X + 300$$

$$(X = 200 \sim 500)$$

基本使用料

3000円

(D)

このグラフは(C)より

急激な上昇

$$(E) Y = 96X + 6400$$

$$(500 \text{以上})$$

基本使用料

6040円

(E)

このグラフは(D)より

急激な上昇

このグラフは(C)より、た  
 思いよした。この表は複雑な  
 料金表をグラフに整理し  
 きたからです。

このグラフを作った  
 ことは、よほど複雑な式も  
 グラフに整理できること  
 です。

# 年号と西暦の関係

## レポートのあらすじ・取り組み

僕は、年号と西暦の事を詳しく知りたかったので、年号の発生した国や今はどこで使われているかや西暦とどう言う関係があるのかを調べました。

## レポートの内容

1. 昭和や平成の事を年号と言います。  
年号は中国で発生し、現在は日本でしか使われていない年のかぞえ方です。
2. 年号は明治→大正→昭和→平成と4つの記号にまたがっています。



年号と西暦の関係は下の表のようになっています。

① 明治  $1867\text{年} + \text{明治の年数} = \text{西暦の年数}$

② 大正  $1911\text{年} + \text{大正の年数} = \text{西暦の年数}$

③ 昭和  $1925\text{年} + \text{昭和の年数} = \text{西暦の年数}$

④ 平成  $1988\text{年} + \text{平成の年数} = \text{西暦の年数}$

これを使えばいろいろな事を調べる事ができます

例えば、

大正10年に生まれた人の現在の年齢は何歳でしょう?  
という問題が簡単に解くことができます。

<解答>

大正の公式は  $1911 + 0$  だから0に大正10年の10を代入  
します。

$1911 + 10 = 1921$  → 大正10年の西暦

現在は平成15年なので

$1988 + 15 = 2003$  → 現在の西暦

$$\begin{array}{r} \underline{2003} \\ \text{現在の西暦} \end{array} - \begin{array}{r} \underline{1921} \\ \text{大正の西暦} \end{array} = \begin{array}{r} \underline{82} \\ \text{この人の年齢} \end{array}$$

よって、大正10年に生まれた人の年齢は  
2003年現在 82歳と言えます。

このように簡単に計算ができます。

では問題をやってみます。

① 大正 8 年は西暦  年です。

$$1911 + 8 = 1919 \quad \text{答え } 1919$$

② 1982 年は昭和  年です。

$$1982 - 1925 = 57 \quad \text{答え } 57$$

③ 昭和 23 年に生まれた人は平成 10 年には何歳ですか？

$$1925 + 23 = 1945 \quad 1988 + 10 = 1998 \quad 1998 - 1945 = 53$$

答え 53 歳

年号が中国から日本に伝わってきてそれがいまでも利用されている事はとてもいい事だと思います。

日本の歴史や中国の歴史ともに長いですが、その歴史の間に年号というものが伝わってきたのはすごいと思います。

年号は、もっとたくさんありましたが細かいところを入れるとたいへん多いので 4 つにしました。

他に、うるう年と言う年があります。

西暦年数が 4 で割り切れる年は うるう年 ですか。

100 で割り切れず、400 では割り切れない年

(例) 1700 年、2100 年は 平年 と呼びます。

平年とは地球が太陽の周りを 1 周する時間が 365 日の時の呼び名です。しかし、正確には 365 日 5 時間 48 秒と約 6 時間のずれがあるので 4 年に一度、366 日となりこの年をうるう年と呼びます。

感想：僕は、小さい頃からうるう年の事や西暦の歴史の事をよく理解していなかったのですが、今回のレポートをやってとってもよく分かりました。

# 推測を必要とする問題に挑戦する

## レポートのあらすじ・取り組み

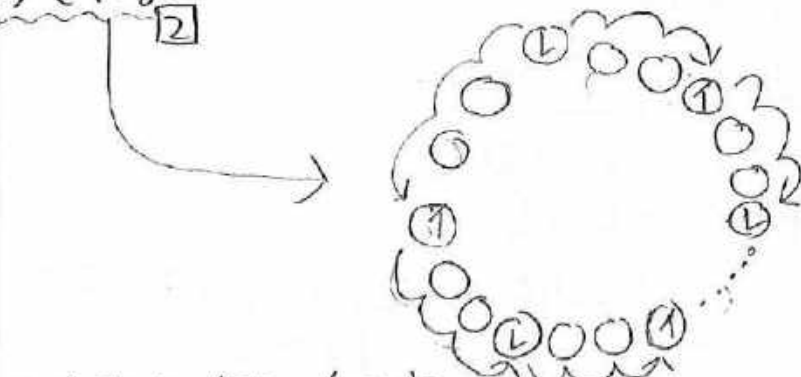
推測を必要とする問題をいくつか問きました。  
どちらも解答とはちがう聞き方で聞いてみました。  
問題はどちらも「算数オリンピックに挑戦」という本から  
出題しています。

## レポートの内容

問

今日はA君の誕生誕生日である  
A君の年齢の数になるように、赤、青、黄の3色のろうソクが  
輪のようにならんでいる

赤いろうソクは一本おきに立っており、2本おきにろうソクの色は  
は赤青赤青...とくり返すか、赤黄赤黄とくり返すかのどちらかにな  
っている



し → 赤  
イ → 黄  
ブ → 青

① A君は今日、何歳になったか

② 次に同じ規則でろうソクが並ぶのは何歳の誕生誕生日か。

# 回答

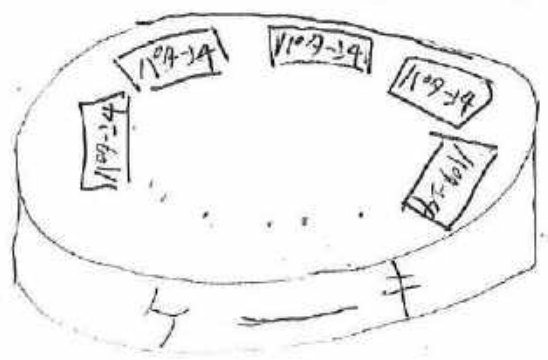
図3 おかしな  
 下線部より、ロウソクは  
 赤口赤口赤口赤口赤口赤口赤口...  
 という並びになっている。

図3と図より ロウソクは  
 赤口赤 青  
or  
黄 赤口赤 青  
or  
黄 赤口赤 青  
or  
黄 赤口赤...  
 青は  $\leftarrow$  黄 という並びになっている

よって 赤口赤 青 赤口 という並びでロウソクが並んでいる  
 ということになる。  
 ↑  
 これを10ターンの4とする

つまりこのケーキの上に並んでいるロウソクは  
 10ターンの6本のロウソクの組み合わせが11つつあり、

赤口赤 青 赤口 赤口赤 青 赤口 赤口赤 青 赤口 ...  
 それを序篇にしたものである



このハターンが一つだと6歳、問題頁には7歳以上12歳以下という条件があるので、6歳ではない。  
ハターンが2つだと  $\frac{1109-24}{2} \times 2$  なので、6歳  $\times 2 = 12$  歳  
これでA君は12歳ということがわかる。(12歳以下という条件なので、それ以上はない。)

答① 12歳

さらに次にこのならびになるということは、 $\frac{1109-24}{2}$  が1つかえたということなので、12歳 + 6歳 = 18歳  
つまり次にロウソクがこのならびになるのは18歳のときである

答② 18歳

問

A、B、C、Dの五人がテストの点数の順位で勝負することになった。

X君は1位がC、2位がE、3位がA、4位がB、5位がDと予想した。

しかしX君の予想は見事にはずれ、5人の順位があたらなかっただけでなく、一位違いの人もいなかった。

一方、Yの予想はある一人の順位があたった。  
五人の順位を答えなさい。

# 回答

下線部④について  
 まず「ここでいう一位<sup>は</sup>違<sup>い</sup>というのはXに3位と予想された  
 A君は2位と3位と4位ではないという意味である。

## 問題より

A →	X君の予想 3位	→ 1位か5位	Y君の予想 1位 2位 5位 4位 3位
B →	4位	→ 1位か2位	
C →	1位	→ 3位か4位か5位	
D →	5位	→ 1位か2位か3位	
E →	2位	→ 4位か5位	

↑  
 どれか一つが  
 当たっている

A	1位か5位	Y君の予想 1位
B	1位か2位	2位
C	3位か4位か5位	5位
D	1位か2位か3位	4位
E	4位か5位	3位

ということがわかる

Aが1位だとすると、Bは2位だということになるが、これではY君の予想が2つ当たっていることになってしまう。

なのでAは5位であるということがわかる。

Aが5位と決まったことにより、Eが4位だということがわかる。

Aが5位と決まったことにより、Eが4位だということもわかる。

		Y君の予想
A	5位	1位
B	1位か2位	2位
C	3位か4位	5位
D	1位か2位か3位	4位
E	4位	3位

さらにEが4位なので、Cが3位だということがわかる。

Y君の予想はどれか一つ当たっている。

A C D EはY君の予想した順位ではないが、

Bは1部予想が当たっている。

よって

○Y君の予想はどれか一つ当たっている。

○Y君の予想した順位はA C D Eの正しい順位と完全に合っていない。

○B君の順位は1位か2位であるが、そのうちの1つが当たっている可能性がある。



この3つにより Bは2位だということがおかる。

A	5位
B	2位
C	3位
D	1位か2位
E	4位

B位が2位だということがおかたので  
これにより

Dが1位だということがおかる。

A	5位
B	2位
C	3位
D	1位
E	4位

答え Aが5位 Bが2位 Cが3位 Dが1位 Eが4位

まとめ

問いた2問はどちらも推測りを必要とする問題である。  
1問目は6本のロウソクの組合せにパターンがあることに  
気づかなければ答えはでない。

2問目においては数字にたよるとこがなく、

数学の問題なのに式をかかない。

こういう問題も数学なのだろうかと思議に感じた。  
数学という言葉はとても広い意味があるのだなと  
感じた。

# 年令の公式

## レポートのあらすじ・取り組み

僕がこのテーマを調べるのに小学校の頃に通っていた塾で使っていた予習シリーズを参考にしました。全てを見通した後一番興味を持ってレポートにまとめました。年令を出す式と西暦を調べる式と曜日の計算の仕方を書きました。

## レポートの内容

### ★年令の公式

① 明治は西暦1868年に始まりました。

なので明治 $x$ 年は西暦に直すと  
 $1868 + x - 1$ となります。

例えば明治8年は $1868 + 8 - 1 = 1875$ 年になります。

② 大正は西暦1912年に始まりました。

なので大正 $x$ 年は西暦に直すと  
 $1912 + x - 1$ となります。

例えば大正5年は $1912 + 5 - 1 = 1916$ 年になります。

もしも大正がなく明治が続いていたら1920年は明治53年になっています。

③ 昭和は西暦1926年に始まりました。

なので昭和 $x$ 年は西暦に直すと  
 $1926 + x - 1$ となります。

例えば昭和48年は $1926 + 48 - 1 = 1973$ 年になります。

もし昭和・大正がなくて明治が続いていたら1985年は明治118年になっている。

◎平成は西暦1989年に始まりました。

なので平成 $x$ 年は西暦に直すと  $1989+x-1$  になります。

例えば平成5年は  $1989+5-1=1993$  年になります。

もし明治がずっと続いていたら現在を出すには

現在 - 1868 + 1 で出します。

大正と昭和を出す場合は明治の1868を大正なら1912

昭和なら1926で出します。

平成 $x$ 年生まれの方は現在 -  $(x + 1989 - 1)$  で何かわかります。

◎現在2003年なので明治元年生まれの方は134才になっている

大正元年生まれの方は92才になっている

昭和元年生まれの方は77才になっている

平成元年生まれの方は14才になっている

### ★1をする理由

例えば明治1年の場合

$1868 + 1 = 1869$  になる。

これはおかしい。なぜなら1868年に始まったのが1868年が明治1年のはず。なので1869から-1をします。

### ★うるう年

うるう年は365日ですが年に6時間のずれがでます。

でその4年に1回だけ2月29日までとし、1年が366日

になります。これをうるう年といいます。

うるう年は西暦が4で割り切れる年です。

(例)

1988年、1992年、1996年、2000年... 次は2004年です。

曜日を調べる

何年か後の(または前の)曜日を調べる計算します。

このときうるう年に戻さなければいけません。

例えば3月13日が木曜日とします。来年の3月13日は

「1年は365日あるので

$$365 \div 7 = 52 \dots 1$$

↑  
1日ずれる

より曜日は1日ずれるので金曜日になります。

うるう年は±1の場合

$$366 \div 7 = 52 \dots 2$$

↑  
2日ずれる

よりの曜日は2日ずれるので土曜日になります。

これは平年の場合1日ずれる、うるう年の場合は2日ずれる。

# 数学レポート

レポートのあらすじ・取り組み

普段の数学で一番よく見る自然数にある性質を  
2つ調べました。例も挙げながら説明が書いてあります。  
数には意外な性質があります。

レポートの内容

(課題)

連続する4つの自然数の積に1を加えるとある自然数の平方数  
になる

(例)

$$1, 2, 3, 4 \longrightarrow 1 \times 2 \times 3 \times 4 + 1 = 25 = 5^2$$

$$6, 7, 8, 9 \longrightarrow 6 \times 7 \times 8 \times 9 + 1 = 3025 = 55^2$$

$$9, 10, 11, 12 \longrightarrow 9 \times 10 \times 11 \times 12 + 1 = 11881 = 109^2$$

なぜそうなるのか?

小さい自然数を  $x$  とする

$$x(x+1)(x+2)(x+3) + 1 = (x^2 + 3x)(x^2 + 3x + 2) + 1 \dots \textcircled{1}$$

$x^2 + 3x = A$  とする。  $A$  は自然数である

$$\begin{aligned} (x^2 + 3x)(x^2 + 3x + 2) + 1 &= A(A+2) + 1 \\ &= A^2 + 2A + 1 \\ &= (A+1)^2 \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

②より連続する4つの自然数の積+1= $\Delta^2$ になることが証明された。

次に $\Delta$ の部分の数字の規則は何か？

枚目に書いた $(A+1)^2$ を元に戻す

$$(x+3x+1) \downarrow \text{となる} \Rightarrow (x^2+3x+1)^2 = \{x(x+3)+1\}^2 \dots \textcircled{3}$$

③より4つの自然数の中で一番小さい数と一番大きい数の積に1を加えた数を2乗するという事である

次の公式が成り立つ

$$\text{連続する4つの自然数の積+1} = \{\text{一番小さい数} \times \text{一番大きい数} + 1\}^2$$

(課題2)

2つの奇数をそれぞれ2乗する。2つの数の差の数字にはどういふ条件があるのか？

2つの奇数を $2m+1, 2n+1$ とする( $m > n$ で、 $m, n$ は共に自然数)

$$\begin{aligned} (2m+1)^2 - (2n+1)^2 &= (4m^2 + 4m + 1) - (4n^2 + 4n + 1) \\ &= 4m^2 + 4m + 1 - 4n^2 - 4n - 1 \\ &= 4(m^2 + m - n^2 - n) \end{aligned}$$

$m, n$ は共に自然数なので $m^2 + m - n^2 - n$ も自然数である。

よって $4(m^2 + m - n^2 - n)$ は4の倍数であることを示している。

だが、本当に4の倍数と決めていいのだろうか？

$m^2 + m - n^2 - n$ の性質を見つける。

$m, n$  は共に自然数なので次のようなパターンが考えられる

$m \dots$  偶数,  $n \dots$  偶数 ①

$m \dots$  偶数,  $n \dots$  奇数 ②

$m \dots$  奇数,  $n \dots$  偶数 ③

$m \dots$  奇数,  $n \dots$  奇数 ④

$m$  と  $n$  がどんな数の組み合わせかを大きく分けると①~④になり  
そのうちどれかに当たる。

①~④の場合を  $m^2 + m - n^2 - n$  に代入する。

すると、全ての場合で  $m^2 + m - n^2 - n$  は偶数になる。

別の言い方をすると  $m^2 + m - n^2 - n$  は偶数であることよりも深い  
ことは分からない。

つまり、 $4(m^2 + m - n^2 - n)$  は  $4 \times$  偶数を表している。

したがって、8の倍数である。

$\therefore$  2つの奇数の2乗の差は常に8の倍数になる

# ガブリエルの原理と等脚台形

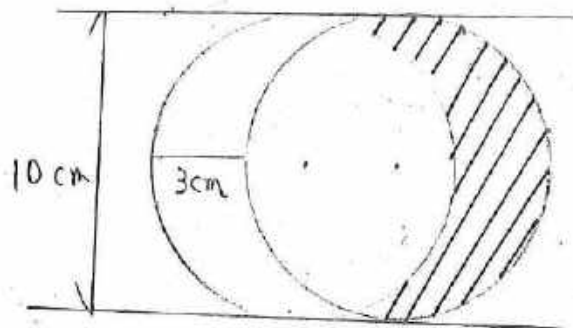
レポートのあらすじ・取り組み

僕は、円の一部分の面積を簡単に解くやり方と等脚台形をうまく使って角度を求めるやり方を調べました。

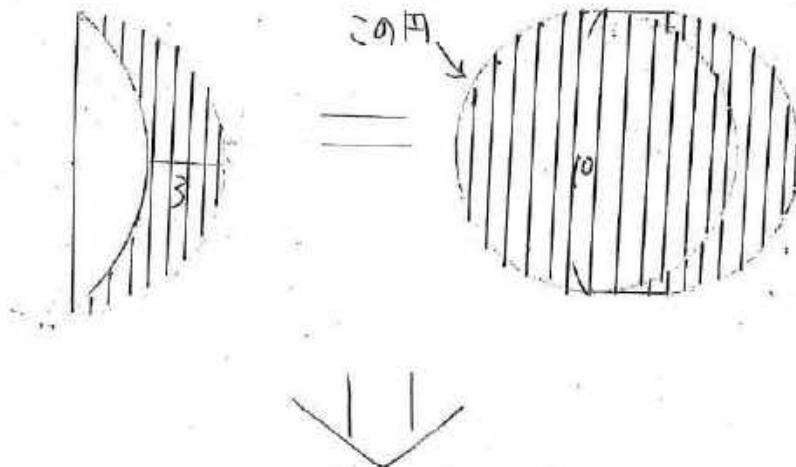
レポートの内容

問題1

図の赤色の部分の面積を計算しましょう。

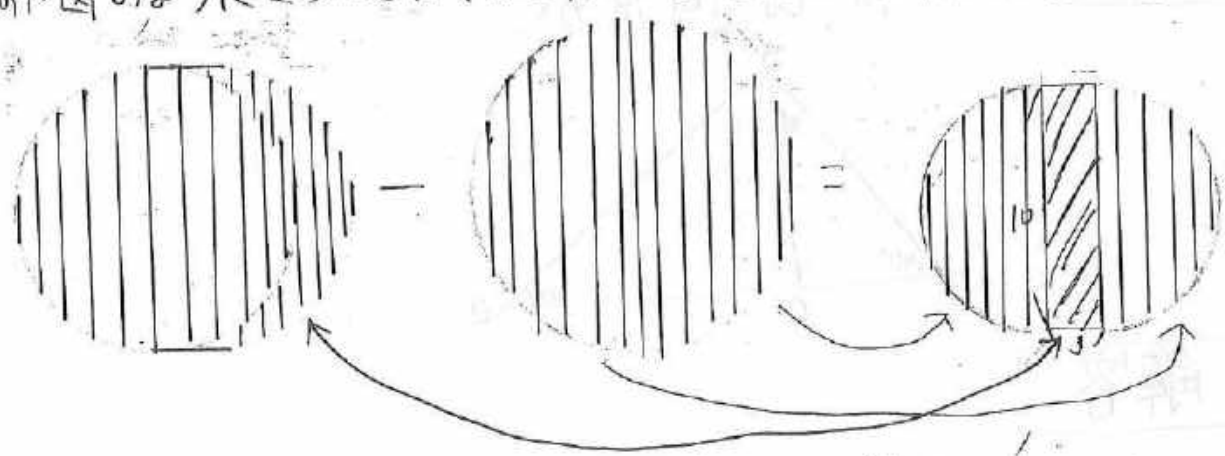


下の図の全体の図形の面積から、円の面積を引いたものが求めるもの





NO.1の下図のように2つに割ってかき引いても同じなので長方形の面積が出る。

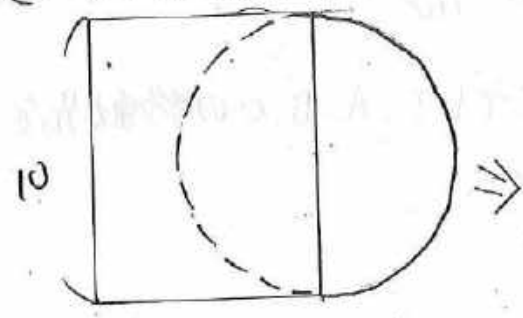


求める面積

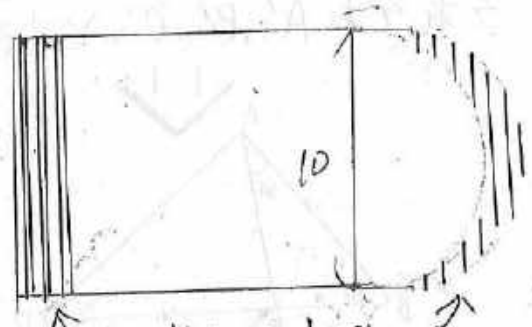
A.  $10 \times 3 = 30 \text{ cm}^2$

別解

これをこういう形にする



左に3cmずつ



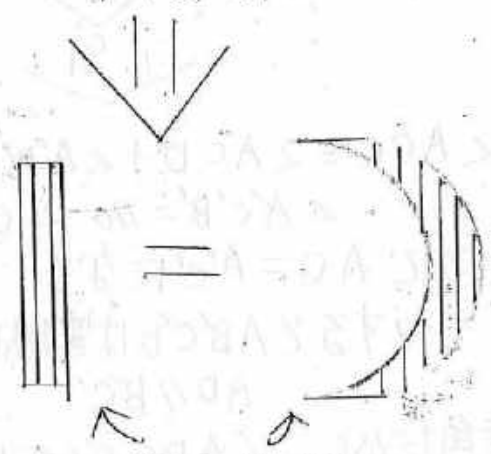
ずれた部分

結果

これで、面積を変えないで計算しやすい形にすることが出来る。右側にあった部分が、左側に移動して来た。この考え方を



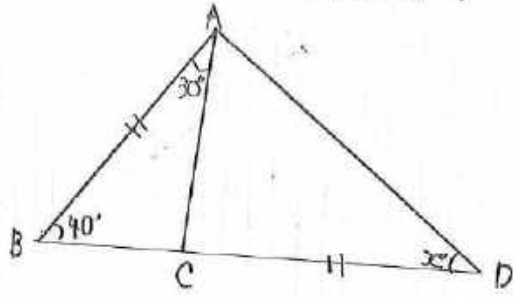
「カッパリエルの原理」



面積が同じ

問題2

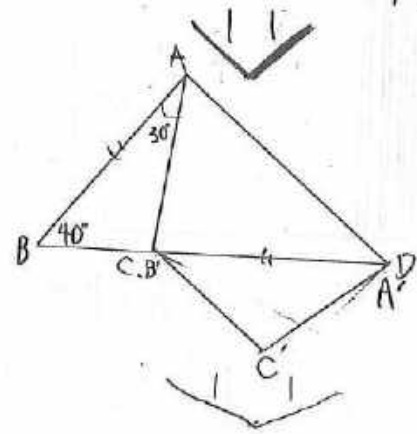
$\angle ADC$ は何度か。



解答

$\triangle ABC$ で  
 $\angle ACB = 180^\circ - 70^\circ = 110^\circ$  なので  
 $\angle ACD$ は  $180^\circ - 70^\circ = 110^\circ$

$\triangle ABC$ を図のように移動する。そして、A、B、Cの移動先をそれぞれA'、B'、C'とする。



$\angle ACC' = \angle ACD + \angle A'B'C' = 70^\circ + 40^\circ = 110^\circ$  — ①  
 $\angle A'C'B' = 110^\circ$  — ②

①、②で  $AC = A'C'$  になる  
 そうすると  $AB'C'$  は等脚台形になる。  
 $\therefore AD \parallel B'C'$

錯角だから  $\angle ADC = \angle C'B'A'$   
 よって  $\angle ADC = 40^\circ$

$\therefore \angle ADC = 40^\circ$

# 慶應義塾大学の問題を解いて

## レポートのあらすじ・取り組み

このレポートは、今まで自分では苦手だった  
『場合の数』について書いてみました。

細かく表を書いてみると、理解することができました。

## レポートの内容

問題1. A・B・C・Dの4人はグループで旅行に行き、  
旅館に宿泊することにした。「松」「竹」「梅」の3つの部屋を  
予約した。空き部屋を作ることなく部屋割りを考えると  
①  通りある。またEが加わり5人でいくと部屋割りは  
③  通りになる。

まず最初に空き部屋がある場合も含めて、部屋を決める場合の数  
Aは「松」「竹」「梅」の3通り、B・C・Dも同様なので

$$3 \times 3 \times 3 \times 3 = \text{「81通り」} - \text{①}$$

次にちょうど1部屋が空き部屋になるのは

松	竹	梅
○	○	
	○	○
○		○

・「梅の部屋が空く場合」

Aは2つの部屋を選べるので、2通り

B・C・Dも同様なので、

$$2 \times 2 \times 2 \times 2 = 16 \text{通り}$$

これから全員が1部屋に入る2通りをひいて

$$16 - 2 = 14 \text{通り}$$

左の図より

- ・「梅の部屋」が空く場合
  - ・「松の部屋」が空く場合
  - ・「竹の部屋」が空く場合
- の3通りがあるので

$$3 \times 14 = 42 \text{通り} \quad - \text{②}$$

・ また、ちょうど2部屋空く場合は

松	竹	梅
○		
	○	
		○

2部屋が空くというのは、A・B・C・Dの全てが同じ部屋に入っているということなので

$$3 \text{通り} \quad - \text{③}$$

①、②、③より

$$81 - 42 - 3 = 36 \text{通り}$$

よって ① は 36通り

また A・B・C・D・E の5人からは同様を考えると

$$\begin{aligned} 3^5 - 3(2^5 - 2) - 3 &= 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 - 3(2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 - 2) - 3 \\ &= 243 - 90 - 3 \\ &= 150 \text{通り} \end{aligned}$$

よって ② は 150通り

問題2. 15人の生徒を収容している寄宿舎がある。健康のために毎日3人ずつ5組に分かれて散歩に行く。毎日同じ人と組んではおもしろくないので、1週間の間、誰もがどの友達とも1度は同じ組になるように下の表のような組み分け表を考えた。ただし生徒には0から14までの番号が付いているが0は表が汚れて読み取れない。またA・B・C・Dは異なる番号をあらわす。このときのA・B・C・Dの番号は

$$A = \overset{①}{\square}, B = \overset{②}{\square}, C = \overset{③}{\square}, D = \overset{④}{\square}$$

日 (0, 1, 4)(2, A, 14)(3, B, 0)(6, 7, 10)(8, C, 12)  
 月 (0, 2, ①)(1, 7, 14)(3, D, 0)(4, ①, 13)(5, 6, 9)  
 火 (0, 3, 14)(1, 8, D)(2, 9, ①)(4, 6, 12)(5, 7, 13)  
 水 (0, 13, ①)(1, ①, 11)(2, 7, ①)(3, 8, 13)(①, 9, 14)  
 木 (0, 7, 9)(1, 12, 13)(2, 3, ①)(4, 5, 8)(10, 11, 14)  
 金 (0, 6, ①)(1, 3, C)(2, 4, D)(5, 12, ①)(7, 8, ①)  
 土 (0, 11, 12)(1, 2, 5)(3, 4, ①)(①, 8, 14)(①, ①, A)

問題より空白に7112をまとめてみた。

日	A, B, C, O	5, 9, 11, 13
月	D, O, O, O	8, 10, 11, 12
火	D, O	10, 11
水	B, O, O, O, O	4, 5, 6, 10, 12
木	O	6
金	C, D, O, O, O	9, 10, 11, 13, 14
土	A, O, O, O, O	6, 7, 9, 10, 13

☆1日2人と組むのが1週間では14人の生徒と対するの2度組むことはない!!

○まず日曜と土曜よりAは9 or 13 と考えられる。

ここで日曜(2, A, 14)、水曜(0, 9, 14)よりAが9だと同じ生徒が来ることになる。よって A=13

○日曜と水曜より共通する数が5しかないのて B=5

○日曜と金曜よりCは9 or 11 or 13 と考えられる。

ここでA=13なのでCは9 or 11となる。

水曜(1, 0, 11)、金曜(1, 3, C)よりCが11だと同じ生徒が来ることになる。よって C=9

○月曜と火曜と金曜よりDは10 or 11 と考えられる。

ここで火曜(1, 8, D)水曜(1, 0, 11)よりDが11だと同じ生徒が来ることになる。よって D=10

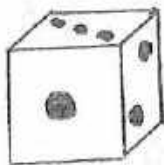
# サイコロの出る目の確率

## レポートのあらすじ・取り組み

確率に興味があった僕は、数学レポートにこのことを書くことに決めました。まず、500回サイコロを振り、その後もう500回振り、その結果をレポートにしました。

## レポートの内容

まず僕の使ったサイコロの説明









約2倍サイズ。

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \text{サイズの体積は、縦} \times \text{横} \times \text{高さ} &= 0.7 \times 0.7 \times 0.7 \\ &= 0.343 \text{ cm}^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{1つの面積は、縦} \times \text{横} &= 0.7 \times 0.7 \\ &= 0.49 \text{ cm}^2 \end{aligned}$$

それぞれの面積が同じなので、  
1つが出る確率は  $\frac{1}{6}$  になる。

本題。まずはサイコロを500回振る。

- ①  (75回)
- ②  (81回)
- ③  (83回)
- ④  (88回)
- ⑤  (79回)
- ⑥  (94回)

・  $500 \div 6 = 83.333\dots$       計算上では約83回になる。  
     $\approx 83$       ↓  
                                しかし、ならなかった。

実験    出たサイコロの目の回数を2倍する。

- ① 150回
- ② 162回
- ③ 166回
- ④ 176回
- ⑤ 158回
- ⑥ 184回

になると予想。



次に、もう500回サイコロを振る。

①	—————	(80回)
②	—————	(78回)
③	—————	(92回)
④	—————	(76回)
⑤	—————	(84回)
⑥	—————	(79回)

約83回にならなかった。

合計 ①  $75 + 80 = 155$

②  $81 + 78 = 159$

③  $83 + 92 = 175$

④  $88 + 76 = 164$

⑤  $79 + 84 = 163$

⑥  $94 + 79 = 173$

$1000 \div 6 = 166.666\dots$   
 $\approx 167$

↓

しかし、な

実験結果。

・ 1として計算通りにならなかった。

・ 1番多い回数と1番少ない回数の差は約20回

分かったこと

・  $500 \div 6 \approx 83$  には 1 だけ  
な

・  $1000 \div 6 \approx 166$  には 1 も なら

## 感想

サイコロを1000回振ったのは疲れた。  
連続で②が4回出た時はびっくりした。  
計算すると、もし10回しかサイコロを振らな  
かったら、その中の $\frac{4}{10} \rightarrow \frac{2}{5}$ は②だった  
ことになる。このことから、確率の世界  
では何が起るか分からないので、不思議  
で楽しいです。

# 円周率の実馬灸

## レポートのあらすじ・取り組み

僕は身の周りにある丸い物の円周率が本当に3.14になるのか本当にメジャーで計って調べました。後円周率の歴史を本で調べました。

## レポートの内容

### 円周率の歴史

#### 資料①

古代のどの文明でもなぜか円周と直径の比を円周率とする。円板をころがすのに由来したのだろう。その精度は数学の発達の指標とされており現代ではコンピューターで40億桁以上計算されておりプログラミングとコンピューターの能力となっている。」

#### 資料②

「1998年にはラマヌジャンが作った未証明の式を利用した計算値が何万桁も正しかったので公式がこれで証明できたと話題になった」

本で調べると上のようなことが書いてありました。これをふまえて、丸い物の円周率が3.14なのかをメジャーで円周と直径を計って計算しました。(式)  $\text{直径} \times \text{円周率} = \text{円周}$

$$\text{円周} \div \text{直径} = \text{円周率}$$

# 実験

## お茶のカップ

$$\begin{aligned} \text{円周} &= 2.42 \text{ cm} \\ &= 242 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{直径} &= 7.6 \text{ cm} \\ &= 76 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$76 \times \square = 242$$

$$242 \div 76 = 3.18 \dots$$

$$\text{円周率} = 3.18 \dots$$

## 車のタイヤ

$$\begin{aligned} \text{円周} &= 236 \text{ cm} \\ &= 2360 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{直径} &= 74 \text{ cm} \\ &= 740 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$740 \times \square = 2360$$

$$2360 \div 740 = 3.18$$

$$\text{円周率} = 3.18 \dots$$

## ガムテープ

$$\begin{aligned} \text{円周} &= 36.6 \text{ cm} \\ &= 366 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{直径} &= 11.6 \text{ cm} \\ &= 116 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$116 \times \square = 366$$

$$366 \div 116 = 3.15 \dots$$

$$\text{円周率} = 3.15 \dots$$

## ヘッドクリーナー(コンビューター)

$$\begin{aligned} \text{円周} &= 11.2 \text{ cm} \\ &= 112 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{直径} &= 3.4 \text{ cm} \\ &= 34 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$34 \times \square = 112$$

$$112 \div 34 = 3.29$$

$$\text{円周率} = 3.29 \dots$$

## 植木鉢(大)

$$\begin{aligned}\text{円周} &= 85\text{cm} \\ &= 850\text{mm}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{直径} &= 27\text{cm} \\ &= 270\text{mm}\end{aligned}$$

$$270 \times \square = 850$$

$$850 \div 270 = 3.14$$

$$\text{円周率} = 3.14 \dots$$

## 植木鉢(小)

$$\begin{aligned}\text{円周} &= 37.8\text{cm} \\ &= 378\text{mm}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{直径} &= 11.9\text{cm} \\ &= 119\text{mm}\end{aligned}$$

$$119 \times \square = 378$$

$$378 \div 119 = 3.17 \dots$$

### ○実験をした感想

×シャできっちり円周と直径をはかるのがむずかしかった。

またタイヤなどをはかる時はとてもむずかしかった。

### ○まとめ

円周率はだいたい3.14ということがわかった。

またきっちり円周と直径をはかれば円周率は3.14になる。

# 数学の広場

レポートのあらすじ・取り組み

僕はインターネットで「数学の広場」という所に載っている「挑戦状」の問題を解きました。

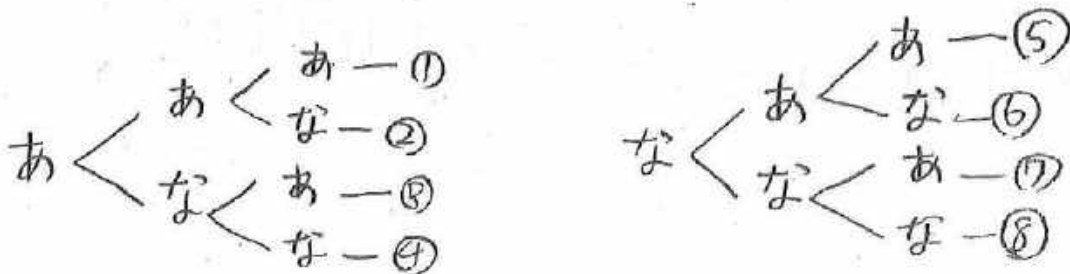
レポートの内容

## 問題 1

「2度ある事は3度ある」と「3度目の正直」についてどちらが正しいのか確率的に求める。

まず木対系図にしてみました。

ある=あ      ない=な



## 結果

「2度ある事は3度ある」になるパターンは、①のパターンと⑧のパターンの2通りです。全部で8通りあるので

$$\frac{2}{8} = \frac{1}{4}$$

「3度目の正直」になるパターンは②のパターンと①のパターンの2通りなので  $\frac{2}{8} = \frac{1}{4}$

よって、「2度ある事は3度ある」と「3度目の正直」の起こる確率は、 $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{4}$ なので同じだと分かりました。

### 感想

僕は今まで「2度ある事は3度ある」の二つのことわざを不思議に思っていました。何故意味の反対の言葉があるか分かりませんでした。けど問題を通して理由が分かりました。2つのことわざは、起こる確率が同じなだけだからです。だから、どちらも正しいと言えないので、2つあると思いました。

次の問題も「挑戦状」の問題です。

### 最初

「11, 22, 33, ……」1ヶタの同じ整数を2つならべて2ヶタの整数を作るとある素数で必ず割り切れる」と、言うふうに問題を変えてみる。そうすると11で割り切れる事が分かる。

### 次に

「7474のように、2ヶタの同じ整数を2つならべて4ヶタの整数を作ると、ある素数で必ず割り切れる」と、言うふうに問題を変えてみる。1ヶタのように考えると、 $7474 = 7400 + 74 = 74 \times 100 + 74$ となる。

### 素数を求める

2ヶタの整数を $x$ とすると、 $100x + x = x(100 + 1) = 101x$ となる。よって101は素数なので、7474の素数は101となる。

### 本題

3ヶタの整数を $x$ とすると

$371371 = 371000 + 371 = 371 \times 1000 + 371$   
 $100x + x$ と表せる。

分母已法則を用いて

$x(1000+1) = 1001x$  となるから 1001 の倍数である。

1001 の素因数を順番に調べます。

1001 は一の位が 1 なので素因数の一の位は、1 か 3 か 7 でしかありません。

$1001 \div 3 = 333 \dots 2$  となり割り切れません。

$1001 \div 7 = 143$  となり割り切れました。

つまり 143 が 1001 の素因数である事が分かりました。そして、143 で 391371 を割り、てみると、2547 とキレイに割り切れました。

次に一の位が 3 なので素因数の一の位は 1 か 3 か 7 か 9 でしかありません。

$143 \div 3 = 47 \dots 2$  となり割り切れません。

$143 \div 7 = 20 \dots 3$  となり割り切れません。

$143 \div 9 = 15 \dots 8$  となり割り切れません。

つまり 143 は素数です。

## 感想

この問題を解いて、一見難しくて解けない問題も、ちゃんと順番を立てて計算すると解けて実感しました。



# 算数 / ミュージック / 平和

## レポートのあらすじ・取り組み

インターネットを使って、4をこえるサイト  
見て、その中で、厳選されたミュージックだけを  
おめました。

## レポートの内容

### 目次

1. 奇妙な数
2. 9の倍

# 奇妙な数

自分が好きな1~9までの数  
に9をかけて、その数に  
12345679 をかける。  
すると、自分が好きな数の  
ゾロ目になる!!

ex) 自分が好きな数.....5  
 $5 \times 9 = 45$   
 $45 \times 12345679$   
 $= 555555555$

このマジックを文字式で表します。

自分が好きな数... $x$   
 $9 \times x = 9x$

$9x \times 12345679$   
 $= 111111111x$

と、なるので自分が  
好きな数のゾロ目になる。

# 9 の 倍 数

- 1) 3以上の好きな数を紙に書く
- 2) かいた数の右に0をつける
- 3) 0をつけた数から始めに書いた数を引く
- 4) 3)でできた数の数字をすべてたす
- 5) そうしてできた数は絶対に9の倍数になる。

- ex)
- 1) 自分の好きな数.....8552
  - 2) 8552の右に0をつける...85520
  - 3)  $85520 - 8552 = 76968$
  - 4)  $7+6+9+6+8 = 36$   
 $9 \times 4 = 36$

このマシクを文字式で表します

好きな数.....  $1000x + 100y + 10z + a$

$$10(1000x + 100y + 10z + a)$$

$$10(1000x + 100y + 10z + a) - (1000x + 100y + 10z + a)$$

$$= 10000x + 1000y + 100z + 10a - 1000x - 100y - 10z - a$$

$$= 9000x + 900y + 90z + 9a$$

$$= 9(1000x + 100y + 10z + a)$$

よ.なるので.9の倍数  
になる。

# $\sqrt{2}$ を分数で表す

## レポートのあらすじ・取り組み

$\sqrt{2}$  は「永遠に割り切れない数」であることを知った。

では  $\sqrt{2}$  を分数で表すことはできるのか？

これを調べるために「分数で表すことのできる割り切れない数」の性質を調べることから始めた。

## レポートの内容

まずよく知られている割り切れない分数を例にあげて考えていきたい。

$$\frac{1}{3} = 0.33333 \dots$$

$$\frac{1}{7} = 0.142857142857142857 \dots$$

$$\frac{1}{11} = 0.090909 \dots$$

この3つの特徴について考える。

$\frac{1}{3}$  の場合 小数部分は3だらけ つまり永遠に3がづく

$\frac{1}{11}$  の場合 整数部分の0の後 090909 というふうに0と9が

$\frac{1}{7}$  の場合 不規則に数字が並んでいるように見えるがよく見ると

小数部分が「142857」を1セットとしてそれが永遠に続いている。

このように「割り切れない分数」というのは規則的に並ぶ数字によってできていることがわかる。このような数を「循環小数」と呼ぶ

また循環小数は

$$\frac{1}{3} = 0.\dot{3} \quad \frac{1}{7} = 0.1\dot{4}285\dot{7} \quad \frac{1}{11} = 0.\dot{0}9$$

というふうに表わせる。

では循環小数を分数で表すにはどうすればいいか?

Q108 以下のを覚えてみよう

$x = 0.108$  — ① とおくと  $1000x = 108.108$  — ②

② - ①

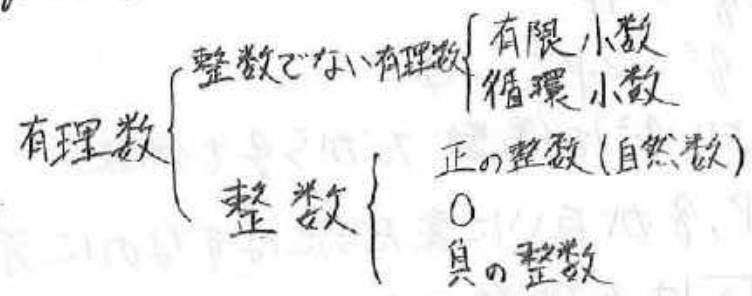
$999x = 108$        $111x = 12$        $37x = 4$        $x = \frac{4}{37}$

このように循環小数は  $\frac{\text{整数}}{\text{整数}}$  で表すことができることが分かった。

$\frac{\text{整数}}{\text{整数}}$  で表すことのできる数のことを「有理数」という。

### 有理数の定義

$P, q (q \neq 0)$  が整数のとき  $\frac{P}{q}$  と表すことのできる数を有理数という。



$\sqrt{2}$  がもし「分数で表すことのできる数」(有理数)だとすれば  $\sqrt{2}$  が含まれる可能性のある場所は「循環小数」に限られる。

では  $\sqrt{2}$  は循環しているのか?

$\sqrt{2} = 1.41421356237 \dots$

これを見ると  $\sqrt{2}$  は循環していないように見える。しかしここで簡単に  $\sqrt{2}$  は循環小数(有理数)でないと決めつけるはいけない。なぜなら循環小数には100個以上の数字の列を1セットとして循環しているものもあるからだ。

ではどうしたら「分数で表せるのか?」という問いに答えられるのか?

ここで有理数の定義を思い出してみると有理数とは  $\frac{P}{q} (q \neq 0)$  で表せるものである。

ということはもし  $\sqrt{2}$  が循環小数(有理数)だとすれば

$\sqrt{2} = \frac{P}{q} (q \neq 0)$  とおけるのではないだろうか?

ここから「 $\sqrt{2}$ は有理数なのか？」というのを解決したいと思う。

$\sqrt{2}$ を有理数と仮定する。

仮定より  $\sqrt{2} = \frac{p}{q}$  ( $q \neq 0$   $p, q$ は互いに素)

両辺を2乗

$$2 = \frac{p^2}{q^2} \quad 2q^2 = p^2 \quad \text{--- ①}$$

①より  $p^2$ は偶数  $2$ 乗して偶数になるのは偶数だけ

よって  $p = 2p'$  --- ② とおける だから  $p$ も偶数

②を①に代入する

$$2q^2 = (2p')^2$$

$$2q^2 = 4p'^2$$

$$q^2 = 2p'^2 \quad \text{--- ③}$$

③より  $q^2$ は偶数だから  $q$ も偶数

ここで  $p, q$ が互いに素だったはずなのに矛盾

よって  $\sqrt{2}$ は有理数でない。

これによって「 $\sqrt{2}$ は有理数でない」つまり「 $\sqrt{2}$ は循環小数でない」  
ことがわかった。

よって

「 $\sqrt{2}$ は分数で表すことができない」

$\sqrt{2}$ のような数を「無理数」という。

「無理数」とは「循環しない無限小数」

ちなみに  $\sqrt{3}$ や  $\sqrt{5}$ , 円周率の  $\pi$  なども無理数である。

# 円周率は本当に3.14か?

## レポートのあらすじ・取り組み

円周率が本当に3.14なのかを身の回りにおける色々な円型の物を計り、円周率を求めて最後にそれらの平均を求め調べます。  
割り切れなかった時は四捨五入をして小数第2位まで求める。

## レポートの内容

計った物	直径	円周	円周率
単一電池	約3.35cm	約10.5cm	3.13
単二電池	約2.25cm	約8cm	3.15
一円玉	2cm	約6.3cm	3.15
五円玉	約2.2cm	約6.9cm	3.14
十円玉	約2.3cm	約7.2cm	3.13
百円玉	約2.2cm	約7.2cm	3.14
五百円玉	約2.7cm	約8.5cm	3.15
スプレー缶A	約6cm	約19cm	3.16
スプレー缶B	約4.6cm	約14.5cm	3.15
スプレー缶C	約6.5cm	約20.5cm	3.15
缶	約6cm	約18.8cm	3.13
コースター	約10cm	約31.5cm	3.15
貯金箱	約7.6cm	約24cm	3.16

ゴッフ <sup>o</sup>	約7.2cm	約23cm	3.19
CD	約12cm	約38cm	3.17
クッキー缶	約19.2cm	約60cm	3.13
ボール	約9.2cm	約29cm	3.15
フィルムケース	約3.1cm	約9.8cm	3.16
手かがみ	約7.8cm	約24.5cm	3.14
ホース	約3.3cm	約10.4cm	3.15

$$\begin{aligned}
 & (3.13 + 3.15 + 3.15 + 3.14 + 3.13 + 3.14 + 3.15 + 3.16 + 3.15 + 3.15 + 3.13 \\
 & + 3.15 + 3.16 + 3.19 + 3.17 + 3.13 + 3.15 + 3.16 + 3.14 + 3.15) \div 20 \\
 & = 3.149 = 3.15
 \end{aligned}$$

結果は3.15になったが「メジャーで計っただけ11の数字なのでキチリ計ると3.14になると思う。このことから円周率は3.14に近しいということがわかった。



# 携帯電話の通話時間と料金 (料金グラフ)

## レポートのあらすじ・取り組み

各社の携帯料金のプランについて...

## レポートの内容

携帯電話のプラン式!

αのプラン式. (1分未満は1分として計算)

コミコミコール スーパー [15分以上話す人に~] 毎  
 $y = 13500 + 15x \rightarrow$  かかる料金 (払うお金)  $y$   
(600分まで)  $x =$  時間 (分) です

コミコミコール シェンボ [10分未満話す人に~] "  
 $y = 9800 + 20x \rightarrow$  " "  
 $x =$  時間 (分) です

コミコミコール L [5分未満話す人に~] "  
 $y = 5800 + 30x \rightarrow$  " "  
 $x =$  時間 (分) です

コミコミコール S [1日1回しか話さない人に~] "  
 $y = 3900 + 40x \rightarrow$  " "  
 $x =$  " "

auのうっき

～～～アドバイス～～～  
コミコミュールスーパーを使う人は1ヶ月に10時間以上  
話す人(9時間10分以上)が入るべき!!

もし10時間以上話してコミコミュールジヤニボに入っている人は  
1100円多く払うことになりまふ。しかも10分につき50円多く払わせら  
れます。

それ外、10時間も話さないと2時間とかしか話していないのに  
スーパーに入っている人は"ジヤニボに入っている人外) 2300円  
多く支払分されまふ。

次はドコモです。

ドコモのプラン

割引引きはしていません

おはなし プラス Big (たっぷり話したい人用)

$y = 8800 + 25x$  → かかる料金 (払う金額)  $y$   
25円は約である  $x$ は時間(分)です

おはなし プラス L (毎日よく話う人用)

$y = 5200 + 28x$  → " "  
28円は約である "

おはなし プラス M (手軽に持っておきたい人用)

$y = 3900 + 30x$  → " "  
30円は約である "

プラン A (ドコモの基本プラン)

$y = 4500 + 25x$  → " "

● → 付ドコモでは旧の通話料金を変えることが出来る  
なので平均を取って計算してあります

TN-ka の 7° ランク (特別な割引引当はしていません)

・ V3 - カ - V3 (V3 - カ - の基本プラン)

$y = 1700 + 30x \rightarrow$  かかる料金(払う金額)  $y$

V3 - カ - 同じ料金(15x)  $\rightarrow$  50% OFF ~ !!

30円、15xは 15円 x 1分 の料金が 15円より約大なり  
x = (分) である

・ V3 - カ - V3 ス - 11° - (基本使用料が通話料??)

$y = 5800 + 28x \rightarrow$  " " " "

V3 - カ - 同じ  $\rightarrow$  (14x)  $\rightarrow$  50% OFF ~  
xは時間(分)である

・ V3 - カ - V3 ロイヤル (沢山電話しても OK)

$y = 10800 + 24x \rightarrow$  " " " "

V3 - カ - 同じ  $\rightarrow$  (12x)  $\rightarrow$  " "  
xは時間(分)である

V3に入るには 2000円 かかります

V3 - カ - V3 ス - 11° - } はストリ=セ=ジ . ez-web  
V3 - カ - V3 ロイヤル } ができます

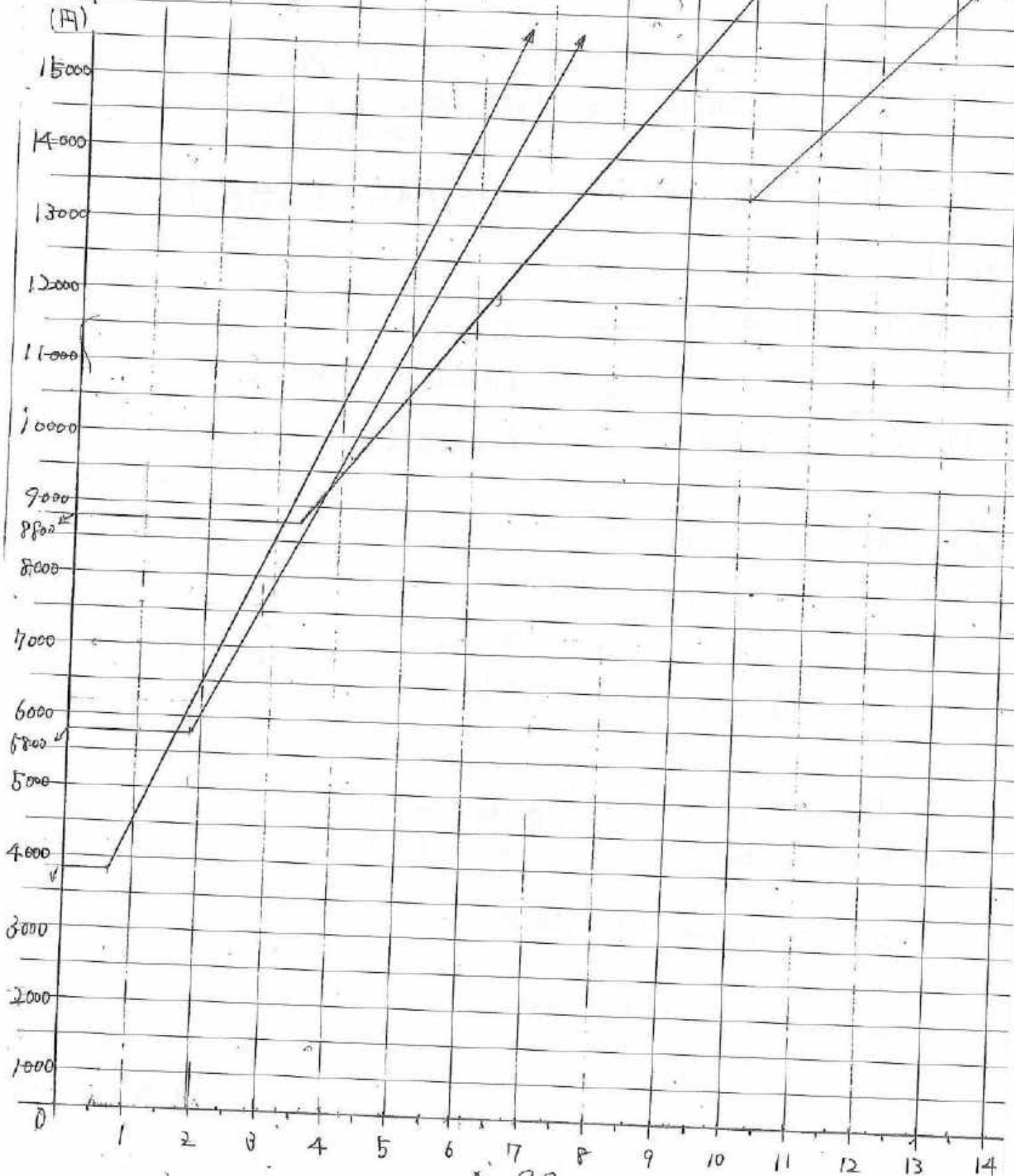
ス - 11° - は 5000円通話料無料

ロイヤル は 10000円通話料無料 である  
(1円)

以上終了

# テーマ 携帯の通話時間と料金 (料金表グラフ)

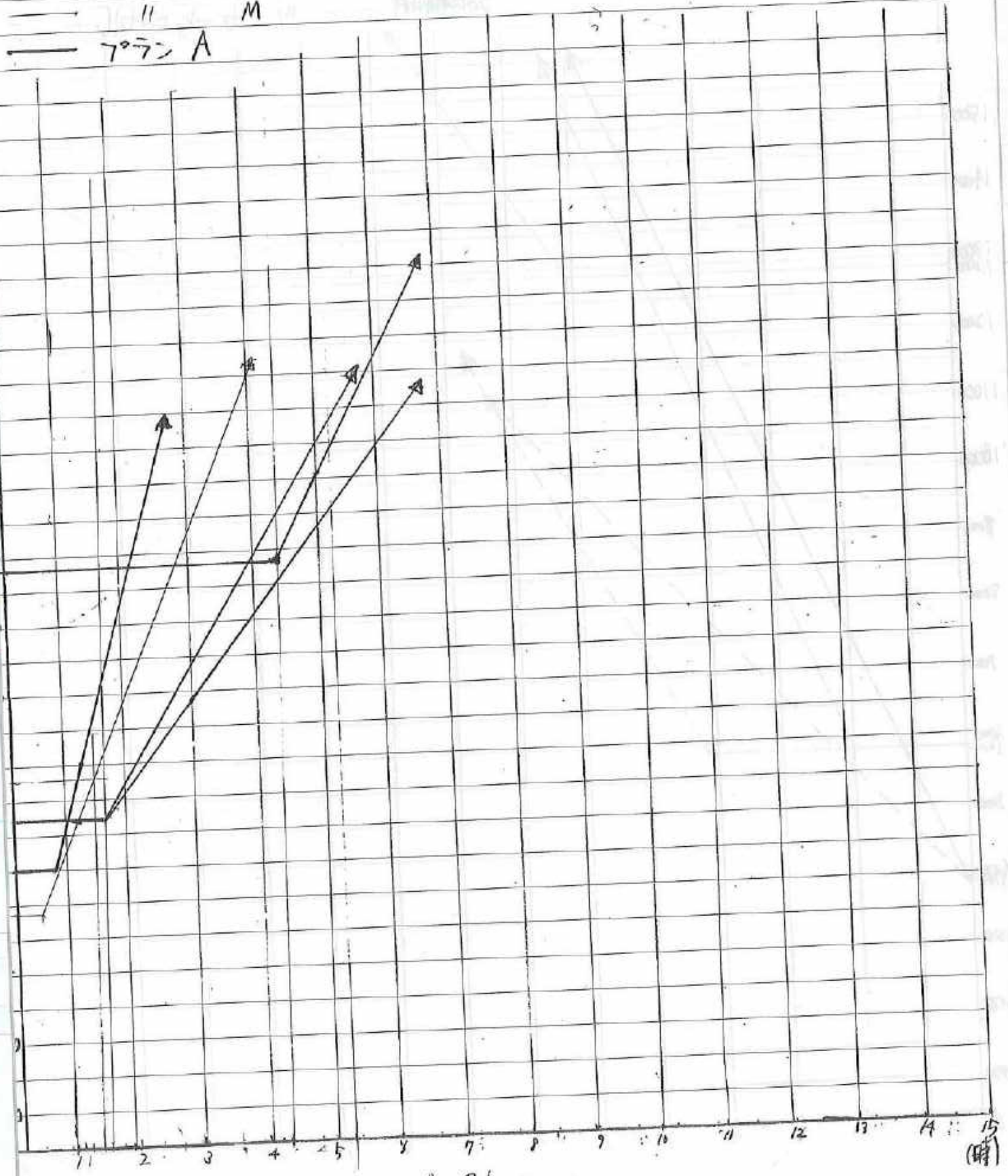
フジフールス-11-  
 " エンボ  
 " L AU (グラフ) [なんの割引きもしては  
 " S



A-90

# Docomo のグラフ (割引率(ていせう))

- おはなし7077big
- " L
- " M
- 7077 A



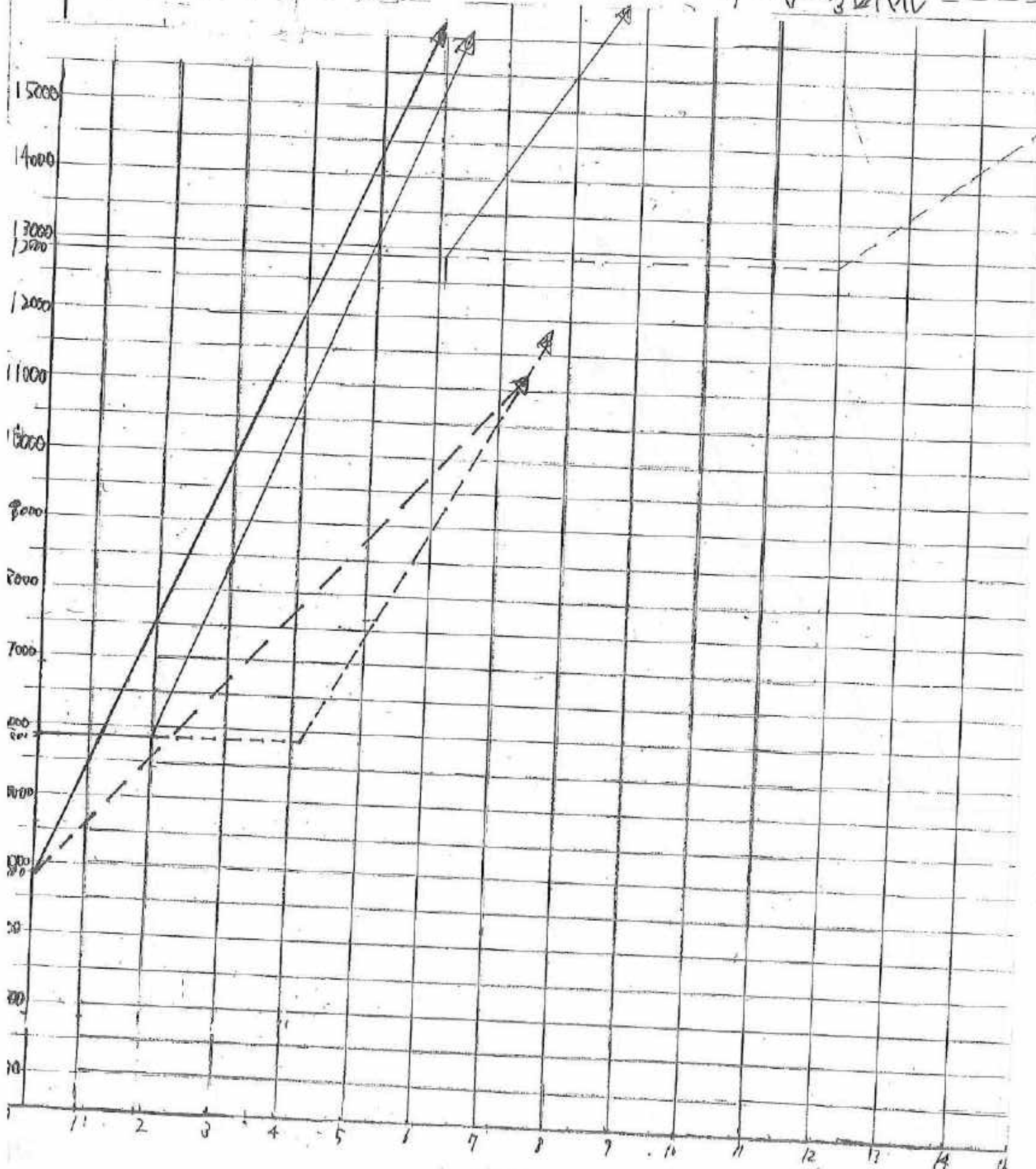
A-91

15 (時)

Tu - fa のグラフ (資料引合していません)  $\gamma - \gamma$

追加  
2000円増

$\gamma - \gamma - V_3$   
 $\gamma - \gamma - V_3 \times 1.1$   
 $\gamma - \gamma - V_3 \times 1.2$



A-92

ml

# 数学の森

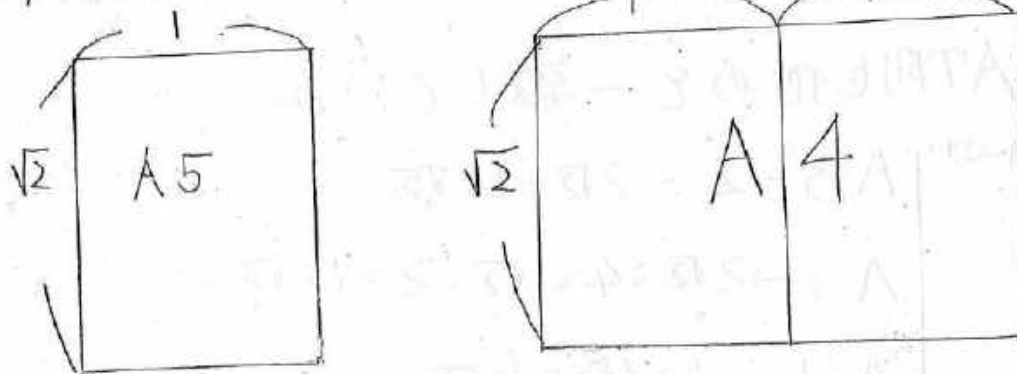
レポートのあらすじ・取り組み

今回は数学の教科書の最後についている  
数学の森からおもしろそうな問題を3問  
解いてみました。

レポートの内容

## 紙にひそむルート

A5判と呼ばれる紙の大きさの2辺の比は  
 $1:\sqrt{2}$ となっていてA5判を2枚ならべると  
A4判と呼ばれる大きさになります。



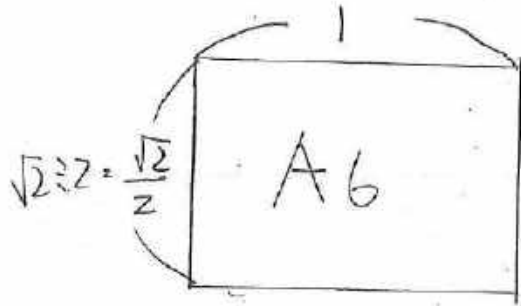
A4の2辺の比を調べると

$$\sqrt{2} : 2 = \sqrt{2} : \sqrt{2} \times \sqrt{2}$$

$$= 1 : \sqrt{2}$$

となりA5判の2辺とも一致することが分かる

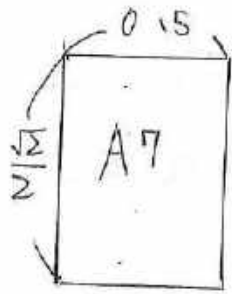
☆A5判を半分にした長方形(A6判)の2つの辺について調べる。



$$\begin{aligned} \frac{\sqrt{2}}{2} : 1 &= \frac{\sqrt{2}}{2} \times 2 = 1 : 2 \\ &= \sqrt{2} : 2 \rightarrow 2 = \sqrt{2} \times \sqrt{2} \\ &= \sqrt{2} = \sqrt{2} \times \sqrt{2} \\ &= 1 = \sqrt{2} \end{aligned}$$

これもA5判とA4判の比と一致することが分かった。

☆他の大きさについても調べる



$$\begin{aligned} 0.5 : \frac{\sqrt{2}}{2} &= 0.5 \times 10 = \frac{\sqrt{2}}{2} \times 10 \\ &= 5 = 5\sqrt{2} \\ &= 1 = \sqrt{2} \end{aligned}$$

A7判も他のと一致している。

小さい ↓

$$\begin{aligned} A3 \rightarrow 2 &= 2\sqrt{2} = 1 : \sqrt{2} \\ A2 \rightarrow 2\sqrt{2} &= 4 = \sqrt{2} : 2 = 1 : \sqrt{2} \\ A1 \rightarrow 4 &= 4\sqrt{2} = 1 : \sqrt{2} \\ A0 \rightarrow 4\sqrt{2} &= 8 = 1 : \sqrt{2} \end{aligned}$$

大きい ↓



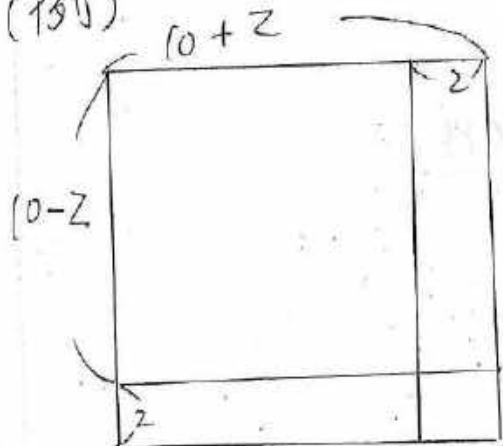
A0からA7までの2辺の比はすべて等しい。



# 2次方程式の歴史

2次方程式の歴史は1次方程式と同じように古く紀元前2000年頃のバビロニア人が土地の面積を求めたり、土木工事を行ったりする必要から方程式を解いたという記録が残っている。

(例)



○長方形の2辺の和が20m、面積が96m<sup>2</sup>のとき

2辺の長さをx m, y mとして、2辺の和が20mなので一方が10mよりz m長いとすると他方は10mよりz m短いとなるので

$$x = 10 + z \quad y = 10 - z$$

面積は96m<sup>2</sup>なので

$$xy = (10+z)(10-z) = 96$$

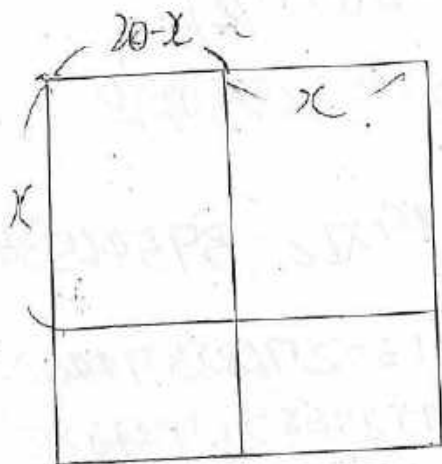
$$z^2 = 4 \text{ だから } z = 2$$

よって

$$x = 10 + z = 12 \text{ m}$$

$$y = 10 - z = 8 \text{ m} \text{ となる}$$

★上の問題を2辺の長さをx m, (20-x) mとして2次方程式をつくらせて解いてみる。



$$(20-x) \times x = 96$$

$$20x - x^2 = 96 = -x^2 + 20x - 96$$

$$x^2 - 20x + 96 = 0$$

$$(x-8)(x-12) = 0$$

$$x = 8, x = 12$$

は両方ともおてけまうので

$$x = 8, 12$$

xは8mと12mとなる

日本の数学 — 和算 — (おすゝめ)

問 正月に父母のおすゝめが12匹子供を生み翌年  
またその子供が12匹子供を生む。  
三月のおすゝめの数を計算して、どなたか急に  
おすゝめの数が増えていくのかを言明べてみる。(三月以外も)

$$1月 \quad 2 + 12 = 14$$

$$2月 \quad 14 + 17 \times 12 = 98$$

$$3月 \quad 98 + 49 \times 12 = 686 \quad \text{3月 } 686匹$$

$$4月 \quad 686 + 343 \times 12 = 4802$$

$$5月 \quad 4802 + 2401 \times 12 = 235298$$

$$6月 \quad 33614 + 16802 \times 12 = 235298$$

$$7月 \quad 235298 + 117649 \times 12 = 1647086$$

$$8月 \quad 1647086 + 823543 \times 12 = 11529602$$

$$9月 \quad 11529602 + 5764801 \times 12 = 80707214$$

$$10月 \quad 80707214 + 40353607 \times 12 = 564950498$$

$$11月 \quad 564950498 + 282475249 \times 12 = 3954653486$$

$$12月 \quad 3954653486 + 1977326743 \times 12 = 27682574402$$

$$12月は 27682574402匹$$

となる

昔の日本にもこんな問題が来るのにびっくりした。

## レポートのあらすじ・取り組み

公式をつくるときにどうすれば簡単にわかりやすく解くことができたか考えた。

## レポートの内容

### 式の展開の規則制

$$(x+y) = x+y$$

$$(x+y)^2 = x^2 + 2xy + y^2$$

$$\begin{aligned}(x+y)^3 &= (x^2 + 2xy + y^2)(x+y) \\ &= x^3 + 2x^2y + xy^2 + x^2y + 2xy^2 + y^3 \\ &= x^3 + 3x^2y + 3xy^2 + y^3\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}(x+y)^4 &= (x^3 + 3x^2y + 3xy^2 + y^3)(x+y) \\ &= x^4 + 3x^3y + 3x^2y^2 + xy^3 + x^2y + 3xy^2 + 3xy^3 + y^4 \\ &= x^4 + 4x^3y + 6x^2y^2 + 4xy^3 + y^4\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}(x+y)^5 &= (x^4 + 4x^3y + 6x^2y^2 + 4xy^3 + y^4)(x+y) \\ &= x^5 + 4x^4y + 6x^3y^2 + 4x^2y^3 + xy^4 + x^4y + 4x^3y^2 + 6x^2y^3 + 4xy^4 \\ &\quad + y^5 \\ &= x^5 + 5x^4y + 10x^3y^2 + 10x^2y^3 + 5xy^4 + y^5\end{aligned}$$



$$(x+y) = x + y$$

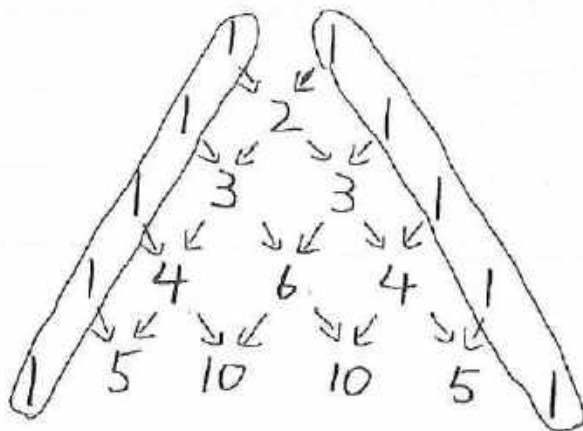
$$(x+y)^2 = x^2 + 2xy + y^2$$

$$(x+y)^3 = x^3 + 3x^2y + 3xy^2 + y^3$$

$$(x+y)^4 = x^4 + 4x^3y + 6x^2y^2 + 4xy^3 + y^4$$

$$(x+y)^5 = x^5 + 5x^4y + 10x^3y^2 + 10x^2y^3 + 5xy^4 + y^5$$

⇓ なにか規則制がないか調べるため  
文字を省き係数だけ書き出す



パスカルの三角形

この数列から

① 両端は必ず「1」になっている

② 下の数は上の数の和になっている

ことがわかった。

# 1) 7戦の公式

- 24-4 → 1試合  $\downarrow^2$
- 34-4 → 3試合  $\downarrow^3$
- 44-4 → 6試合  $\downarrow^4$
- 54-4 → 10試合  $\downarrow^5$
- 64-4 → 15試合  $\downarrow^6$
- 74-4 → 21試合  $\downarrow^6$

54-4の場合

	A	B	C	D	E
A		○	○	○	○
B	●		○	○	○
C	●	●		○	○
D	●	●	●		○
E	●	●	●	●	

↓ ↓ 斜線を左はし  
よせる

x4-4 → ?

同じ組み合わせ  
を消すため

$$5 \times (5-1) \times \frac{1}{2}$$

参加4-4数 ↓

対戦4-4数だが自分の4-4  
とは戦えないので「1」を引く

	A	B	C	D	E
A		○	○	○	○
B		●	○	○	○
C		●	●	○	○
D		●	●	●	○
E		●	●	●	●

よってx4-4の時の試合数は

$$x \times (x-1) \times \frac{1}{2} = \frac{x^2 - x}{2} \text{ 試合}$$

となる

# 算数オリンピックの問題を解いて...

## レポートのあらすじ・取り組み

僕は算数オリンピックの問題を解いてどのようにして解けばいいのかを考えた。

## レポートの内容

1, 2, 3, 4, 5 を下の式の□の中に入れて計算の結果を最大にしろ。

$$\square + \square - \square \times \square \div \square = ?$$

## 参考文献

「算数オリンピックに挑戦」

PIII 問1141

# 解説

まず僕が考えたことは問題にある  
計算の結果を最大にするという条件から

$\square + \square - \square \times \square \div \square$  の  $\square + \square$  を  
最も大きい数にし、 $\square \times \square \div \square$  を最も小さい  
数にすれば答えにすればいいと思いました。

そこで  $\square + \square$  は当然  $5 + 4$  にします

次に  $\square \times \square \div \square$  は  $\div \square$  を  $1, 2, 3$  の中で  
最も大きな数にすればいいので  $3$  にします。

すると、必然的に残りは  $1 \times 2$  になり

$\square$  に数を代入してみると

$$5 + 4 - 1 \times 2 \div 3$$

(11原序はどちがでもよい)      (11原序はどちがでもよい)

$$= 8\frac{1}{3}$$

# 感想

僕はなぜこの問題をしようと思ったか

僕はレポートの問題は「オモシロイ」問題  
にすると決めていてこの問題は目見て面白そう  
だと思っただけです。

実際、この問題をとくには

数学的な知識(公式など)を使うのではなく

常識的な知識(あるいは「 $\pi$ 」なる)を使うことが  
面白かったです



# 算数オリシピックを解いて... パートII

## レポートのあらすじ・取り組み

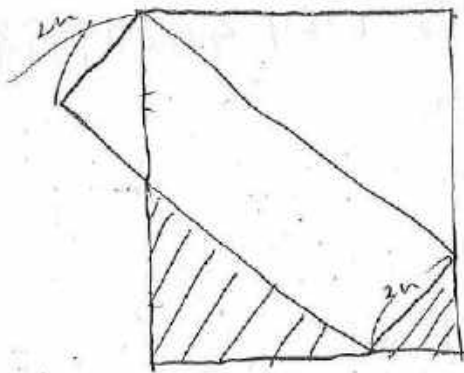
僕は苦手な図形の問題を解いてみようと思ったので、この問題に挑戦しました。

## レポートの内容

2つの長方形を図のように重ねて置きます。

小さい方の長方形の幅は  $2m$  で  $A$  ㎝ 大きい方の長方形の1辺の中点であるとするとき図の中の  $\square$  の面積は

$A$   $\text{cm}^2$  となる



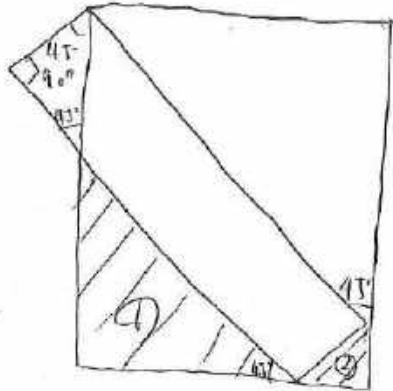
参考文献!

算数オリシピックに  
挑戦! p102 図16参照

# 解説

まず求める面積を2に分けて次に

図Ⅱ



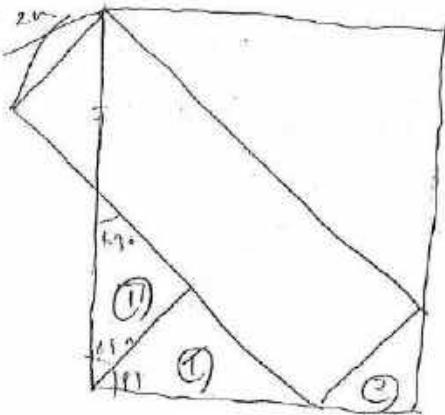
求める角度を求める

②は正方形の半分で対角線が2mなので

$$\begin{aligned} \text{②} &= 2 \times 2 \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \\ &= 1 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

次に求める前に①、②を2に分けて

①、①にする → 図Ⅲ



すると①、①は∟Tでも、1辺2mの正方形の $\frac{1}{2}$ となりその対角線は2mなので

$$\text{①} = 2 \times 2 \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \times 2 = 4 \text{ m}^2$$

$$4 + 4 = 8 \text{ m}^2$$

解言

なぜ僕がこの問題を解こうと思ったのか  
 それはこの問題が僕が中3で図形の問題  
 は前より少し解けるようになったのか  
 図形の問題を解いてみようと思ったからです。

借金し続けると総額いくらになるか。

レポートのあらすじ・取り組み

mathcutというサイトで発見。  
現実の問題になっているので興味を惹かれた。  
表を作ったりと、いろいろ大変だった。

レポートの内容

問題

<1ヶ月目>

ハナコさんはカード会社から20万円借金（カードでキャッシング）しました。月利3%、翌月一括払いとします。

<2ヶ月目> 他のカード会社（あるいは消費者金融）から20万円と金利分を借りて返済しましたが、また、翌月他の会社から借りて返さなければなりません。その上、生活費として新たに5万円借りました。

<以後> 毎月、借金の返済費用と生活費5万円を、次々と違うカード会社（または消費者金融）から借ります。

	元本の返済額	金利	新たな借金
1ヶ月目	200,000	6,000	200,000
2ヶ月目	256,000	7,680	50,000
3ヶ月目	313,680	9,410	50,000
4ヶ月目	373,090	11,192	50,000
21ヶ月目	1,704,728	51,141	50,000
22ヶ月目	1,805,869	54,176	50,000
23ヶ月目	1,910,045	57,301	50,000
24ヶ月目	2,107,346		

ハナコの借金歴で、以下のそれぞれの問いに教えてください。

(1) 実際にハナコが借りて使ってしまった借金の金額はいくらになりますか。

(2) 24ヶ月目までに、金利を払うために借った借金の金額はいくらになりますか。

(3) 1社から借り入れられる限度額が20万円だとすると、24ヶ月目にハナコは、何社から借金する必要があるだろうか。

## よって以下のような表になる

新たな借金とは毎月に借りていくので常に 50000 円  
金利は本来の返済額の 3%

元本の返済額は先月の返済額 + 先月の金利 + 今月の新たな借金

	元本の返済額	金利	新たな借金
1ヶ月目	200,000	6,000	200,000
2ヶ月目	256,000	7,680	50,000
3ヶ月目	313,680	9,410	50,000
4ヶ月目	373,090	11,192	50,000
5ヶ月目	434,282	13,028	50,000
6ヶ月目	497,310	14,919	50,000
7ヶ月目	562,229	16,866	50,000
8ヶ月目	629,095	18,872	50,000
9ヶ月目	697,967	20,939	50,000
10ヶ月目	768,906	23,067	50,000
11ヶ月目	841,973	25,259	50,000
12ヶ月目	917,232	27,516	50,000
13ヶ月目	994,748	29,842	50,000
14ヶ月目	1,074,590	32,237	50,000
15ヶ月目	1,156,827	34,704	50,000
16ヶ月目	1,241,531	37,245	50,000
17ヶ月目	1,328,776	39,863	50,000
18ヶ月目	1,418,639	42,559	50,000
19ヶ月目	1,511,198	45,335	50,000
20ヶ月目	1,606,533	48,195	50,000
21ヶ月目	1,704,728	51,141	50,000
22ヶ月目	1,805,869	54,176	50,000
23ヶ月目	1,910,045	57,301	50,000
24ヶ月目	2,107,346	66,220	50,000

(1)は、今までにハナコが借れた借金の総計なので  
一月目は20万円で二月目は25万6千円.....

という借れた金額をたしていけば良いので

$$200000 + 256000 + 313680 \dots \dots \dots = 2107346$$

$$= 24,352,594$$

ということで総額2435万2594借れたということに  
なります。

(2)は始めの20万以外と毎回の生活費5万を除いた総額  
なので

$$24352594 - (50000 \times 23) - 200000 = 23002594$$

よって2300万2594を借金返済のためにかいていた

こととなります。その内金利が

$$6000 + 7680 + 9410 \dots \dots \dots (23 \text{ヶ月分})$$

$$= 667346$$

よって66万7346を金利を返すだけに借っていたので  
す。

**(3)は24ヶ月後に借りる210万7346を20で割ります。**

$$2107346 \div 200000 = 10.53673$$

**よって11社からも借金しなければなりません。**

**これは多重債務や自転車操業といわれる借り方でもしも利息が付く前に他社から返せばいいように思いますが、実際にはどんどん借金が膨らんでいきます。**

**しかもこれをする人は最初の借金すら返せないのに莫大になつた金額を返せるわけありません。**

**よって自己破産してしまいます。**

## **学んだ事**

**ご利用は計画的に**



# 直線の数と交点の数の関係

新

レポートのあらすじ・取り組み

直線の数と交点の数の関係で、なにか規則性があると思ったので、これを調べてようと思いました。

レポートの内容

平面上にある、平行でない2つの直線は必ず1点で交わる。

直線が10本のとき、交点はいくつあるのか？①

2本のときの交点はいくつになるのか？②

を調べてたいと思います。

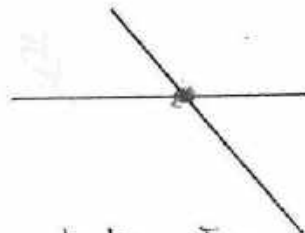


1本



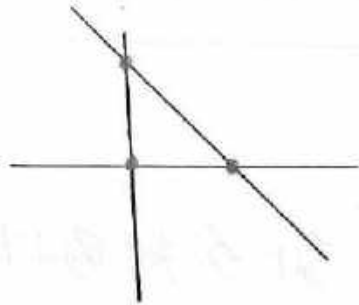
交点の数 0

2本



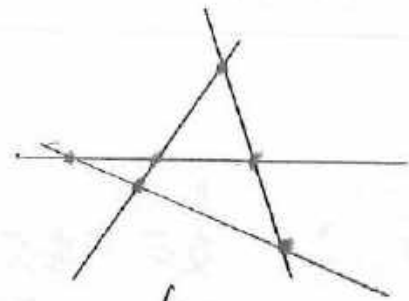
交点の数 1

3本



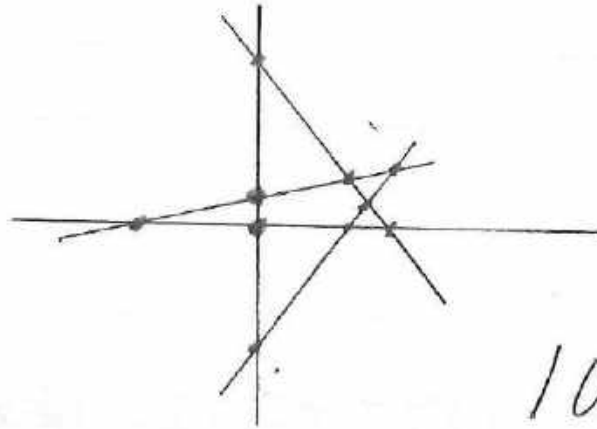
3 =

4本



6 =

5本



10 =

結果

糸束の数	1	2	3	4	5
交点の数	0	1	3	6	10

$\begin{matrix} +1 & +1 & +1 & +1 \\ \text{---} & \text{---} & \text{---} & \text{---} \\ \text{+1} & \text{+1+1} & \text{+1+1+1} & \text{+1+1+1+1} \\ & \text{+1} & \text{+2} & \text{+3} \end{matrix}$

というふうになる

よって

点の増える数は (糸束の数 - 1) となる

計算方法

$$\frac{\text{糸束の数} \times (\text{糸束の数} - 1)}{2}$$

で交点の数が出てくる

①の答え  $\frac{\text{線の数} \times (\text{糸束の数} - 1)}{2}$  にあてはめると

$$\frac{10 \times (10 - 1)}{2} = 45 \text{ となる}$$

A. 45

②の答え  $\frac{\text{糸束の数} \times (\text{糸束の数} - 1)}{2}$  にあてはめると

糸束の数は  $n$  本なので

$$\frac{n \times (n - 1)}{2} \text{ となる}$$

# 交点は何個？

## レポートのあらすじ・取り組み

僕はこの問題をインターネットの友達に教えてもらったサイトの中で、見つけました。なんとなく問題を聞いて、答え合わせをした後で、あることに気付いたのでこの問題を書くことにしました。

## レポートの内容

問. 平面上にある、平行でない2直線は必ず1点で交わります。

つまり

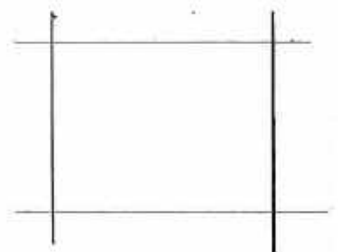
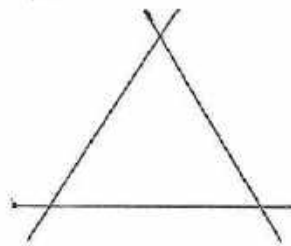
2直線の最大は1個、

3直線の最大は3個です。

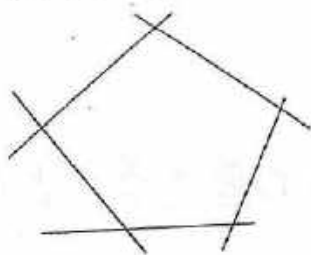
①それでは10本の直線では、交点は最大いくつでしょう？

・・・僕はてきり、

2直線は1個 3直線は3個 4直線は4個



5直線は5個

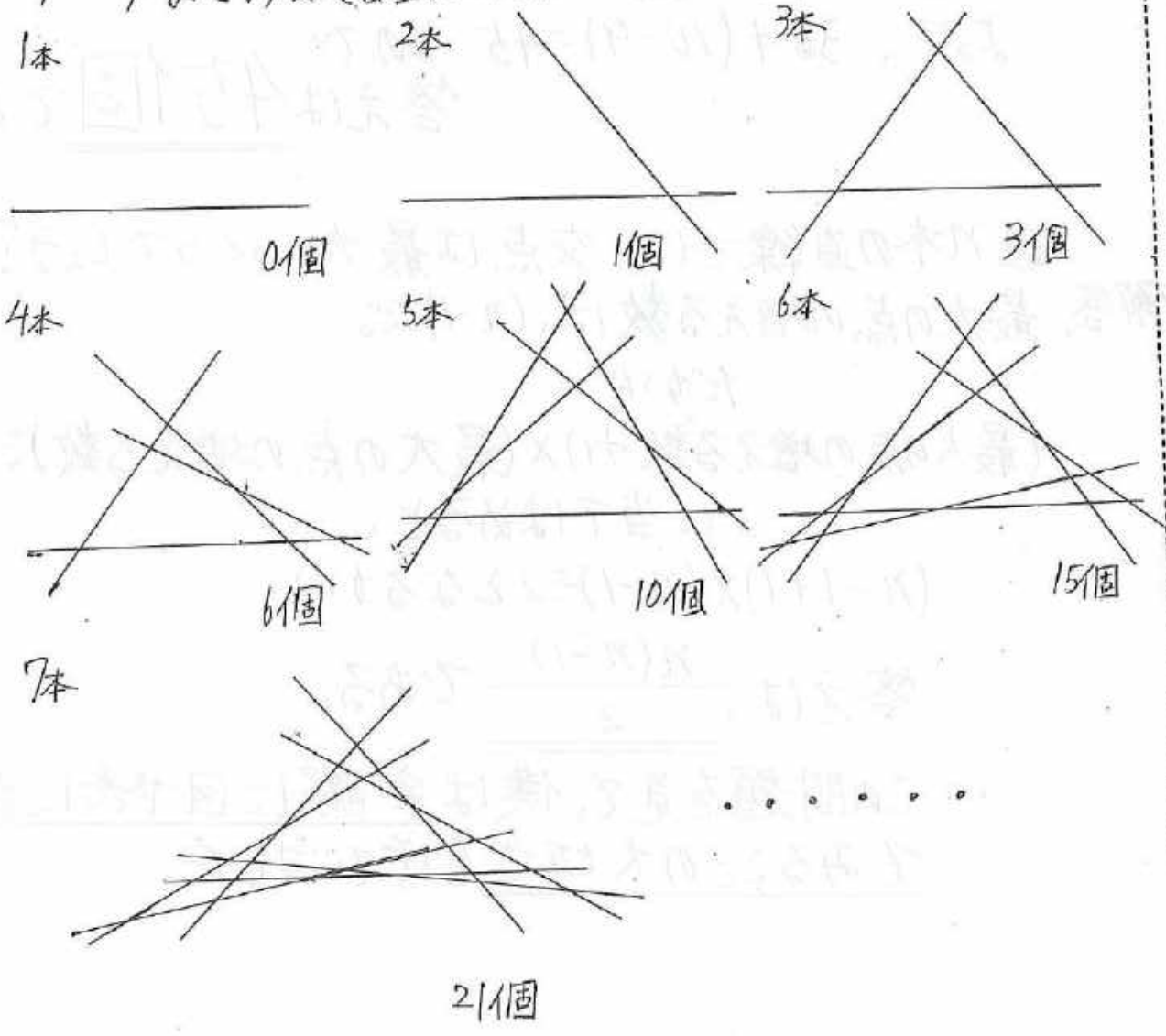


.....だと頭の中で想像していたので、

答えは10個だと思っていました。

でも、僕の答えは見事にはずれていました。

解答. 1~7までの数を図に表してみよう。



次に表に表してみよう。

線の数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
点数	0	1	3	6	10	15	21	28	36

$\underbrace{\quad\quad\quad\quad\quad\quad\quad\quad\quad}$   
 1 2 3 4 5 6 7 8

表を見ればわかるように、数が「増える」ごとに、1ずつ増え方が増えていく。

線の数が2つのときは、1点の数が「増える」。(2-1)の考えだ。点の増える数は(線の数-1)だということがわかる。

よって、 $36 + (10 - 9) = 45$  なので  
 答えは 45個 である。

② n本の直線では、交点は最大いくつでしょう？

解答. 最大の点の増える数は、(n-1)だ。

だから

(最大の点の増える数+1) × (最大の点の増える数) ÷ 2  
 に当てはめると、

$(n-1+1) \times (n-1) \div 2$  となるから、

答えは、 $\frac{n(n-1)}{2}$  である。

... この問題を見て、僕は 実際に図や表に表してみる ことの大切さを学びました。

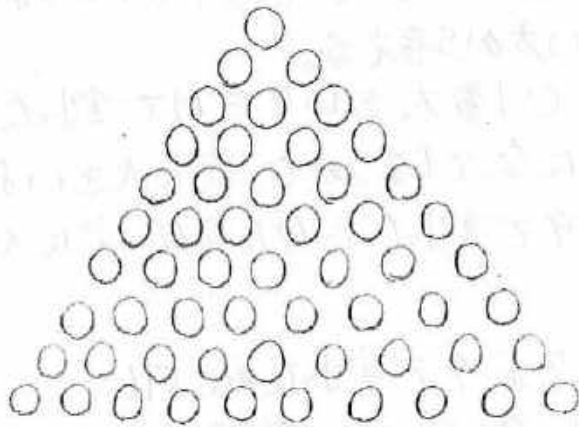
# 挑戦状の問題

レポートのあらすじ・取り組み

Math-Cut STUDIOUMというHPの挑戦状の  
おもしろそうな問題。

レポートの内容

□ Q. 下図の周りにもう一列作るには、○が何個必要か？



A.1

最初全部で

$$1+2+3+4+5+6+7+8+9+10=55$$

周りを増やしたら

$$1+2+3+4+5+6+7+8+9+10+11+12+13=91$$

$$91-55=36$$

A. 36個

A.2

周りにもう一列作ってから

外側の辺の個数は両端を除けば

$$11$$

両端を入ると

$$11+2=13$$

だから、増やす○の合計は

$$11 \times 3 + 3 = 36 \quad \underline{A. 36個}$$

この場合、 $(10+2) \times 3 = 36$ なので

公式

$(元の1列の○の数+2) \times 3 = 1列周りに増やした時の周りの○の数$

② a. 1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9の8つの数字を並べて、  
1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9のどの数によっても割り切れる整数を作る。  
各数字は必ず1度は使い、また、何度使っても構わない。  
このようにして作る整数のうち、最小のものを答えなさい。

A. 1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9で割り切るには、

1の倍数 = なんでもいい。  
2 " = 偶数ならいい。  
3 " = 各位の数字の和が3で割り切れればいい。  
4 " = 下2ケタの数字が00か4で割り切れればいい。  
8 " = 下3ケタの数字が8の倍数ならいい。  
9 " = 各位の数字の和が9で割り切れればいい。  
※ 6, 7は別。

解いていく中で、割る数を1つに決めると簡単だから、まずこれを決める。  
割る数を決めるのに、全ての数字で割ったという事にしないと、  
いけないので大きい方から考える。

まず、使える数の中で一番大きい9だけで割ったとき、

1, 3, 9で割っただけになってしまうので、次に大きい8を入れて、 $9 \times 8$ 。  
これは、1, 2, 3, 4, 8, 9で割っただけになり、次に大きい7を入れると、 $9 \times 8 \times 7$ 。

これは、1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9で割ったのと同じ。

だから、作る整数は、 $9 \times 8 \times 7$ で割れればいい。

まず、9の倍数であるために、 $\square$ のようにしなければならぬ。

$1 + 2 + 3 + 4 + 6 + 7 + 8 + 9 = 40$ だから、あと5を加えて、  
45にするといい。しかし、5は使ってはいけないので、1+4に  
おきかえる。

この時点での最小の数は1123446789。



次に、8の倍数であるために、 $\square$ に書いたようにしなければ、  
いけない。

そこで、1123446789の数を下から、いくぶん並べかえて、  
8の倍数を作る。

例えば下3ヶかが「798」「978」、両方、不適當なので、

その上の位の6も並べかえに参加させる。

そして、偶数を小さい順に並べかえると、7698、7896、7968、  
7986、8976、8796、9678、9768、9786、9876になる。

このうち、 $\square$ を引いたのが、8の倍数。

ここで出来たのは、1123447896、1123447968、1123448976、  
1123449768である。

この中で7で割れるのは、1123449768

A. 1123449768

# 数学オリンピックの問題 3つ

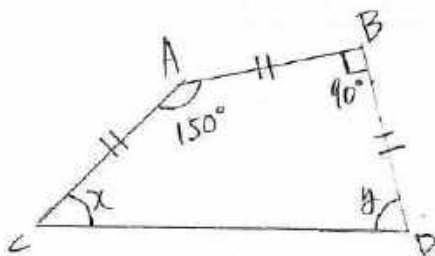
## レポートのあらすじ・取り組み

僕は数学オリンピックの本を読んでいてなるべく簡単な問題にしようと思ったけどどれも難かかったのでこの3問にしました。この3問を解くのにかなりの時間を使いました。

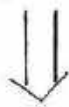
## レポートの内容

**[1]** ? この問題の $\angle x$ ,  $\angle y$ を求めなさい。

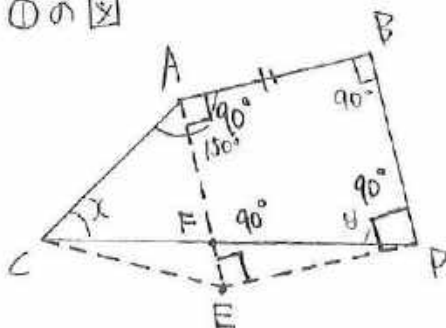
<POINT> 補助線を引こう!



① まずこの図を分かりやすくするために補助線を引かなければなりません。補助線はBCに平行でBCと同じ長さで引いたこの線をAEとする。そしてABCEが正方形になります。そして点Dと点Eを結ぶます。



①の図

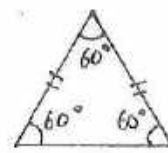


② 補助線が引けたらDCとAEの交点をFとする。すると□ABCEは正方形なので $\angle PAE$ は

$$150 - 90 = 60 (\angle PAE)$$

AE = ADにより $\triangle ADE$ は二等辺三角形となる。しかし $60^\circ$ の二等辺三角形は正三角形になる。

Why? →

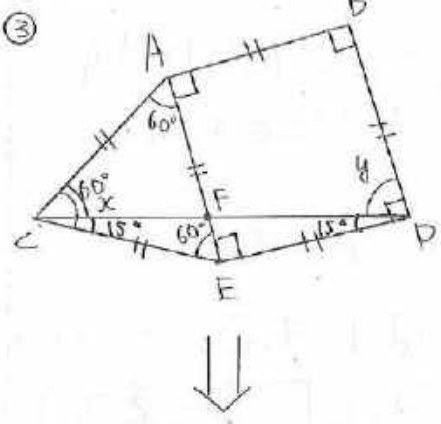


$180 - 60 = 120$   
二等辺三角形の頂点以外の角は同じなので  
 $120 \div 2 = 60$   
となり正三角形となる。

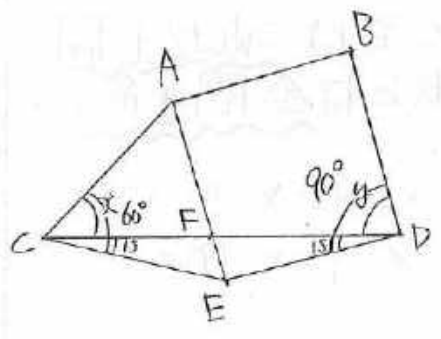
続く  
↓

A-120

②の図 続



⇓



③  $\triangle ADE$  が正三角形になると  $DE = EC$  となり  $\triangle DEC$  が等辺三角形になり  
 $\angle AEC = 60^\circ, \angle AED = 90^\circ$   
 $60 + 90 = 150^\circ (\angle AEC + \angle AED = \angle CED)$   
 となり、 $93^\circ \dots$   
 $180 - 150 = 30, 30 \div 2 = 15^\circ$  となり  
 $\angle ECD = \angle EDC = 15^\circ$

④ 上の結果...  
 $y + 15 = 90 \quad y = 90 - 15 = 75 (^\circ)$   
 $x + 15 = 60 \quad x = 60 - 15 = 45 (^\circ)$   
A.  $x = 45^\circ, y = 75^\circ$

**【2】** ? A君、B君、C君、D君の4人がO×式のテストを受けました。全10問の4人の解答をA君、B君、C君の点数は下の表のようになりました。このテストは10点満点でD君の点数は何点だったでしょう。

<表>

問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	点
A	○	×	○	×	○	○	×	×	×	○	70点
B	○	○	×	×	×	○	○	○	×	×	70点
C	×	×	×	○	○	×	○	×	○	×	60点
D	○	○	×	×	○	×	○	×	×	×	点

<POINT> この結果は4人のテストの解答であって採点結果ではない。

① 70点のA君、B君の解答を見ると同じ解答は1、4、6、9の4問である。(○で表示)

↓ 続く

↓  
続き

② 同じ解答のこの4つのうち1つでも間違えると70点にはならないよってこの4問は絶対に正解であると言える。  
(1, 4, 6, 9)

<今のところわかった答え> 1=0, 4=X, 6=0, 9=X.

③ <君はA君, B君が正解した記号とは1つも合っていないので全て不正解という事になります。(□で表示)

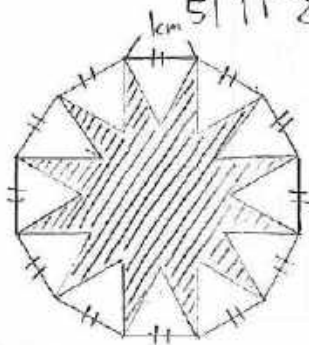
④ という事はもうすでに4問間違っている君はこれ以上間違えると60点以下になってしまうのでおとは全問正解という事になる。

<今のところわかった答え> 1=0, 2=X, 3=X, 4=X, 5=0  
6=0, 7=0, 8=X, 9=X, 10=X

⑤ この答えをDにあてはめると...

⑥ 何とD君は80点でした。ちなみに正解した問題は1, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10 その他の人の正解も▨で表わしていきま。

**[3] ?** 図のような1辺1cmの正十二角形があります。そして白い部分は格辺を1辺とする正三角形12個とする。斜線の引いている部分の面積を求めよ。



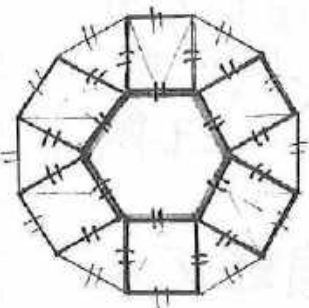
<POINT> 斜線部分を移動させて計算しやすくしよう!

① まづ正三角形を使うと赤で囲んだ部分が正方形になる。

続く



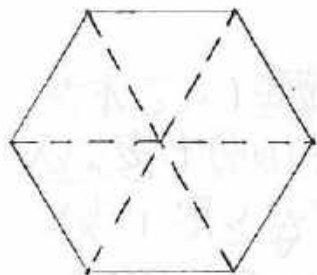
続き



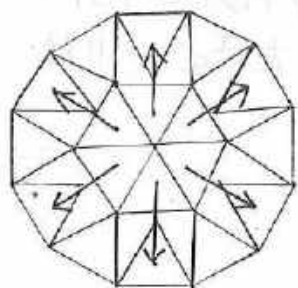
② すると真ん中に正六角形ができる。正六角形なので1辺は1cm。

真ん中の正六角形の拡大図

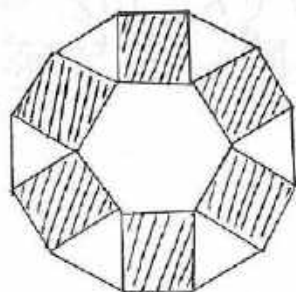
③ 真ん中の正六角形を対角で結ぶと左下の図のようになる。するとくぎった部分で正三角角形が6つできる。つまり1辺は1cm



④ 1辺が1cmの正三角角形となるという事は、最初の問題にでてきた正三角角形に移動させる事ができる。



⑤ すると斜線部分は左図のように④で言っても正方形になる。これを計算すると...  
 $1 \times 1$  (正方形の面積)  
 $\times 6 = 6 \text{ cm}^2$



A.  $6 \text{ cm}^2$

<感想>

**【1】** 補助線の見場所を見つけるのが難かしかったぞ。けど、1度そのみく場所を見つけると次々に分かっていって結構楽しかったぞ。補助線を見つけた時は自分で自分に感動してしまいました。

【2】この問題は表を書いて問いていくのが最初難かしくて苦戦したけど、少し答えを見ても①の部分が分かる  
と後はあっという間に解く事ができました。今度、  
こういう問題を解く時にはヒントがなくても解  
けるようにしたいです。

【3】この問題は図の部分を移動させて解く問題だったの  
でパズル形式でできて楽しんで解く事ができました。  
そして最後の計算がとても簡単だったのがあっけな  
くて少しさみしい感じがしました。この問題は見た瞬  
間に図を移動させるのが思いついたのでそんなに苦  
労はしませんでした。

【総評】 数学オリエントブロックの問題はどれも難しくて本を  
見てもおもしろそうだなと思っても何10分も考え込  
んでしまう問題ばかりです。答えを見ても何回、納得させられ  
たか分かりません。けどその分、自分自身で問  
いた時の達成感と満足感はとても大きく、うれ  
しかったです。

～ 終 ～

$1^2 + 2^2 + 3^2 + \dots + n^2$  の公式を求めよ。

レポートのあらすじ・取り組み

このレポートは、中学2年の夏休みにやったパソコン講座の中からとったものである。ちなみにこのレポートは、パソコン講座の時のプリントを参考にした。

レポートの内容

まず、このような公式は次のように考える。

$$\textcircled{1} 1^2 + 2^2 = 1 + 2 \times 2 \Rightarrow 5 = 2 \times 2 + 1$$

$$\begin{array}{c} \textcircled{1} \\ \textcircled{2} \textcircled{2} \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{2} \\ \textcircled{1} \textcircled{2} \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{2} \\ \textcircled{2} \textcircled{1} \end{array} = \begin{array}{c} \textcircled{5} \\ \textcircled{5} \textcircled{5} \end{array} = 5 \times 3 = 5 \times (1+2)$$

$$\begin{array}{c} \parallel \\ \boxed{5 \times (1+2) \div 3} \end{array}$$

$$\textcircled{2} 1^2 + 2^2 + \textcircled{3}^2 = 1 + 2 \times 2 + 3 \times 3 \Rightarrow 7 = 3 \times 2 + 1$$

$$\begin{array}{c} \textcircled{1} \\ 2\ 2 \\ 3\ 3\ 3 \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{3} \\ 2\ 3 \\ 1\ 2\ 3 \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{3} \\ 3\ 2 \\ 3\ 2\ 1 \end{array} = \begin{array}{c} \textcircled{7} \\ 7\ 7 \\ 7\ 7\ 7 \end{array} = 7 \times 3 = 7 \times (1+2+3)$$

$$\boxed{7 \times (1+2+3) \div 3}$$

$$\textcircled{3} 1^2 + 2^2 + 3^2 + \textcircled{4}^2 = 1 + 2 \times 2 + 3 \times 3 + 4 \times 4 \Rightarrow 9 = 4 \times 2 + 1$$

$$\begin{array}{c} \textcircled{1} \\ 2\ 2 \\ 3\ 3\ 3 \\ 4\ 4\ 4\ 4 \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{4} \\ 3\ 4 \\ 2\ 3\ 4 \\ 1\ 2\ 3\ 4 \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{4} \\ 4\ 3 \\ 4\ 3\ 2 \\ 4\ 3\ 2\ 1 \end{array} = \begin{array}{c} \textcircled{9} \\ 9\ 9 \\ 9\ 9\ 9 \\ 9\ 9\ 9\ 9 \end{array} = 9 \times 4 = 9 \times (1+2+3+4)$$

$$\boxed{9 \times (1+2+3+4) \div 3}$$

$$\textcircled{4} 1^2 + 2^2 + 3^2 + 4^2 + \textcircled{5}^2 = 1 + 2 \times 2 + 3 \times 3 + 4 \times 4 + 5 \times 5$$

$$\Rightarrow 11 = 5 \times 2 + 1$$

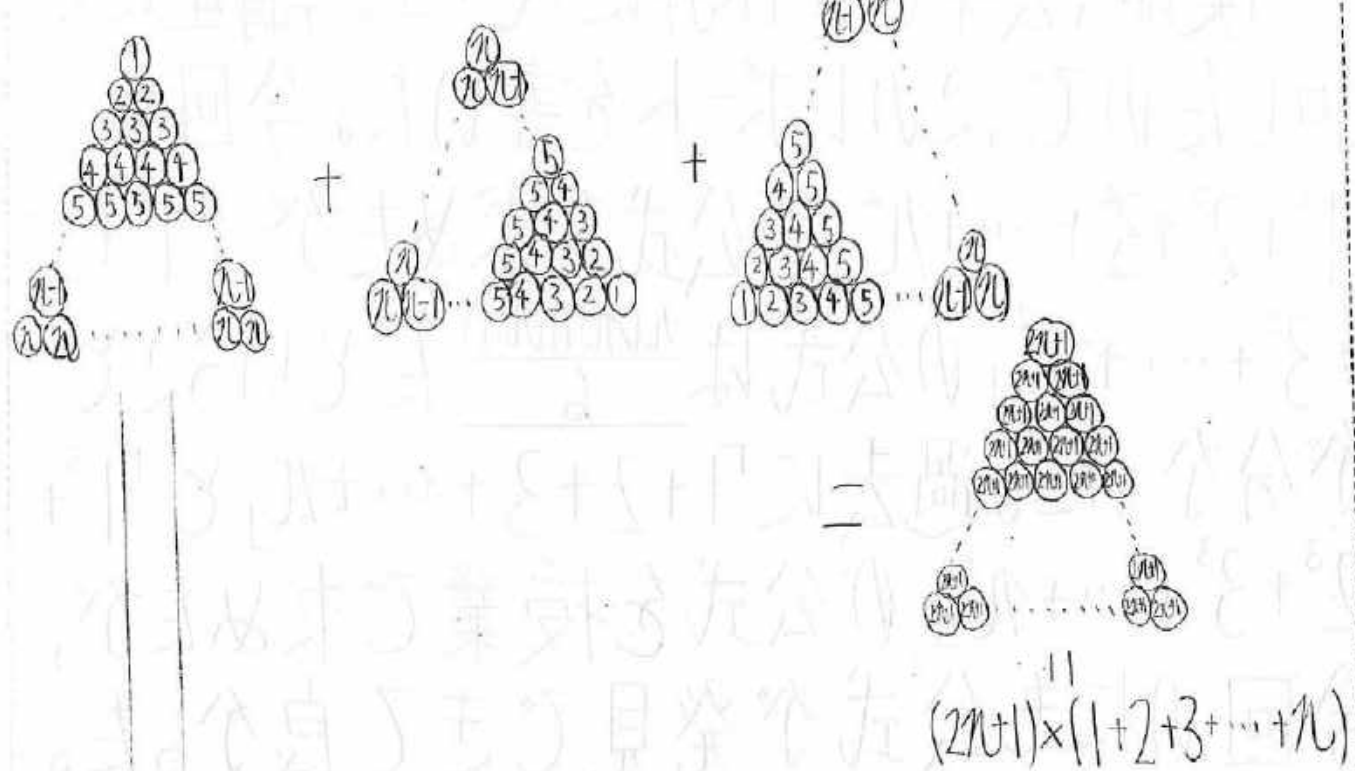
$$\begin{array}{c} \textcircled{1} \\ 2\ 2 \\ 3\ 3\ 3 \\ 4\ 4\ 4\ 4 \\ 5\ 5\ 5\ 5\ 5 \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{5} \\ 4\ 5 \\ 3\ 4\ 5 \\ 2\ 3\ 4\ 5 \\ 1\ 2\ 3\ 4\ 5 \end{array} + \begin{array}{c} \textcircled{5} \\ 5\ 4 \\ 5\ 4\ 3 \\ 5\ 4\ 3\ 2 \\ 5\ 4\ 3\ 2\ 1 \end{array} = \begin{array}{c} \textcircled{11} \\ 11\ 11 \\ 11\ 11\ 11 \\ 11\ 11\ 11\ 11 \\ 11\ 11\ 11\ 11\ 11 \end{array} = 11 \times 5 = 11 \times (1+2+3+4+5)$$

$$\boxed{11 \times (1+2+3+4+5) \div 3}$$



$$\textcircled{5} 1^2 + 2^2 + 3^2 + \dots + n^2 = 1 + 2 \times 2 + 3 \times 3 + \dots + n \times n$$

$$\Rightarrow 2n + 1 = 2 \times n + 1$$



$$(2n+1) \times (1+2+3+\dots+n) \div 3$$

$$= \frac{2n+1}{1} \times \frac{n(n+1)}{2} \times \frac{1}{3} = \frac{n(2n+1)(n+1)}{6}$$

## 〈感想〉

僕は、去年の夏休みにパソコン講座に参加したので、このレポートを書いた。今回、「 $1^2+2^2+3^2+\dots+n^2$ 」の公式を求めたが、「 $1^2+2^2+3^2+\dots+n^2$ 」の公式は  $\frac{n(n+1)(2n+1)}{6}$  だということが分かった。過去に「 $1+2+3+\dots+n$ 」と「 $1^3+2^3+3^3+\dots+n^3$ 」の公式を授業で求めたが、今回のにも公式が発見できて良かった。あと、これは高校の範囲なので、予習にもなって良かったと思う。

# サイコロの出る目の確率

## レポートのあらすじ・取り組み

サイコロを1000回ひいて、確率が本当に6分の1になるかを調べました。

## レポートの内容

1 ~ 100

3	4	2	4	6	1	5	4	4	1	1 ~ 10	1...24回
2	4	1	3	2	3	6	1	3	4	11 ~ 20	2...17回
4	4	2	6	5	3	3	2	5	1	21 ~ 30	3...23回
6	6	5	1	5	1	1	4	1	3	31 ~ 40	4...3回
6	3	3	1	6	3	5	3	3	1	41 ~ 50	5...11回
2	4	5	3	3	2	2	1	5	3	51 ~ 60	6...12回
1	4	2	2	3	1	3	1	1	1	61 ~ 70	
3	6	4	3	2	1	2	1	1	2	71 ~ 80	
6	2	4	1	1	6	6	5	5	1	81 ~ 90	
5	1	3	2	1	3	6	3	2	3	91 ~ 100	

101 ~ 200

6	3	2	2	5	1	5	5	6	6	101 ~ 110	1...14回
5	5	3	6	2	3	2	4	5	3	111 ~ 120	2...15回
1	3	4	5	6	5	5	3	6	5	121 ~ 130	3...14回
2	5	6	2	1	4	6	5	5	1	131 ~ 140	4...3回
6	1	4	5	4	6	6	4	2	5	141 ~ 150	5...23回
3	2	2	4	1	5	4	4	1	4	151 ~ 160	6...21回
2	2	3	5	1	6	5	6	3	1	161 ~ 170	
4	3	3	1	6	1	3	5	4	6	171 ~ 180	
6	6	5	5	6	1	3	3	5	6	181 ~ 190	
1	4	2	2	5	6	2	2	1	6	191 ~ 200	

201~300

2	2	4	3	6	4	3	6	2	4	201~210
1	1	1	4	4	5	4	4	2	4	211~220
1	6	4	2	2	4	6	5	3	5	221~230
1	2	2	6	5	1	1	6	5	5	231~240
2	5	4	3	3	2	1	6	2	6	241~250
6	1	1	6	6	2	1	6	4	4	251~260
2	5	2	4	1	3	2	5	4	5	261~270
6	6	2	5	2	1	1	2	2	6	271~280
3	4	6	5	6	4	4	2	5	5	281~290
2	4	4	5	5	2	6	5	4	2	291~300

- 1... 14回
- 2... 23回
- 3... 7回
- 4... 21回
- 5... 17回
- 6... 18回

301~400

2	2	5	3	5	1	6	2	5	1	301~310
3	3	5	6	5	3	2	1	4	5	311~320
6	6	4	3	4	4	1	6	4	4	321~330
3	3	1	5	6	4	3	1	4	6	331~340
3	6	1	5	3	2	4	5	5	6	341~350
2	4	4	1	2	6	6	3	5	2	351~360
6	4	3	2	5	6	1	2	3	4	361~370
3	3	5	3	4	2	2	2	5	1	371~380
3	4	3	5	2	6	6	2	3	6	381~390
1	3	3	5	2	6	6	4	2	5	391~400

- 1... 11回
- 2... 17回
- 3... 21回
- 4... 16回
- 5... 17回
- 6... 18回

401~500

1	4	4	2	3	4	6	3	5	4	401~410
5	3	5	5	4	5	4	6	2	6	411~420
5	2	4	4	3	1	1	2	6	4	421~430
4	6	4	1	1	2	3	3	2	2	431~440
4	5	4	5	2	2	5	2	6	5	441~450
5	2	2	1	3	4	6	5	3	1	451~460
6	5	1	4	5	2	3	2	6	3	461~470
2	4	3	5	3	2	4	6	3	2	471~480
5	1	6	6	3	2	3	2	4	4	481~490
2	3	6	5	5	1	1	3	6	2	491~500

- 1... 14回
- 2... 15回
- 3... 15回
- 4... 21回
- 5... 15回
- 6... 12回

501~600

2	6	6	1	4	4	3	2	4	6	501~510	1...22回
6	4	2	5	2	2	4	1	1	3	511~520	2...15回
5	3	5	5	2	4	6	5	4	6	521~530	3...15回
2	1	3	1	3	4	6	2	1	2	531~540	4...21回
3	4	5	2	1	3	4	6	3	3	541~550	5...15回
1	5	3	5	4	5	4	1	1	6	551~560	6...12回
4	1	4	5	1	5	2	4	3	1	561~570	
1	4	4	3	4	2	4	6	4	1	571~580	
5	4	2	1	5	6	2	1	1	6	581~590	
5	1	3	2	1	3	1	5	3	1	591~600	

601~700

2	4	5	1	1	4	3	2	6	5	601~610	1...16回
4	6	3	3	6	2	2	3	6	1	611~620	2...16回
1	2	2	3	3	5	1	6	1	6	621~630	3...15回
6	2	2	4	2	4	2	2	5	2	631~640	4...13回
6	1	5	3	4	1	6	3	3	2	641~650	5...19回
4	5	6	5	6	3	3	2	5	5	651~660	6...21回
1	5	6	1	1	6	5	5	3	2	661~670	
1	4	6	4	5	5	4	6	3	5	671~680	
1	6	5	2	5	2	3	4	4	5	681~690	
1	1	4	6	1	5	2	3	4	6	691~700	

701~800

5	2	6	2	5	3	6	5	3	5	701~710	1...14回
1	1	6	4	3	1	4	4	6	2	711~720	2...21回
3	4	3	2	2	2	2	6	3	5	721~730	3...16回
2	6	5	2	6	3	1	2	4	4	731~740	4...12回
2	4	2	2	5	5	3	5	1	5	741~750	5...21回
4	1	2	6	3	1	1	3	2	5	751~760	6...16回
6	5	5	4	5	1	6	4	3	6	761~770	
6	6	5	5	2	5	1	2	1	2	771~780	
3	3	5	2	3	1	5	5	4	3	781~790	
1	5	5	4	2	6	3	5	6	2	791~800	

801~900

2	4	3	2	6	6	3	4	5	2	801~810
1	1	4	6	4	3	5	2	4	5	811~820
3	1	4	1	6	1	1	3	2	2	821~830
2	6	4	3	2	3	5	4	1	5	831~840
6	2	2	3	6	5	2	4	2	3	841~850
1	6	4	5	6	1	4	2	3	3	851~860
1	5	6	6	6	1	2	4	3	4	861~870
6	5	1	4	3	4	6	3	4	4	871~880
3	2	2	5	6	1	5	5	6	4	881~890
2	5	5	4	2	4	3	2	5	5	891~900

- 1...13回
- 2...18回
- 3...16回
- 4...19回
- 5...16回
- 6...18回

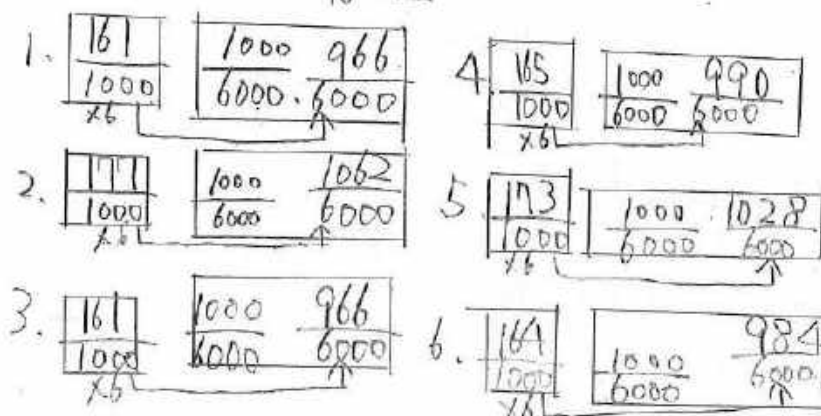
901~1000

1	4	5	2	3	1	1	6	2	6	901~910
1	6	5	5	3	5	2	4	4	6	911~920
5	6	3	6	5	5	4	3	3	1	921~930
4	6	2	2	4	1	2	6	4	1	931~940
3	4	3	3	4	1	2	4	3	6	941~950
5	1	5	4	6	2	3	1	6	6	951~960
5	6	1	3	4	4	1	1	6	3	961~970
5	3	4	1	4	2	5	3	2	4	971~980
2	6	3	5	5	4	2	5	1	2	981~990
4	1	4	2	1	5	1	3	6	1	991~1000

- 1...19回
- 2...14回
- 3...16回
- 4...19回
- 5...16回
- 6...16回

実験結果  
 1...161回  
 2...177回  
 3...161回  
 4...166回  
 5...173回  
 6...162回

<結果>  
 だいたい1/6になった。  
 1000回かいて、この結果は  
 1/6になる、と思う。



なぜこの実験だけかといつと、サイコロを3つ、1,2とかはわかり出る人や「5や6」はわかり出る人もいるので、同じと、サイコロの目の確率は1/6なのが知れたかたがです。

# 「金をくれ」・「直線の交点」

## レポートのあらすじ・取り組み

インターネットで「Mathカッタースタジアム」の「挑戦状」から2問、「カネヲル」という問題と「交点は何個」という問題を自分なりに  
ていねいに問いた。

## レポートの内容

① 「カネヲル」ここに  $\begin{array}{r} \text{SEND} \\ + \text{MORE} \\ \hline \text{MONEY} \end{array}$  という文字があるが「もつ金を送ってくれ」という意味ではなく、文字に数字をあてはめると足算になる。それぞれあてはまる文字は？

①  $\begin{array}{r} \text{SEND} \\ + \text{MORE} \\ \hline \text{MONEY} \end{array}$  → S・Mがどんな数字でも1くり上がらないから

$$M = 1$$

②  $\begin{array}{r} \text{SEND} \\ + 10RE \\ \hline 1 \text{ONEY} \end{array}$  → 「E+0から1くり上がっているかもしれない」  
「1はもう出ているので」  
S = 8 or 9  
O = 0 or 1  
よって  
この場合 O = 0

③  $\begin{array}{r} \text{SEND} \\ + 10RE \\ \hline 1 \text{ONEY} \end{array}$  S=8の場合 E=9になる。しかしこの場合 N+Rから1くり上がってきて「9+1」⇒ N=0になるので不可  
よって  $S = 9$

$$\begin{array}{r} \textcircled{4} \quad 9\text{END} \\ + 108\text{E} \\ \hline 10\text{NEY} \end{array}$$

→ E + 0 = E のはず。しかし和は N なので 7 くり上がってきていることがわかる。N = E + 1

→  $N + R = 10 + E$  あるいは  $N + R + 1 = 10 + E$

$E + 1 + R = 10 + E$

$R = 9$

9 はもう使っているので不可

$N + R + 1 = 10 + E$

$R = 8$

$$\begin{array}{r} \textcircled{5} \quad 9\text{END} \\ + 108\text{E} \\ \hline 10\text{NEY} \end{array}$$

→ E + D = 10 + Y

↳ ④ でくり上げている

E が 2, 3, 4 のときは、和の Y がすでに使った数字になるので

E = 5 or 6 or 7

④ で N が E + 1 なので 7 の時 N が 8 になりすでに使用しているから

E = 5 or 6

D = 7

$$\begin{array}{r} \textcircled{6} \quad 9\text{EN}7 \\ + 108\text{E} \\ \hline 10\text{NEY} \end{array}$$



E = 5 or 6 を

あてはめて考えてみるよ

E = 6 の時、N が 7 になってしまい、7 はすでに使っているため

E = 5

$$\begin{array}{r} 95\text{N}7 \\ + 1085 \\ \hline 10\text{N}5\text{Y} \end{array}$$

7 + 5 = 12

15 - 8 - 1 = 6

Y = 2

N = 6

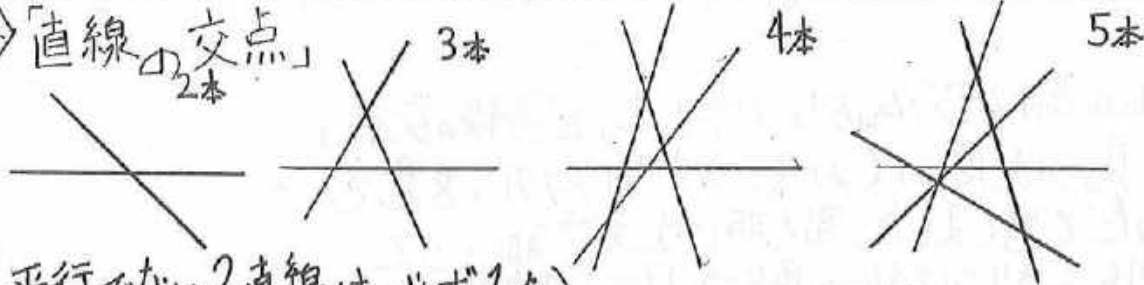
① ~ ⑥ より

$$\begin{array}{r} 9567 \\ + 1085 \\ \hline 10652 \end{array}$$

である!!



② 「直線の交点」



(平行でない2直線は、必ず1点で交わる。だから直線が1本増えるにつれて、それまでについてあった直線とそれぞれ1つ交点をもつ)

ex). 3本のとき  $1+2$   
 4本のとき  $1+2+3$   
 5本のとき  $1+2+3+4$  } 交点がこのようになる

問一、10本の直線の交点の最大の数は?

式)  $1+2+3+4+5+6+7+8+9=45$

A. 45個

問二、 $n$ 本の直線の交点の最大の数は?

式)  $1+2+3+4+5+\dots+(n-2)+(n-1)$

$$\begin{array}{r} 1+2+3+4+5+\dots+(n-2)+(n-1) \\ + (n-1)+(n-2)+(n-3)+(n-4)+(n-5)\dots+2+1 \\ \hline n+n+n+n+n\dots+n+n \end{array}$$

$$\frac{n \times (n-1)}{2} = \frac{n(n-1)}{2}$$

A.  $\frac{n(n-1)}{2}$

今回、Mathカレッジから、「カネコル」と「直線の交点」  
の問題を見つは、問いてみて、まず「カネコル」を見て、  
ムスカソうだと感じました。問く時には、文字「ABC……」と  
数字の区別をはきりつけるため色をつけたり、番号で振り分け  
たり、僕なりにわかりやすくまとめる事ができたと思います。  
几張面にまとめてみて、やり終えた時、とても気分が良く、何でも  
いいねりに、きれいにしたいと思いました。

# 円周率について

## レポートのあらすじ・取り組み

ぼくがこの話題に興味をもったのは、本当に3.14なのかを調べたからです。円周率を昔の人はどうやって調べたのか、という疑問をもちながらこのことを調べました。

## レポートの内容

### ② 手順・用意するもの

- ・円柱の形をしたあきカンなどをろっほど用意する。
- ・いろいろな方法で円周率を調べる。
- ・インターネットを使って円周率のことを調べた。

### ③ 実験内容

- ・コ-ヒ-豆のカン

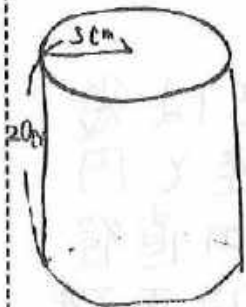
メジャーで—の長さをはかる

→ 30.6 cm

$$30.6 \div 10 = 3.06$$

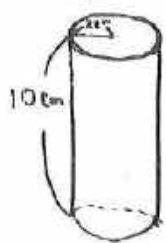
直径

円周率は3.06になった



※ 円周 ÷ 直径として求める

## ・積み木



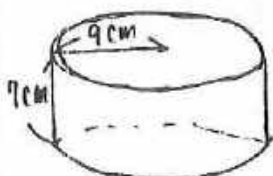
× ジャーで — の長さをはかる

→ 12.7cm

$$12.7 \div 4 = 3.17 \dots$$

円周率は 3.17 になた

## ・お菓子のカン



× ジャーで — の長さをはかる

→ 53.9cm

$$53.9 \div 18 = 2.99 \dots$$

円周率は 2.99 になた

→ パリコンを使て円周率(π)のことを調べた

πとは、みなさんよく知、ている通り円周率のことです。このπという文字はギリシャ文字の周りを表す単語の頭文字だと言われています。木こりの人達は、直径の3倍をして木の周りの長さをだしていたそうです。

## ～ 円周率の求め方～

- ① 簡単に円周率を算出する方法は幾通りがあります。ひとつは円の直径と円周の長さを計り、円周の長さを円の直径で割るというものです。1度だけでは正確にでることが少ないので何度も計り、その平均値を取ることが良いでしょう。

$$\text{円周率} = \text{円周} \div \text{直径}$$

② もう一つは、方眼紙に円を書き、升目の数で面積を求める方法です。全部の円を計ると大変なので4分の1だけでも良いでしょう。半径10の円で考えると計算も楽でしょう。

$$\text{円周率} = \text{面積} \div (\text{半径} \times \text{半径})$$

## ～ 感想 ～

ぼくの作業ミスかは、わかりませんが、3.14という数字はでてこなかった。とても残念だと思った。しかし一つだけ3.14に近い数字がでてきたのでよかったです。パソコンを使って円周率のことを調べたが、ぼくには理解できない公式や言葉があった。しかしとてもおもしろそうだと感じることもできた。これから学年が上がっていくごとにこのような課題(宿題)をあたえられたら、ぜひ円周率のことを調べようと思う。

# アキレスとカメ

## レポートのあらすじ・取り組み

以前先生からきいた「アキレスとカメ」でそれを数学的に考えてみるとどうなるかと疑問に思いパソコンを使って調べました。

## レポートの内容

まず最初にアキレスとカメの話がどのようなものであるが説明をする。

初めアキレスがカメの後ろについてカメを追い抜こうとするところから話しが始まる。ここでアキレスの方がカメより速いものとする。

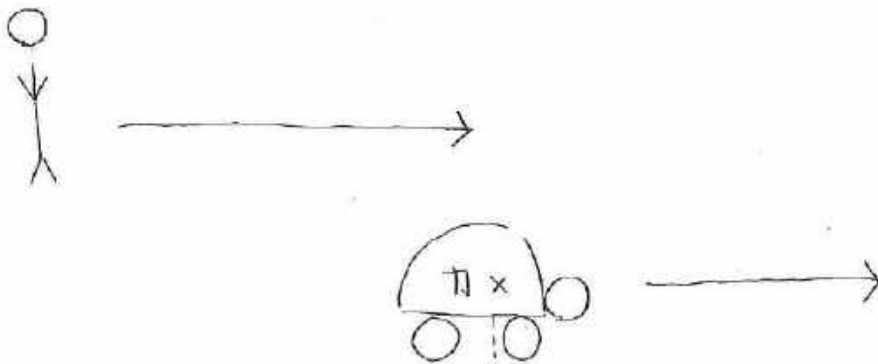


図1.

時間がたつとアキレスは当然カメがいた場所に到達するはずである



図2

しかし、その時は図2のように、カマはいくらも前進している。

ここでアキレスがまたカマの位置までいくと先程と同様にカマは前進していく。

、という事はいつまでたってもアキレスはカマに追いつかないという事になる。これがアキレスとカマの話である。

しかしながら普通に考えると追いつかないわけがない。なのでアキレスとカマの話では本当にカマが追いつかないのか考えてみる。

仮にアキレスの速さを毎秒 $x$ 、カマの速さを毎秒 $\frac{1}{2}x$ とする。更に図1の状態でのアキレスとカマとのキョリを $x$ とする。

すると図2の状態に1秒かかる。

ここで図2の状態、図1の状態におきかえるとアキレスとカマとのキョリは $\frac{1}{2}x$ あるわけであるから図2の状態になるのに $\frac{1}{2}$ 秒かかる。

同じ事をくりかえすと次は $\frac{1}{4}$ 秒、その次は $\frac{1}{8}$ 秒

その次は  $\frac{1}{16}$  秒 ……

っというふうに続くのが分かる。ちなみに何回この  
こうさをくりかえしても所要時間は

$$1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{16} + \dots \quad (1)$$

となる。上のたし算を言計算したいので / を省いて  
 $\frac{1}{2}$  以降の言計算のしかたを考える。ここで大きさ / の容器  
を考えその中に  $\frac{1}{2}$  以降を入れると考える。

容量 1、

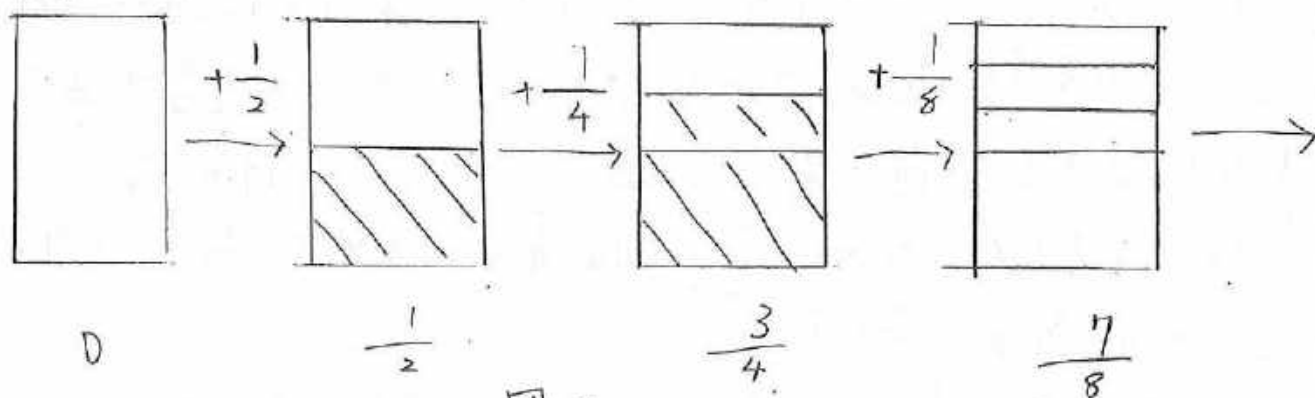


図 3.

図 3 のような考え方をすると次にたされる数はあき容量  
の半分で結局何回くり返しても容器は満たんになら  
ない。

したがって式 (1) は省いた / をたして考えると 2 を  
超えな、事になる。

っという事は アキレスは永遠にカメに追いつかないわけ  
ではなく 2 秒以上たつと アキレスはカメを抜いて  
いる事になる。



以上の事より一見アキレスとカメの話は正しいように思えるが結局カメはアキレスに抜かれてしまうのである。

アキレスとカメの競争の距離

アキレスとカメの競争の距離

アキレスとカメの競争の距離

$P = 1/2 + 1$   
 $P = 1/2 + 1/2$   
 $P = 1/2 + 1/4$   
 $P = 1/2 + 1/8$   
 $P = 1/2 + 1/16$   
 $P = 1/2 + 1/32$   
 $P = 1/2 + 1/64$   
 $P = 1/2 + 1/128$   
 $P = 1/2 + 1/256$

①

$P = 1/2 + 1/2$   
 $P = 1/2 + 1/4$   
 $P = 1/2 + 1/8$   
 $P = 1/2 + 1/16$   
 $P = 1/2 + 1/32$   
 $P = 1/2 + 1/64$   
 $P = 1/2 + 1/128$   
 $P = 1/2 + 1/256$

# 9について

レポートのあらすじ・取り組み

9の字の不思議な性質を見てみる

レポートの内容

	十	一	位
$9 \times 1 =$		9	
$9 \times 2 =$	1	8	
$9 \times 3 =$	2	7	
$9 \times 4 =$	3	6	
$9 \times 5 =$	4	5	
$9 \times 6 =$	5	4	
$9 \times 7 =$	6	3	
$9 \times 8 =$	7	2	
$9 \times 9 =$	8	1	
$9 \times 10 =$	9	0	

それぞれの十の位と一の位  
を足すと9になる

$$1+8=9$$

$$2+7=9$$

$$3+6=9$$

$$4+5=9$$

$$5+4=9$$

$$6+3=9$$

$$7+2=9$$

$$8+1=9$$

$$9+0=9$$

②

10、20、30、40、50、60、70、80、を9でわってみる。

$$\begin{array}{r} 1111111 \\ 9 \overline{) 10} \\ \underline{9} \phantom{0} \\ 10 \\ \underline{9} \phantom{0} \\ 1 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 222 \\ 9 \overline{) 20} \\ \underline{18} \phantom{0} \\ 20 \\ \underline{18} \phantom{0} \\ 20 \\ \underline{18} \phantom{0} \\ 2 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 333 \\ 9 \overline{) 30} \\ \underline{27} \phantom{0} \\ 30 \\ \underline{27} \phantom{0} \\ 30 \\ \underline{27} \phantom{0} \\ 30 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 4444 \\ 9 \overline{) 40} \\ \underline{36} \phantom{0} \\ 40 \\ \underline{36} \phantom{0} \\ 40 \\ \underline{36} \phantom{0} \\ 40 \\ \underline{36} \phantom{0} \\ 4 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 555 \\ 9 \overline{) 50} \\ \underline{45} \phantom{0} \\ 50 \\ \underline{45} \phantom{0} \\ 50 \\ \underline{45} \phantom{0} \\ 50 \\ \underline{45} \phantom{0} \\ 50 \\ \underline{45} \phantom{0} \\ 50 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 6666 \\ 9 \overline{) 60} \\ \underline{54} \phantom{0} \\ 60 \\ \underline{54} \phantom{0} \\ 60 \\ \underline{54} \phantom{0} \\ 60 \\ \underline{54} \phantom{0} \\ 60 \\ \underline{54} \phantom{0} \\ 6 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 777 \\ 9 \overline{) 70} \\ \underline{63} \phantom{0} \\ 70 \\ \underline{63} \phantom{0} \\ 70 \\ \underline{63} \phantom{0} \\ 70 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 888 \\ 9 \overline{) 80} \\ \underline{72} \phantom{0} \\ 80 \\ \underline{72} \phantom{0} \\ 80 \\ \underline{72} \phantom{0} \\ 80 \\ \underline{72} \phantom{0} \\ 80 \\ \underline{72} \phantom{0} \\ 8 \end{array}$$

わられた数の十の位が一生続く。

③

9 X 9 = 81  
 99 X 99 = 9801  
 999 X 999 = 98901  
 9999 X 9999 = 989901  
 99999 X 99999 = 9899901  
 999999 X 999999 = 98999901  
 9999999 X 9999999 = 989999901  
 99999999 X 99999999 = 9899999901

999999999 X 999999999 = 989999999901  
 9999999999 X 9999999999 = 9899999999901  
 99999999999 X 99999999999 = 98999999999901  
 といふ風に8の5L3)29が"右"に"人"増える。

参考「下」も人のたれまひま」

# 因数分解公式の相互関係

## レポートのあらすじ・取り組み

共通因数があれば一番にくくり出しておくとそれは2次式の因数分解はア)~オ)の公式により行うことができます。(ただし、公式のオ)は中学校では習いません)

## レポートの内容

$$ア) x^2 + 2xy + y^2 = (x+y)^2$$

$$イ) x^2 - 2xy + y^2 = (x-y)^2$$

$$ウ) x^2 - y^2 = (x+y)(x-y)$$

$$エ) x^2 + (p+q)x + pq = (x+p)(x+q)$$

$$オ) acx^2 + (ac+bc)x + bd = (ax+b)(cx+d)$$

☑ これから公式は「論理的には」オ)の公式がもっとも適用範囲が広く、ア、イ、ウ、エはオ)の特別な場合となっています。

オ)において、 $a=1$ 、 $c=1$ 、 $b=p$ 、 $d=q$ とすればエ)が得られます。

だから、エ)はオ)の特別な場合にすぎません

また、エ)において  $p=1$ 、 $q=1$ とすればウ)が得られます。

だから、エ)はウ)の特別な場合にすぎません

さらに、エ)において  $p=-1$ 、 $q=-1$ とすればイ)が  $p=1$ 、 $q=1$ とすればア)が得られますので、

ア、イ)はエ)の特別な場合にすぎません

△ このように考えれば適用範囲が最も広い因数分解式は、高校までは「エ」、中学までは「エ」ということになります。

例1

$$x^2 + 0x - 25$$

積が-25、和が0となる2数は5と-5だから  
(原式)...  $(x-5)(x+5)$

例2

$$x^2 + 12x + 36$$

積が36、和が12となる2数は6と6だから  
(原式)...  $(x+6)^2$

例3

$$x^2 - 14x + 49$$

積が49、和が-14となる2数は-7と-7だから  
(原式)...  $(x-7)^2$

例4

$4x^2 - 12x + 9$  は係数が1でないので  $2x = A$  と置きます

$A^2 - 6A + 9$  とすれば「エ」の公式が使えますが

そのような造まわりは大変なので、通常は「ア」の公式で

因数分解をします  $4x^2 - 12x + 9 = 4x^2 - 9$  についても同様です

□ 上記の例4のような場合があるため結局「エ」の公式を覚えるだけでは足りずに「ア、イ、ウ、エ」の全部が使えるようにする

△ 「ウ」の公式は「論理的には」特に優位な位置を占めていませんが「実際の計算においては」どんな因数分解でも「エ」の公式で解くことができます。

ウ→エの例

$$\begin{aligned} & x^2 + 3x - 10 \\ &= (x^2 + 3x + \frac{9}{4}) - \frac{9}{4} - 10 \\ &= (x + \frac{3}{2})^2 - \frac{49}{4} \quad \leftarrow O^2 - \square^2 \\ &= [(x + \frac{3}{2}) + \frac{7}{2}] [(x + \frac{3}{2}) - \frac{7}{2}] \\ &= (x + 5)(x - 2) \end{aligned}$$

ウ→アの例

$$\begin{aligned} & 4x^2 + 4x + 1 \\ &= 4(x^2 + x + \frac{1}{4}) \\ &= 4[(x + \frac{1}{2})^2 - 0^2] \quad \leftarrow O^2 - \square^2 \\ &= 4[(x + \frac{1}{2}) + 0] [(x + \frac{1}{2}) - 0] \\ &= 4(x + \frac{1}{2})(x + \frac{1}{2}) \\ &= (2x + 1)(2x + 1) \\ &= (2x + 1)^2 \end{aligned}$$

ウ→イ  
(ウ→アと同様)

ウ→オの例

$$\begin{aligned} & 2x^2+7x+3 \\ &= 2\left(x^2+\frac{7}{2}x+\frac{3}{2}\right) \\ &= 2\left(x^2+\frac{7}{2}x+\frac{49}{16}-\frac{49}{16}+\frac{3}{2}\right) \\ &= 2\left\{\left(x+\frac{7}{4}\right)^2-\frac{49}{16}+\frac{3}{2}\right\} \\ &= 2\left\{\left(x+\frac{7}{4}\right)^2-\frac{25}{16}\right\} \leftarrow 0^2-\square^2 \\ &= 2\left\{\left(x+\frac{7}{4}\right)+\frac{5}{4}\right\}\left\{\left(x+\frac{7}{4}\right)-\frac{5}{4}\right\} \\ &= 2(x+3)\left(x+\frac{1}{2}\right) \\ &= (x+3)(2x+1) \end{aligned}$$

- ( )<sup>2</sup>を作ることと分数計算になることを我慢すれば  
オの公式の場合も含めてすべてウの公式で解決する  
ことが分かります。

以上のまとめ

どうしてもできない問題があれば  
 $a(0^2-\square^2)$ に持ち込む。



サイコロを 1000 回 ぶらして本当に確率が  $\frac{1}{6}$  になるのか

レポートのあらすじ・取り組み

100 回ぐらいまでは細かく調べていき、100 回を超えると  
60 回ずつで結果を調べた。(始めは 1 つのさいころで、  
最後の方は 3 つのさいころで調べた。)

レポートの内容

仮説… 1000 回に近づいていくにつれて確率は  $\frac{1}{6}$  に近づく  
と思う。約 400 回ぐらいから確率が  $\frac{1}{6}$  のまほほ一定  
になると思う。(多少のズレはあると思う。)

実験結果… 180 回までは、正の字でやった。  
181 回からは、数字を書いていった。

180 回までの結果

	6	12	計	18	計	24	計	60	計
1	-	T	3	IF	7	F	10	正-	16
2		T	2	F	5	F	8	正EF	21
3	-	-	2	-	3	-	4	正正	14
4	T	T	4	T	6	IF	10	正正	20
5	-	F	4	IF	8	正	13	正F	21
6	-	T	3	IF	7	正F	15	正正F	28

	計	60	計	181回から
1	16	正T	28	3.6.2.1.6.4.1.4.1.4.5.2.2.6.5.6.4.1.
2	21	正F	30	1.6.4.2.2.4.1.5.2.4.4.3.5.5.5.1.1.4.1.2.3.
3	14	正F	28	5.2.6.3.6.5.6.3.3.6.4.1.4.2.5.3.4.5.3.1.6.
4	10	正F	29	1.5.5.3.3.4.2.6.3.1.2.6.6.6.1.3.1.2.3.3.1.4.
5	21	正-	27	2.1.5.4.1.6.6.5.1.5.2.2.5.4.4.6.1.4.4.6.4.1.4.4.
6	28	正F	38	4.3.5.6.3.6.3.5.1.5.6.6.2.1.5.3.5.6.4.6.1.3.3.
				6.3.6.5.1.6.6.2.5.6.2.5.6.1.4.4.1.3.5.6.4.5.2.4.3.2.4.1.6.1.3.4.3.4.
				4.6.6.1.2.1.4.1.6.2.3.1.1.3.4.5.6.3.1.5.3.2.5.2.1.4.3.5.1.2.3.2.5.2.4.4.
				3.6.3.6.4.6.4.6.1.6.3.2.2.4.5.6.3.2.2.2.1.6.5.3.3.2.5.1.1.1.1.3.4.6.1.3.3.2.
				1.6.1.4.2.1.5.5.2.1.4.5.6.2.1.1.5.5.4.5.4.1.6.2.2.5.5.1.6.6.4.2.5.1.1.3.6.5.
				2.1.5.4.3.1.4.1.2.4.6.1.2.4.6.3.3.4.6.3.1.6.6.5.4.4.1.4.1.2.2.3.6.6.6.6.2.6.6.4.
				2.5.3.5.4.1.1.6.6.6.6.2.1.1.2.6.6.3.5.6.5.1.5.2.3.5.4.3.6.2.6.5.6.2.6.3.4.3.4.3.6.1.
				3.2.4.1.3.5.5.4.6.6.3.3.6.1.4.3.6.6.2.3.2.3.6.3.2.2.5.4.1.2.1.3.1.4.6.5.3.3.2.
				3.1.6.3.6.2.1.2.4.1.6.2.2.6.4.6.4.3.1.5.2.2.3.4.6.4.4.6.3.4.2.3.1.5.6.3.4.5.6.4.1.3.
				1.2.3.4.4.1.6.6.1.4.4.6.2.4.6.3.3.3.2.5.6.2.6.4.2.6.1.1.6.3.5.3.5.3.2.3.5.1.6.5.3.6.
				4.2.2.2.6.1.6.1.5.1.2.5.6.2.3.2.3.1.2.4.6.1.4.1.5.6.6.1.5.1.3.3.5.6.6.2.2.5.6.4.5.6.1.4.
				1.3.5.3.5.6.6.6.5.6.6.1.6.6.1.6.5.6.4.1.5.5.1.4.4.5.1.5.6.3.1.6.1.6.3.1.6.3.6.5.5.4.
				6.5.4.4.5.1.5.1.1.3.1.3.1.6.1.4.6.1.2.4.6.5.6.4.5.4.5.3.5.6.5.2.6.6.2.2.2.3.6.6.4.1.
				3.3.6.6.6.6.4.4.1.3.5.1.3.5.1.1.3.1.5.4.1.2.4.2.2.5.1.3.3.1.1.2.1.2.5.2.3.5.3.3.6.5.
				5.3.3.2.4.4.6.5.6.5.2.6.3.2.3.6.3.1.3.3.1.3.4.6.6.2.4.3.1.1.1.3.1.2.4.6.5.6.2.1.
				1.3.3.4.3.4.5.1.2.3.1.2.5.1.2.2.1.2.3.2.3.5.4.5.6.1.6.4.4.4.5.5.5.3.2.5.5.4.6.
				6.1.2.2.5.5.6.6.2.3.1.4.6.1.4.5.5.5.6.2.4.6.1.4.6.2.3.6.2.5.5.1.3.5.3.6.6.5.5.3.6.
				5.5.3.6.4.4.2.2.3.1.2.4.2.2.2.1.4.4.1.4.6.3.4.5.1.3.5.1.1.4.1.6.6.1.2.2.2.6.6.5.5.6.1.5.
				5.1.4.6.1.2.6.1

集計

	6	18	36	60	120	180	240	300	360	420	480	540	600	660	720	780	840	900	1000	%
1	1	4	7	10	16	28	39	50	61	71	86	94	103	112	122	136	147	160	177	17.7 ㉔
2	0	3	5	8	21	30	39	46	53	65	74	82	95	102	111	113	123	134	151	15.1 ㉓
3	1	1	3	4	14	28	36	45	56	69	74	83	96	109	116	122	135	149	158	15.8 ㉕
4	2	2	6	10	20	29	41	52	64	72	82	90	98	100	115	125	132	139	155	15.5 ㉖
5	1	4	8	13	21	27	37	47	53	61	72	80	85	92	102	117	126	132	153	15.3 ㉗
6	1	4	7	15	28	38	48	60	73	82	92	111	123	136	154	167	177	186	206	20.6 ㉘

うまくいかなかったのもう一回500回程度で行うことにした。

- 1.4.5.1.5.5.2.5.6.4.5.5.1.3.4.1.1.6.1.4.4.2.3.6.5.6.6.4.5.5.2.3.5.2.
- 2.4.1.1.2.1.4.6.2.3.6.1.1.3.4.6.6.2.4.6.1.3.6.5.5.5.1.1.4.5.5.3.5.5.6.2.
- 3.4.1.3.6.3.6.6.2.3.6.3.3.5.6.4.5.6.1.3.4.2.4.5.3.5.5.3.6.6.3.4.6.
- 1.1.6.3.5.6.1.4.6.1.4.4.3.4.5.2.1.3.2.3.6.1.1.4.1.3.5.3.5.1.1.2.4.4.5.
- 6.1.4.6.2.4.4.2.3.6.3.5.5.3.3.5.1.3.5.3.4.5.1.6.6.1.2.3.4.4.5.2.3.3.
- 1.2.4.6.4.6.3.5.2.3.6.3.4.6.1.2.6.2.3.6.2.4.6.1.2.4.4.5.6.1.1.5.
- 1.5.6.1.3.5.2.6.6.2.5.4.4.5.6.3.4.6.4.6.6.1.5.6.2.5.5.1.5.6.4.5.
- 6.1.2.3.1.3.6.4.4.5.1.4.5.3.5.5.4.4.2.2.3.5.2.4.4.1.5.4.1.3.6.2.
- 2.4.2.4.5.3.5.6.2.2.4.2.3.4.1.1.3.1.3.5.1.5.6.2.3.4.1.2.3.1.6.6.1.2.
- 4.3.5.6.2.3.4.4.4.5.1.2.6.4.4.6.2.3.5.3.4.4.3.4.5.2.2.2.3.5.6.2.4.4.
- 1.2.4.1.4.6.6.6.6.1.5.6.4.4.5.1.3.4.3.4.6.3.4.6.1.3.6.1.5.6.1.3.6.1.
- 3.5.2.3.6.1.2.5.3.4.6.2.5.6.1.5.6.1.1.6.1.4.5.1.3.3.1.4.6.1.2.6.3.3.
- 4.2.3.5.1.4.6.4.4.6.2.3.4.1.5.6.2.2.5.1.3.3.5.5.6.2.4.6.4.6.6.1.1.3.
- 3.3.6.2.3.6.1.4.5.3.5.6.5.6.6.2.4.5.2.2.4.4.6.6.2.5.6.1.4.6.4.4.6.2.
- 3.3.2.3.6.3.4.4.1.1.3.3.6.6.1.1.5.3.4.6.4.5.6.5.6.6.1.2.3.2.6.6.4.4.
- 6.1.1.6.2.4.6.1.1.5.1.1.2.4.4.5.4.6.6.1.3.3.2.6.6.1.1.5.2.2.4.5.4.6.

集計

	60	120	180	240	300	360	420	480	540		
1	12	21	31	40	50	56	70	75	89	16.4%	③
2	8	12	19	28	39	48	54	64	73	13.5%	⑥
3	6	19	33	39	49	58	69	80	86	15.9%	④
4	10	20	31	40	53	71	79	90	99	18.3%	②
5	13	24	34	45	55	62	70	78	85	15.7%	⑤
6	11	24	32	48	54	65	78	93	108	20%	①

結果… 1回目も2回目も正確率が $\frac{1}{6}$ にはならなかった。  
一番多かったのは、6である。2つの実験で  
ほぼ同じなのは、3、5、6である。  
つまり「仮説通り」にはいかなかった。

考察… なぜこのような結果になったのかというと  
サイコロの穴のあき具合の微妙な差によって  
それぞれの面の重さが変わったんだろうと思います。  
重い面から落ちていくのだから、6が多く出たと  
いうことは、1の面が重かったということになると思う。  
サイコロの数を表わす丸の掘り具合によって正しい  
サイコロとなるのではないだろうか。  
つまり、6の数の面なら、一つの穴が1gなら、  
5の面の穴は1つ、1.2g、4の面の穴は1つ、1.5g、  
3の面の穴は1つ、2g、2の面の穴は1つ、6g、  
1の面の穴は1つ、6gになる。  
全部、正確に削られていたら、きれいに  
 $\frac{1}{6}$ の確率でサイコロの目を出すことができると思う。

# 道の長さ と 面積

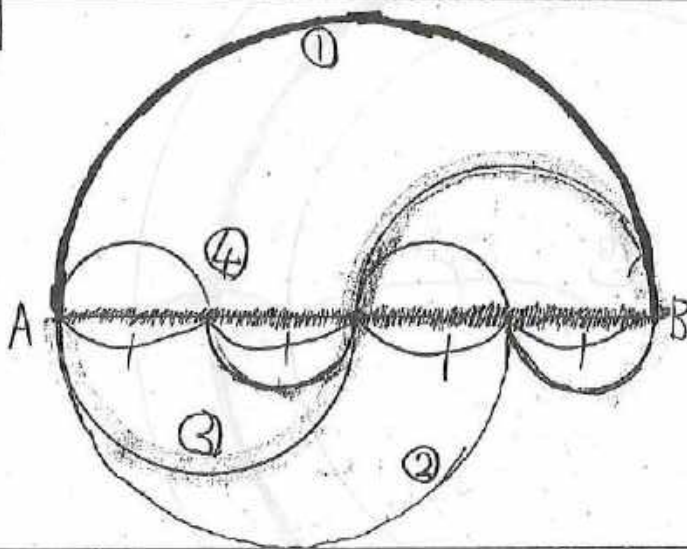
レポートのあらすじ・取り組み

math-cut & M.O.S.M.M の挑戦状の中から、  
簡単そうな問題を選んでやりました。

レポートの内容

問1 公園に図のような道をつけます。道は円周です。  
どの道が一番近いでしょう。

図



- ①の道
  - ②の道
  - ③の道
  - ④の道
- 全部で、4にする

この問題は、どの道を通っても道のりは同じです。

証明

AからBまでの道のりを4とおく。

すると、

①の道のりは、 $4 \times \pi \times \frac{1}{2} = 2\pi$

円周率  $\frac{180^\circ}{360^\circ}$

問1  
のつぎ

②の道のりは、 $(3+1) \times \pi \times \frac{1}{2} = 4 \times \pi \times \frac{1}{2} = 2\pi$

③の道のりは、 $(2+2) \times \pi \times \frac{1}{2} = 4 \times \pi \times \frac{1}{2} = 2\pi$

④の道のりは、 $(1+1+1+1) \times \pi \times \frac{1}{2} = 4 \times \pi \times \frac{1}{2} = 2\pi$

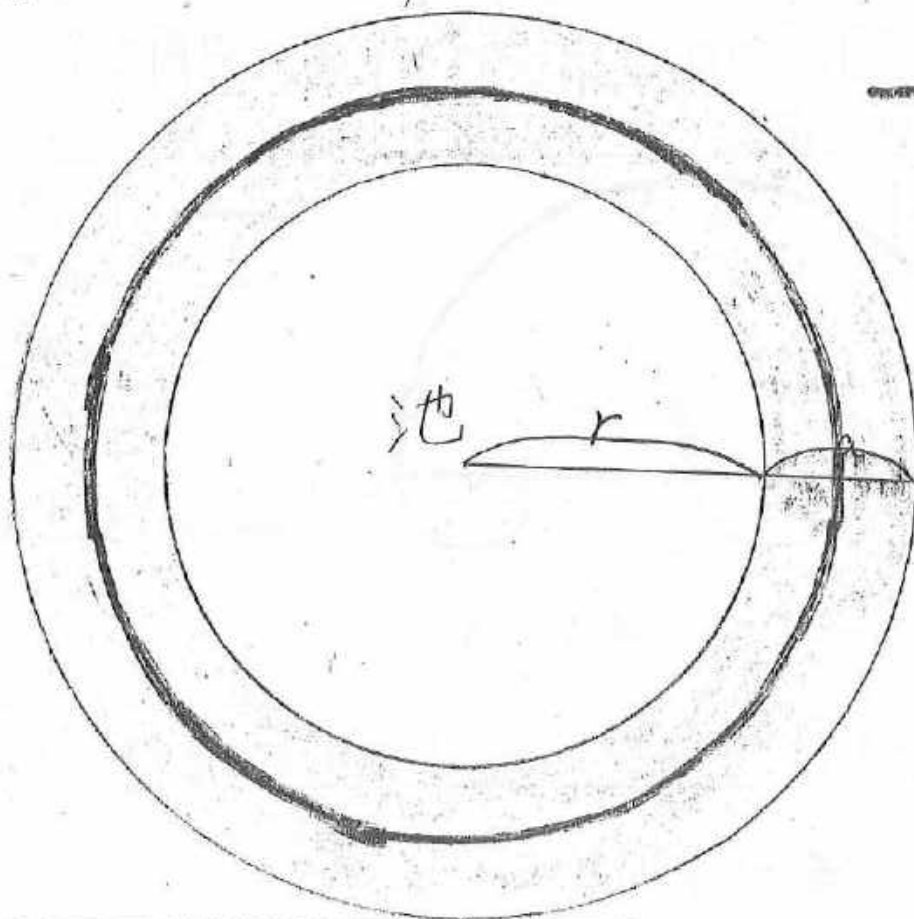
①の道、②の道、③の道、④の道、全て  $2\pi$ 。

よて、①、②、③、④の道のりは全て等しい。

問2

公園に図のような、円の形をした池があります。  
この池の周囲に、幅  $a$  の道の真ん中を通る円周の長さ  $l$  の  
道路をつけます。

図



道路の  
面積

この時、この道の面積は、 $al$  に等しくなります。

12

証明

池の半径を $r$ とおく。適当に $r=4$ ,  $a=2$ とおく、

道の面積は、

$$(r+a)^2 \times \pi - r^2 \times \pi = (4+2)^2 \times \pi - 4^2 \times \pi = 6^2 \times \pi - 4^2 \times \pi = 36\pi - 16\pi = 20\pi$$

道の真ん中を通る円周の長さ $l$ は、

$$2(r+\frac{a}{2}) \times \pi = 2(4+\frac{2}{2}) \times \pi = 2(4+1) \times \pi = 8\pi + 2\pi = 10\pi$$

$$a \times l = 2 \times 10\pi = 20\pi$$

道の面積、 $a \times l$ ともに $20\pi$ 、

よって道の面積と $a \times l$ は等しい。

問題の感想

問1に関しては、すごく簡単でした。でも、

最初、同じ長さではないかと思っていたのに、

等しかったので、びっくりしました。見た目ばかりに

惑わされてはいけないと思いました。

問2に関しては、問1と同じような気持ちに

なり、問1より少し難しかったです。

# 一筆書きが可能なときの条件

## レポートのあらすじ・取り組み

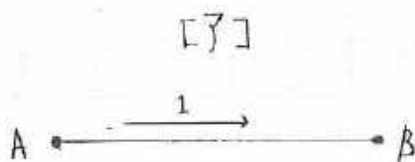
僕は、「一筆書き」ができる条件を学習しようと思います。

「一筆書き」は、一度書き始めたらペン先を紙から離さずに最後まで図形を書くことで、同じ線を何度もなぞることはできません。その一筆書きが一体どの図形で可能なのか、実験してみようと思います。

## レポートの内容

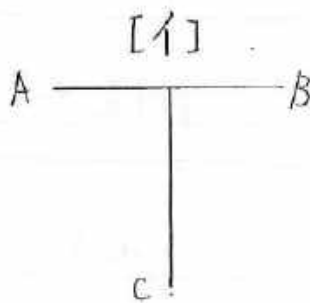
### 実験

(・印は書き始めと書き終わりの所)



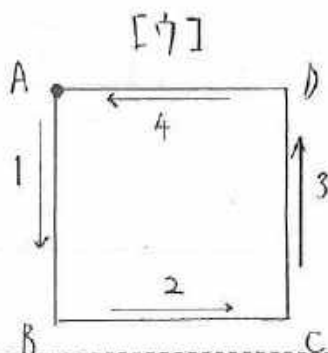
[ア] これはあたり前ですが、一筆書きができます。  
(というより、ただの線分です。)

<A→B 又は B→A の順番に書く。>



[イ] しかし、こうなると一筆書きができなくなってしまいます。

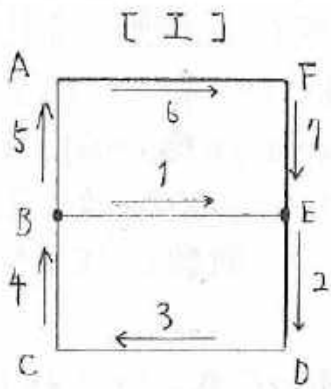
<×>



[ウ] この図形は一筆書きが可能です。

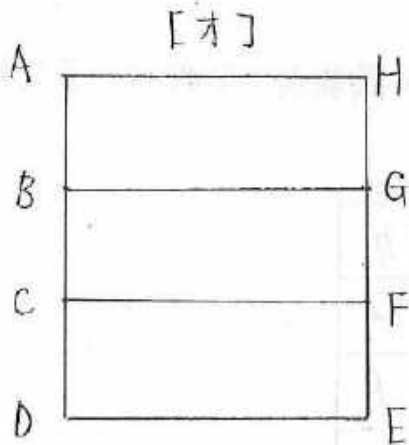
<A→B→C→D など>。



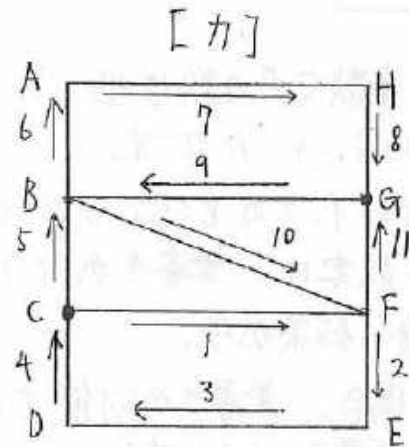


[イ] これも一筆で書けます。  
(漢字の「日」)

$\langle B \rightarrow E \rightarrow D \rightarrow C \rightarrow B \rangle$   
 $\langle A \rightarrow F \rightarrow E \text{ など} \rangle$

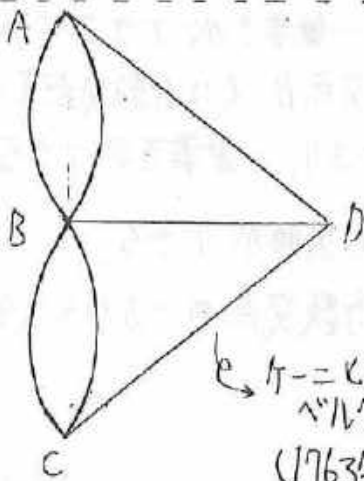


[オ] しかし、似たような図形(こっちは「目」)でも、一筆書きできないものがあります。



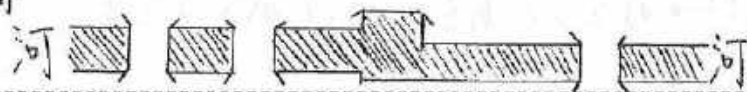
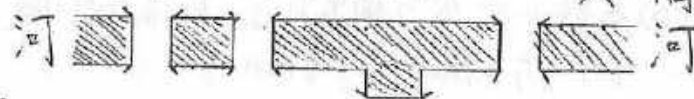
[カ] また、その反対で、一筆書きできないものに一本の線を加えるだけで一筆書きができるようになるものもあります。

$\langle C \rightarrow F \rightarrow E \rightarrow D \rightarrow C \rightarrow B \rightarrow A \rangle$   
 $\langle H \rightarrow G \rightarrow B \rightarrow F \rightarrow G \rangle$



ケ-ニスベルクの橋  
(1763年)

今度は少し形を変えてみます。実はこれ、ケ-ニスベルクというプロシアの都市の街並みを線状グラフ(線で結んだ点の集まり)で表したもののなのですが、この図形は一筆書きが不可能です。



実験のアーカや、「ケーニヒスベルクの橋」の例で、一筆書きができる共通した条件を調べたいと思います。まず、線の本数を数えてみると、アは1本、イは2本、ウは4本、エは点で分けると7本、オは10本、カは11本、そして「ケーニヒスベルクの橋」の例では線状グラフに直すと7本になり、その内一筆書きができたのはアとウとエとカです。……どうやら、線の本数は関係が無いようです。また、点の個数もオとカが同じ数ですから関係ありません。

実は、一筆書きができるかどうかは、その点に線が何本つながっているかに関係している様です。

線が奇数本つながっている交点を「奇数交点」、線が偶数本つながっている交点を「偶数交点」として、実験の結果を表にすると、

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
奇数交点の数	2	4	0	2	4	2
偶数交点の数	0	0	4	4	4	6
一筆書きが 可能か不可能か	○	×	○	○	×	○

となつて、一筆書きができるア、ウ、エ、カに注目すると、奇数交点の数は順に、2、0、2、2で、偶数交点の数は同じく順に、0、4、4、6です。

偶数交点の0、4という数字は一筆書きができないイ、オのところにもあるのですが、関係は無さそうですが、奇数交点の数の0、2という数字は一筆書きができるア、ウ、エ、カの特有のものであります。したがって、この実験の結果から、

「奇数交点はその図形の中に0個、もしくは2個ある場合、一筆書きが可能である」ということがわかります。また、ア、ウ、エ、カの場合を一筆書きしようとするとき、奇数交点の数が0個のときはどの点から書き始めても一筆書きができますが、奇数交点の数が2個の場合、例えば「エ」だと、奇数交点B、又は奇数交点Eから書き始め、書き終わりもそのどちらかでないといけません。つまり、一筆書きができる条件は、

- ① 奇数交点の数が0個か2個のときだけ一筆書きで図形ができる。
  - ② 奇数交点の数が2個あれば、回路の通路は、奇数交点の一方からスタートし、もう一方を終点としなければならない。
- の2つであるということがいえます。

〜 終わり 〜

エンピツ(六角エンピツ)を700回振って、出る目の確立、

レポートのあらすじ・取り組み

僕は、おもしろい数式は、できないと思ったので、

六角エンピツを振って、確立を調べようと思った、

そして五百回を七百回にバリエーションさせたのだ。

レポートの内容

後ろの70-3の表の結果、

①  $\frac{126}{700} \times 100$  18% 3位 (126個)

②  $\frac{106}{700} \times 100$  15.14% 5位 (106個)

③  $\frac{135}{700} \times 100$  19.28% 1位 (135個)

④  $\frac{119}{700} \times 100$  17.14% 4位 (119個)

⑤  $\frac{100}{700} \times 100$  14.28% 6位 (100個)

⑥  $\frac{129}{700} \times 100$  18.4% 2位 (129個)

という結果がわかった。

結果が、こんな感じだったので、

→ 3位と身は、70-3の表の結果が、たいてい、

± 7K ]

	100					200					300			
1	3	5	4	6	3	1	2	5	5	3	2	1	4	2
2	6	2	3	4	3	1	2	3	6	5	1	3	4	3
3	2	4	1	2	1	2	4	3	1	4	6	1	6	6
4	1	5	6	3	1	3	5	3	4	6	2	3	5	1
5	4	3	5	3	5	6	4	6	2	1	4	5	1	3
6	2	1	4	2	1	4	5	5	4	3	3	4	4	4
7	3	4	5	3	2	2	4	3	6	2	1	6	5	
8	3	5	1	6	2	6	3	4	3	4	6	6	1	3
9	1	6	4	1	5	3	4	2	2	2	3	6	4	4
10	6	4	1	4	6	7	6	6	5	5	1	3	1	3
11	5	2	2	5	3	4	6	1	3	3	6	6	2	6
12	4	1	2	4	3	1	3	4	6	5	4	5	5	5
13	2	3	2	3	2	4	2	1	3	5	5	4	4	4
14	6	2	4	2	4	4	1	3	2	1	1	6	2	1
15	3	4	5	5	6	5	4	5	2	3	4	2	5	2
16	4	3	1	6	3	3	6	1	1	4	1	4	3	6
17	5	1	1	1	2	5	1	4	6	6	6	3	1	4
18	3	5	2	2	3	5	5	1	5	2	5	2	3	3
19	2	6	3	6	1	1	2	4	1	4	4	1	2	1
20	1	3	5	4	1	3	3	2	2	1	2	6	1	6
21	3	4	3	1	6	4	6	6	4	3	5	2	4	5
22	3	1	2	4	3	3	4	4	5	4	4	5	6	1
23	2	3	5	4	5	3	3	3	1	6	3	3	6	3
24	1	6	5	3	2	6	2	1	3	5	1	4	1	4
25	5	5	6	5	3	2	1	4	5	2	4	1	2	1

A-162

表 2

	800				600				900				
3	1	1	2	6	2	5	1	2	2	3	6	1	4
2	4	6	5	6	2	6	5	3	5	4	3	6	1
6	2	6	5	1	4	1	2	9	3	6	4	3	4
1	5	6	5	3	5	3	4	1	4	3	2	4	3
5	6	3	3	1	1	2	3	4	5	5	6	6	5
2	3	3	3	2	3	4	5	2	5	1	2	1	6
2	4	6	5	1	3	6	6	1	3	3	6	2	1
4	2	4	3	5	4	3	1	1	3	2	4	5	6
6	6	4	5	3	2	6	3	3	2	1	1	4	3
4	6	3	2	1	3	1	5	4	1	2	4	2	6
1	5	6	6	1	5	4	4	2	3	6	3	1	2
3	3	1	1	4	4	2	2	1	2	4	3	3	5
6	4	5	3	6	2	2	1	5	6	2	6	5	5
4	3	2	2	3	4	6	3	1	5	5	3	4	4
2	3	2	4	6	2	3	6	6	2	2	5	4	1
5	1	1	5	1	6	6	6	2	4	5	4	4	6
6	5	1	3	6	3	4	3	6	4	3	2	5	2
2	7	1	4	1	6	2	3	5	3	1	5	5	3
6	3	3	2	5	5	5	2	6	6	1	2	3	6
5	2	4	1	3	1	3	1	2	6	3	5	2	4
6	1	5	3	2	5	1	6	1	1	1	1	4	5
2	5	1	6	6	3	3	5	2	3	4	6	1	5
3	2	1	3	1	1	1	2	5	6	5	3	6	2
1	3	6	6	4	2	4	5	6	3	1	2	6	4
3	6	4	1	3	6	1	1	1	2	1	4	5	1

